通巻10号 1992年9月5日発行(毎月1回5日発行) 1992年4月20日第三種郵便物認可

理想社会

Shambhala

10

監修：最聖 麻原彰晃尊師



これであなたも超人になれる

●神秘のスーパーエネルギー "クンダリニー"を覚醒させよ!!

PART1 精神性と霊性を開発する"秘儀中の秘儀"
クンダリニー、その驚くべきパワー

PART2 古今東西の天才たちの秘密
クンダリニーで知能が飛躍的にアップ！

PART3 史上最高の能力開発法を公開
クンダリニーは超人的才能を開発する！

PART4 人間を超えた神の力を
クンダリニーで超能力を獲得せよ！

PART5 クンダリニーで"聖者の境地"へ
クンダリニーは"解脱"への道、至福への道

PART6 クンダリニーの100%活用のために
オウム真理教の修行で最短・安全に覚醒

PART7 21世紀の主人公はあなただ
クンダリニーを覚醒させた者が地球を救う！

キミはもう尊師を聴いたか?
オウム真理教ラジオ放送開始

オウム出版



世界でただ一人の最終解脱者、最聖麻原彰晃尊師が贈るミステリアスなこの2時間——。

夜11時はAM720kHz

※短波でも午後10時から放送しています。

「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」のタイアップマガジン
「えんじょい・はぴねす」定期購読募集のお知らせ

「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」が10倍楽しくなるタイアップマガジン月刊「えんじょい・・はぴねす」の定期購読をただいま大募集しています。料金は6カ月で送料込み6000円です。お申し込み・お問い合わせは、下記まで。

〒168　東京都杉並区宮前3-8-11
オウム真理教ラジオ放送　「えんじょい・・はぴねす」プレゼント係
TEL 03(3335)4965

※その他、オウム真理教ラジオ放送「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」へのご意見・ご感想などありましたら併せてお書きください。

CONTENTS

理想社会 ⑩

Shambhala
監修：最聖麻原彰晃尊師



Aum Publishing Co., Ltd.



「クンダリニー」――すべての人に眠るこの神秘のエネルギーの名を、あなたは耳にしたことがあるだろうか。
「いや、今初めて聞いた。」
この日本では、そう答える方がほとんどだろう。大部分の人は、その存在はおろか、その名も知らぬままに一生をすごし、死んでいってしまう。非常にもったいない話だ。
　もしここに、自分の金庫に大金が眠っていることに気づかぬまま貧乏な一生を終えた人がいたら、あなたはどう思うだろうか。

になれる エネルギー を覚醒させよ!!

「なんて哀れな……。」
「なんてもったいない……。」
　そう、クンダリニーをフルに活用している者から見れば、クンダリニーの存在を知らずに生活している人々などは、まさに〝宝の持ち腐れ〟。これを活用すれば、明日にでも夢のようなパワーを身につけたスーパーマンになれるというのに……。
　では、あなたの人生を一変させてしまう神秘のエネルギー、クンダリニーとは何か。その全貌を明らかにしていくことにしよう。

KUNDALINI


これであなたも超人
神秘のスーパー
"クンダリニー"



PART 1

精神性と霊性を開発する"秘儀中の秘儀"

クンダリニー、その驚くべきパワー

第一章

クンダリニー——その驚くべきパワー

クンダリニーって?

早速、クンダリニーについて麻原尊師に語っていただこう。

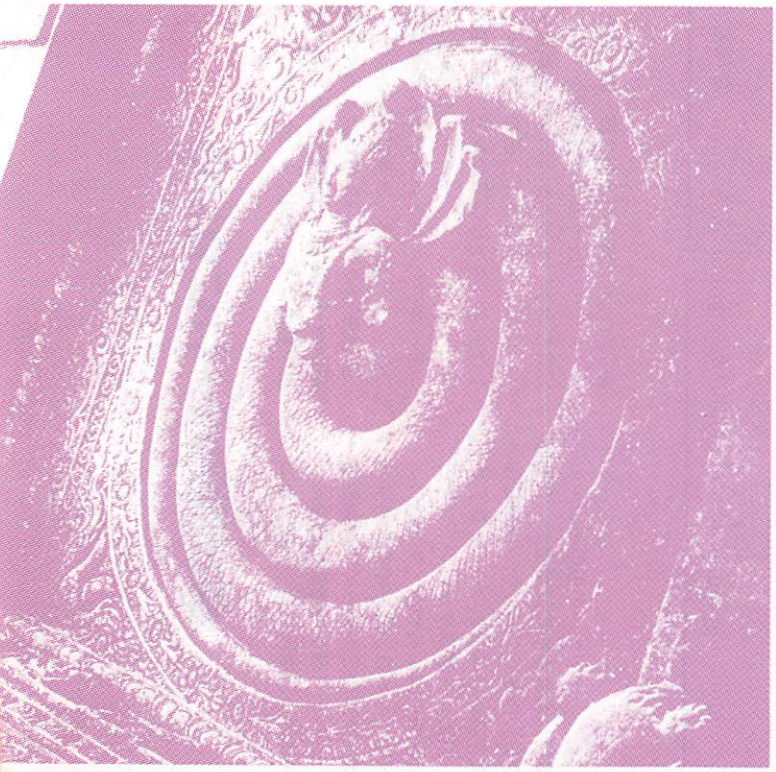
「それは、霊的なエネルギーで、人間の精神を高い次元へと押し上げる働きを持っている。すべての人が、このエネルギーを持っているのだが、眠った状態だ。」

尊師のおっしゃるように、クンダリニーは普通の人の場合は眠っており、それは尾てい骨に位置している。そして、そこからほんのわずかなエネルギーが流出して性的エネルギーとなっているだけなのが通常である。

しかし、だ。この神秘のエネルギーを全面的に覚醒させることができれば——、わたしたちは夢のような素晴らしい力を得ることができるのだ。人間を超えた神々の力と無限の智慧、つまり超能力を自由自在に操ることができ、ひいては、絶対に壊れることのない"永遠の幸福"にひたることができるのである。



尾てい骨に眠る神秘のスーパーエネルギー、クンダリニー



クンダリニーは蛇のようにとぐろを巻いているので、「サーペント・パワー（蛇の力）」ともいわれる

クンダリニーの別名──そのパワーを象徴

クンダリニーは、まるで蛇がとぐろを巻くように螺旋状になって眠っており、強烈なパワーを持っている。そして、覚醒して背骨に沿って上昇していくときには、背中が焼けるような熱感をともなう。クンダリニーが、「螺旋」を意味する古代インド語の「クンダラ」と、「燃える、焼く」を意味する「クンド」を語源としているのはそのためである。

その形状から「サーペント・パワー（蛇の力）」とも呼ばれてきたが、多くの科学者の注目を集めている現在は、様々な呼び名が奉られている。例えば、「人間の創造的な可能力」「隠れたる力」「宇宙的生命力」「宇宙エネルギー」「エネルギーの貯蔵庫」「休眠中の力」「心身相関エネルギーの中心」「蛇火」「火のような力」「世の母」等々……。尋常ならざるニックネームの数々からも、その驚くべきスーパーパワーの一端がうかがえよう。

クンダリニーで人生思うがまま

「じゃあ、そのクンダリニーを覚醒させたら、どんな得があるんだい？」

というあなたに答えよう。

はっきり言って、覚醒したクンダリニーがわたしたちにもたらしてくれるメリットは数えきれないほど多い。しかも、人生における〝最高の宝物〟をプレゼントしてくれるのだ。

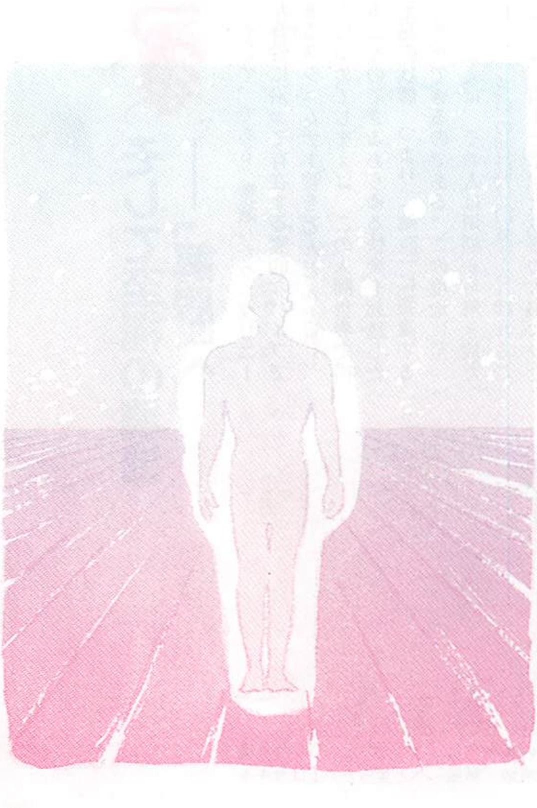
まず第一に、知能が飛躍的にアップする。頭の回転が速くなり、一度覚えたら忘れない超記憶力、強靭な意志力、精神力、集中力、鋭いインスピレーションが得られ、一夜にしてアインシュタイン顔負けの大天才に変身してしまう。

そして肉体を超健康体にしてくれる。気力や体力が充実し、エネルギッシュになる。睡眠時間が短かくなり、一日三時間の睡眠でも平気。仕事も徹夜でバリバリこなせる。疲労もすぐに回復し、ストレスが五分で解消される。それに、どんな病気もへっちゃらだ。ガンやエイズも恐れるに足りず。

さらに、詩的センスが身につき、異性にモテモテになる。学問、才能に優れるようになる。地位、名誉を楽々と得ることができる。そしてあらゆる現世的な願望がかなえられるようになる。この世は思うがまま、バラ色の人生があなたを待っているのだ。

「信じられない……」

そんな声が聞こえてきそうだが、いやいやそれだけで驚いてはいけない。

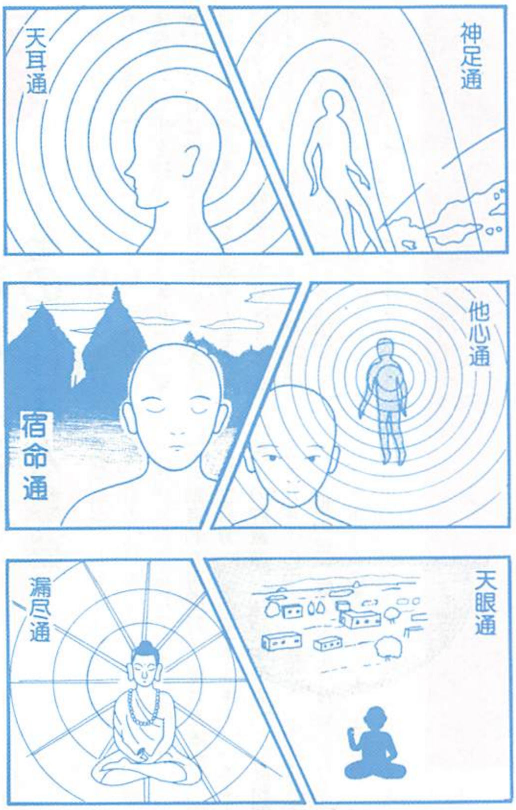


クンダリニーで超能力者

というのも、クンダリニーは人間を超えた神の力――超能力（神通力）をも獲得させてくれるのだ。有名な空中浮揚、予言能力、透視能力、テレパシー、念力、幽体離脱はもちろんのこと、仏教でいう「六神通」、つまり、

・神足通（化身を抜け出させ、行きたいところに自由に行く力）
・天耳通（遠くや近くの音、あるいは天界や人間界の声を聞く力）
・他心通（他の魂の心の働きを、その魂自身が気づかない潜在的な部分まで含めて認識し理解する力）
・宿命通（自分や他人の前世を知る力）
・死生智（自分や他人のカルマがどのように現われ、そして来世が形成されるのかということを理解する力）
・漏尽通（完全なる絶対なる神の叡智

を獲得することができるのだ（六神通の詳細は、最聖麻原彰晃尊師著『超越神力1～4』を参照のこと）。



クンダリニーの力で、あなたも超能力者になれる!!

そして至福の境地――「解脱」へ

そして、である。覚醒したクンダリニーが背骨に沿って存在する霊的なパイプであるスシュムナー管をどんどん上昇し、上りつめてしまえば、この人間世界で得ることのできるあらゆる快楽を超越した至高の状態、つまり、「解脱」に到達することができるのである。この境地に至ってしまえば、その人は煩悩から解き放たれ、いっさいの苦悩は消滅する。壊れることのない自由と幸福と歓喜の大海にひたりきり、実体のないこの世の快楽などたちまち色あせて見えてしまうようになる。

これこそ、仏教の開祖・真理勝者サキャ神賢（釈迦牟尼如来）をはじめとする古今東西の聖者たちが到達し、世界中の修行者たちが目標としている〝魂の最高の境地〟なのである。そして、これこそが、わたしたちの人生における〝最高の宝物〟であることはいうまでもない。

事実、自らのクンダリニー体験を書物にして紹介し、クンダリニー研究で世界的に有名になったインドのゴーピ・クリシュナも、次のように述べている。

「クンダリニーが目覚めたのちは……目まぐるしい変化と成長をくり返すこの世界から、現実と夢との間ほどもかけ離れた新しい世界に入っていく……人間は感覚器官の支配から脱して精神的な存在となり、自由に天上界に昇れるようになる」（『クンダリニー』平河出版社　より）

書籍案内

『超越神力 PART1』天耳通・他心通
神々の声や遠くの音を聞くことのできる天耳通。他人の心を手に取るように読んでしまう他心通。今明らかになるこの超越神力のすべて。修行によって、あなたもこの素晴らしい力を持つことができる。



『超越神力 PART2』
前生を知れ！ 死生智の秘密
『超越神力 PART3』
完全なる絶対なる神の叡智、漏尽通
『超越神力 PART4』
わたしは見た！ これが尊師の超越神力


古今東西の聖者方は、クンダリニーの力で魂の最高の境地〝解脱〟へと至った。上はサキャ神賢

第二章

クンダリニーは人類共通の最奥儀

古今東西に認められるクンダリニー

まさに夢のような世界を実現してくれるクンダリニーだが、「本当にそんなものあるのか？　幻か気のせいじゃないのか？　あるとしても特別な人間だけにしかないんじゃないか？」といぶかる方もいらっしゃるかもしれない。

確かに、もしクンダリニーが、特定の時代と場所の人々によってしか経験されていないものならば、その存在は疑わしく、存在しているとしても特殊なものに感じられるかもしれない。しかし、だ。医学的、解剖学的、生理学的には存在していないはずのこの霊的エネルギーが、次のように、古今東西の宗教や文明には共通して描かれているのである。

あらゆる宗教に記されているクンダリニー

◉本場インド・ヨーガでは

まず、神秘の国インド。クンダリニーの語源が古代インド語からきているように、クンダリニーの〝本場〟はインドだとよくいわれる。事実、紀元前二〇〇〇年から五〇〇年にかけて成立した『ヴェーダ』（古代インドのバラモン教の根本教典）には、すでに、

「人の中に眠るコブラ（蛇）が目覚めて走り上るとき、人は神に目覚める」

と書かれており、また『バガヴァット・ギーター』の中にも、

「我は力なり、神なり、クンダリニーなり」

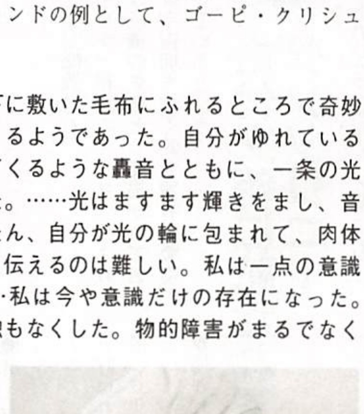
という記述がある。

このように、古来からクンダリニーのパワーを知っていたインド人は、クンダリニーを活用して超人へ至るための〝クンダリニー・ヨーガ〟を開発し、数千年にわたってその秘儀を語り継いできた。そして現在も熱心なヨーガ修行者がインド全土にあふれていることは皆さんご存じのとおりである。

本場インドのクンダリニー体験

尾てい骨に眠るクンダリニーが覚醒して上昇すると、わたしたちは物質世界を超越した至福の境地へと至ることができる。ここでは、本場インドの例として、ゴーピ・クリシュナの体験を紹介しよう。

突然尾てい骨の先端、結跏趺座をしている身体が下に敷いた毛布にふれるところで奇妙な感覚が走った。……その感覚はだんだん上昇してくるようであった。自分がゆれているような感じがしてきた。……すると突然、滝が落ちてくるような轟音とともに、一条の光の流れが脊髄を伝わって脳天にまで達するのを感じた。……光はますます輝きをまし、音もだんだん大きくなった。身体がぐらっとゆれたとたん、自分が光の輪に包まれて、肉体の外にぬけでた感じがした。このありさまをはっきり伝えるのは難しい。私は一点の意識となり、広々とした光の海の中にひたっていた。……私は今や意識だけの存在になった。身体の輪郭もなければ内臓もない。感官からくる感触もなくした。物的障害がまるでなくて、四方八方にどこまでも拡がる空間が同時に意識できるような光の海につかっていた。私はもはや、私ではなくなっていた。もっと正確にいえば、私は肉体の中に閉じ込められた点のように小さな意識ではなかった。点にしかすぎない肉体を包み込む大きな意識の輪が私であった。そして筆舌につくせない歓喜と至福の明るい海に没入していた。（前掲書より）



ゴーピ・クリシュナ

このような体験は、何もインドの特別な人物に限られたことではない。古今東西の人が体験しているし、クンダリニーを覚醒させることができれば、あなたにも可能なのだ。



原始仏教にもクンダリニーが……
←クンダリニーの力でもり上がったサキャ神賢の頭頂

◉原始仏教にも

そして、原始仏教にもクンダリニーを認めることができるのだ。もっとも仏教の源流はヨーガなので当然かもしれないが、間違った仏教を信じている大部分の日本人にはこの事実は知られていない。

仏教の開祖サキャ神賢の教えを遺す最古の原始仏典『阿含経』には「縁起の法」という法則があるのだが、この法則にはクンダリニー・ヨーガのプロセスが表わされていたのである。詳細はPART5で述べるので、そちらをご覧いただきたい。

なお、あなたも、サキャ神賢の頭にコブのような盛り上がりがあるのを仏像などで見たことがあるだろうが、あれはクンダリニーが上昇して頭頂にまで達したときにできるものなのだ。サキャ神賢がクンダリニーを活用されていたことを示す証拠である（右図参照）。



原始キリスト教にもクンダリニー覚醒の修行があった

◉初期キリスト教にも

そして、あのキリスト教にもクンダリニーが認められると言ったらびっくりされるだろうか。実は、〝原始キリスト教〟と呼ばれるコプト教に、クンダリニーを覚醒させて高次元の生命体に至るための修行法が存在しているのだ。

コプト教とは、キリスト教が発祥した直後にエジプトに入り、そのまま現在にまで伝えられている宗教であり、ヨーロッパ方面へ展開したキリスト教が政治権力の干渉や土俗宗教との融合によって原型を失っていったのと違って、本来のキリスト教の修行を忠実に保っているといわれる（詳細は、最聖麻原彰晃尊師著『古代エジプトの秘儀を解く――甦るクンダリニー・ヨーガ文明』オウム出版 を参照のこと）。

事実、聖書を読むと、イエス・キリストが予言や遠隔透視、水上歩行等の様々な神通力を駆使していることがわかるが、それらの不思議な力はみなヨーガ修行によって得られるものなのである。このような事実から、イエスがヨーガの修行を行なって、クンダリニーを活用していたことは明らかなのだ。

◉アイルランドにも

アイルランドには「ミュアーダックの十字架」と呼ばれるものがあり、そこには二匹の蛇が三人の聖人の頭部をめぐって上昇、下降し、その上に神の手が示されているレリーフが彫られているという。この三人の聖人は生命の力に関して修練を積み、〝蛇の秘密〟を会得した人物だということである。この蛇というのがクンダリニーを指していることはいうまでもなかろう。

◉ギリシャの秘教にも

また、ギリシャ秘教のオルフェウス教でも、蛇は秘儀の象徴として描かれており、彼らは宇宙卵を抱く蛇を賢者の象徴として使っているという。

◉オーストラリアにも

また、オーストラリアの原住民たちによると、大きな石や岩山には「力の中枢」と呼ばれる場所があり、そこにいると呪的パワーを含むさまざまな力が得られるというが、不思議なことに、そこには蛇が描かれているという。

古代文明に記されているクンダリニー

◉エジプトのピラミッド文明にも

さて、世界中の宗教のみならず、古代の文明にもクンダリニーの姿を見ることができる。

まず、あの大ピラミッドで有名な古代エジプト文明がそうである。というのも、カイロから六百キロほど南下したところに「ハトホル神殿」というプトレマイオス朝末期の神殿があるのだが、そこには驚くべきことに、クンダリニーのエネルギーによって解脱へと至るクンダリニー・ヨーガと全く同一の象徴が記されているのである。

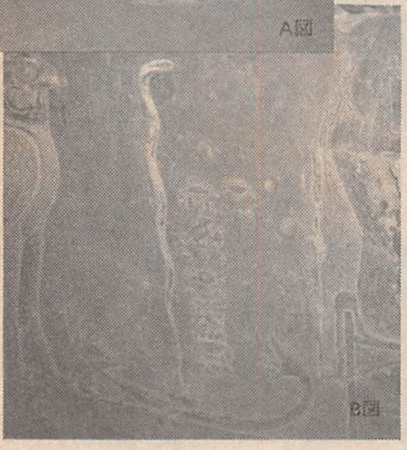
例えば、列柱室の柱には三本の蓮の花が彫られているのだが（A図参照）、こ

の蓮の花は〝ザハスラーラ・チァクラ〟という最高位の霊的センター、ひいてはヨーガの象徴であり、この本数もクンダリニー・ヨーガで最も重要な三本の気道（霊的エネルギーを通す管／一七頁参照）を意味しているとしか考えられないのだ。

　そして地下室には、なんと、蓮の花から天に向かって立ち昇っている蛇のレリーフがあったのである（B図参照）。蛇がクンダリニーの象徴であることはすでに述べたとおり。尾てい骨にとぐろを巻いているのと、それが覚醒して上昇するとき蛇のようにシュッと飛び上がるからである。蓮の花から天に立ち昇る蛇――たったこれだけの絵で、クンダリニー・ヨーガのクンダリニーの動きが語り尽くされているのだ。

　また、神殿の他のあちこちの箇所にも、クンダリニー・ヨーガの修行法やプロセスの象徴が数多く記されており、古代エジプト人がクンダリニーの存在に気づき、それを活用していたのは間違いないといえよう（詳細は、前掲『古代エジプトの秘儀を解く』を参照のこと）。






↑エジプトにクンダリニーの文明が存在したことを物語るハトホル神殿

↓クンダリニー・ヨーガのプロセスが絵文字で記されていた


◉古代メソポタミア文明にも

　さらに、古代メソポタミア文明のものに「誘惑の印璽」という宗教的遺物があり、これには大地母神ガラ・パウと彼女のパワーを示す象徴として、蛇が描かれているという。

すべての宗教の最奥儀

　このような事実について、アメリカの科学専門・精神世界雑誌の誌上でよく知られているジョン・ホワイトは、

「世界中のほとんどの大宗教や、精神的な修行の道や、また本格的なオカルトの伝統の中で見られるいわゆる『神がかり』の現象の中には、このクンダリニーの体験に非常によく似たものが認められる。……クンダリニーに相当するものは存在しているのであり、さまざまな名称を纏ってはいるが、それらは神の如き状態に達するための鍵として理解されている。」（『クンダリニーとは何か』めるくまーる社より）

と語っている。

　このように、クンダリニーは古今東西の宗教や文明に共通して確認することができるのだ。これは、この神秘のエネルギーが確実に存在しており、しかも、いつの時代のどこのだれにでも――もちろんあなたにも――存在する普遍的なエネルギーであることを示す何よりの証拠といえよう。現に最近では、クンダリニーを科学的に探求しようという動きが科学者の間で目立ち始めている。

　ところで麻原尊師は、

「宗教の本質は一つの流れに属している」とおっしゃっているが、それは古今東西の宗教が等しく超越的なパワーを開発し、そこから何らかの結果を得るためにクンダリニーを活用してきたところからも明らかである。

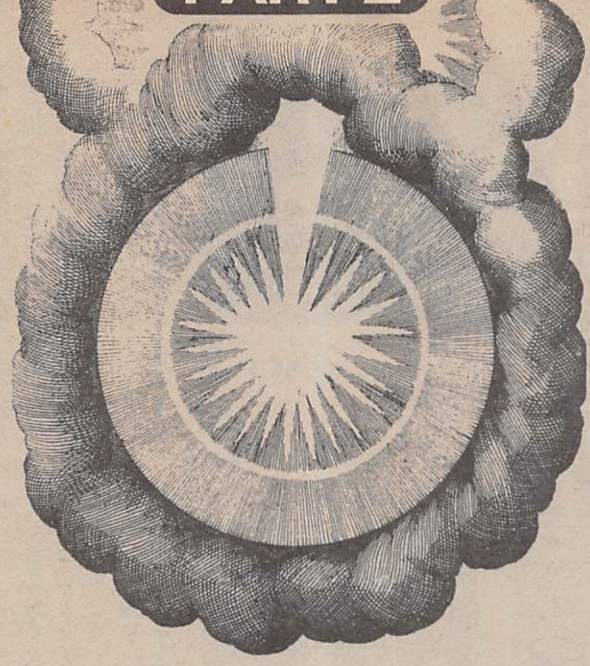
　つまり、クンダリニーこそあらゆる宗教の〝最高の奥義〟であり、人間の精神性や霊性を開発する〝秘儀中の秘儀〟に他ならない。

　古今東西の政治・宗教の指導者たちやインドヨーギ、現代の科学者たちも熱い注目を寄せてきたクンダリニー。彼らが人生のすべてを投げ捨ててでも覚醒させようと努めてきた神秘のエネルギー、クンダリニー。もし、あなたがスーパーパワーを身につけ、あらゆる願望を成就させ、世界中の宗教の最奥義を極めようと思えば、このクンダリニーを覚醒させる以外に方法はない。

　さて、PART2からは、無限の可能性を秘めたこのエネルギーの恩恵について詳しく見ていくことにしよう。

PART 2

クンダリニーで知能が飛躍的にアップ！



古今東西の天才たちの秘密



クンダリニーでスーパーマンの頭脳に

「もっと頭が良かったらなあ……。」

だれもが一度はこう思ったことがあるだろう。特に各種の試験を控えている受験生にとっては、知能の向上は緊急かつ至上の命題である。なにせ、頭の良し悪しがこれからの人生を大きく左右するのだから。

でも、クンダリニーを覚醒させることができれば、そんな悩みは一発で解消する。なぜならば、クンダリニーのパワーで知能が飛躍的にアップしてしまうからだ。クンダリニーには、ストレスをエネルギーに変えて昇華するという働きがあるのだが、ここに知能向上の秘密が隠されている。麻原尊師はこの働きについて、

「上昇のエネルギーが、完全に頭頂を突き抜けたとき、エネルギーと知性は合一する。これは、上昇したエネルギーが大脳を振動させ、特殊な働きをさせるようになるということです。そして、エネルギーと知性が合一した瞬間、その人はスーパーマンになるんだね。このスーパーマンの頭脳は明晰だ。偉大な科学者にだってなることができる。」（最聖麻原彰晃尊師著『マハーヤーナ・スートラ』オウム出版より）

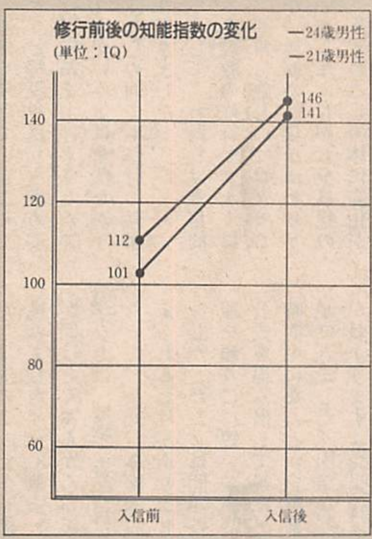
とおっしゃっている。

事実、オウム真理教の修行によってクンダリニーを覚醒させた人々は皆一様に「意識がクリアになった」「頭がいつもさえわたっている」「記憶力が抜群に良くなった」「集中力が継続するようになった」と口をそろえて述べているのだ。これは決して気のせいなどではない。論より証拠。データを示そう。



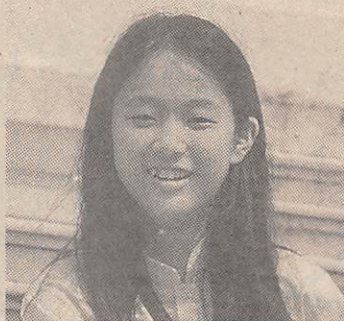
クンダリニーで知能指数が向上！

まず、クンダリニー開発前後でどれだけ知能に変化が出るかを数値的に確かめるために、学生修行者によるＩＱテスト（A. W. Munxert, J. E. Klausnizer のもの）が行なわれた。その結果、左図をご覧くださればおわかりのとおり、両者とも驚くほどＩＱ値が上昇しているのだ。





聖者ヤソーダラー最上善逝によるシャクティーパット



ドゥルガー

また、オウム真理教には、クンダリニーを安全確実に覚醒させるイニシエーション（秘儀伝授・解脱者によるエネルギー移入）として「シャクティーパット」というものがあるが（詳細はＰＡＲＴ６参照）、九一年四月四日、オウム真理教のヤソーダラー正大師（当時は正悟師）が行なったシャクティーパットの前後に体験者たちに知能テストを行なってもらったところ、この実験に参加してくださった方々全員が、なんとシャクティーパットの後に飛躍的なＩＱの伸びを見せたのである。

このとき実験に快く参加してくださったのは五人の在家修行者の方で、わたしたちが用意したのは『田中Ｂ式』『牛島式』の二種類の知能テスト。規格が異なるため本来なら単純に比較できないところだが、『田中Ｂ式』が偏差値五〇をＩＱ一〇〇、『牛島式』が偏差値五〇をＩＱ一〇七・八で計算し、できる限り正確な値を出そうと試みた。

その結果、得られたのはまさしくクンダリニーのパワーを表わす驚異的な数字だった。最も成績の良かったＣ君がＩＱ一一四からＩＱ一二九へアップ、そしてＤ君もＩＱ一一二からＩＱ一二三と驚くべき伸びを見せたのである。さらに、五人の平均を見ても全員がシャクティーパット後に軒並みＩＱをアップさせ、その上昇平均値が一一という高い数値を表わしているのである。これではどう厳しく見積っても、クンダリニーが知能にもたらす効果は疑いようがない。

また、クンダリニー・ヨーガの成就者であり、尊師の長女であるドゥルガー（十四歳）も知能指数が一七五という超天才の数字を示している。

クンダリニー覚醒で成績急上昇！――オウム真理教の修行者体験談

さて、驚くべきクンダリニーの効果を示すもっと具体的な例を紹介しよう。以下に挙げるのは、以前はパッとしない頭だったが入信後の修行でクンダリニーを覚醒させ、明析な頭脳を得たオウム真理教の修行者の体験談である。

◉武田健（二十二歳　東京都）



わたしは高校のころ勉強が大嫌いでした。そのため、成績はクラスの後ろから十番以内を常に〝キープ〟していました。テストで０点をとったことも何度かありました。

オウム真理教に入信したのは高校二年のころです。入信してすぐにダルドリー・シッディ（空中浮揚の前段階）が起きた



り、様々な神秘体験・心の変化等を通して「本物」との確信を深めていきました。わたしはもともと解脱や悟りを求めていたので、修行で成績を上げようとか知能を高くしようとかいう気は全然なかったのですが、こちらの面でも修行の効果は確実に現われてきました。

入信後しばらくして、わたしは十日間の日程でオウム真理教の修行セミナーに参加しました。非常に厳しいプログラムだったのですが、最初の何日かはわりと楽にこなせていました。しかし全日程の半ばを過ぎるころ、わたしの体に変化が起き始めました。強烈な熱と悪寒が交互に襲ってきたのです。尊師のご著書にある、クンダリニー覚醒時に起きるという現象そのままです。この集中修行を境に、わたしの心と体に様々な変化が訪れました。まさに新生、心と体が高い次元に移行して行くような感じでした。

さて、集中修行のすぐ後に学校で学年全体の実力テストがあったのですが、わたしは例のごとく全く勉強せず、試験に挑みました。全く勉強していないので、問題はちんぷんかんぷんです。例えば数学などは、授業を真面目に聞いていなかったので、公式自体を知らず、普通なら答えられるわけがありません。

しかしわたしは問題の中の数少ない情報を頼りに、短い試験時間の間に自分で公式を編み出して答を出していきました。時間中になんとか全解答を記入することができました。国語などはすらすら答えがわかります。英語や科学は、数学と同じように数少ない情報から答えを割り出していきました。社会科ばかりは勉強していないといかんともしがたいので、インスピレーションで答えを書いていきました。

そして数日後、試験結果の発表が廊下に張り出されました。「さーて、トップはだれかなあ」などと思いながらおもむろに見上げた次の瞬間、予期せぬ映像がわたしの眼球に映し出されました。なんとそこにはわたしの名前があったのです。わたし自身より驚いたのは周りの友達たちでした。なにせいつもクラスでもワースト・テンに入るような成績を取り続けていたわたしが、いきなり学年トップですから……。友達がわたしに浴びせた言葉は「神秘的」でした。

明らかに以前に比べて知能・分析力・集中力・インスピレーション等が格段にアップしていました。クンダリニーが覚醒するとそのエネルギーが大脳を刺激し、特殊な天才型の頭脳を形成するということは聞いていましたが、こんなにも現実に顕著な結果が現われるとは思いませんでした。気がつくと頭頂にはクンダリニー覚醒の証である肉げい（クンダリニーが上昇し、頭頂に達したときに頭頂が物理的に盛り上がる）ができていました。

◉溝口博文（二十一歳　広島県）



高校時代にオウム真理教に入信するまではパッとしなかった成績でしたが、ヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマやビパリータ・カラニー（知能を向上させる働きがあるヨーガ行法）などを行ない始めてから集中力がつき始め、短い時間でたくさんのことを覚えることができるようになりました。また、長時間の勉強も平気になり、飽きることなく集中できるようになりました。

また、各教科ごとに分析して問題を予想することができるようになり、そのときから「あれ、おかしいな」と思うほど成績が上がり始め、中学の時は二百五十人中二百四十番ほどのひどい成績だったのですが、だんだん十番、五番、一番と上がっていって、高校三年のときは、最後の期末テストを除いてずっと一番でした。しかも、最後のテストでわたしの代わりに一番になったのは、同じ日にオウム真理教に入信した友人だったのです。このとき、クンダリニーのパワーに驚くとともに、それを覚醒させることのできるオウム真理教の修行はすごいと思ったのでした。



知能を向上させるヨーガの秘法、ビバリータ・カラニー、詳細は最聖麻原彰晃尊師著『生死を超える』（オウム出版）を参照

◉石川公一（二十四歳　徳島県）



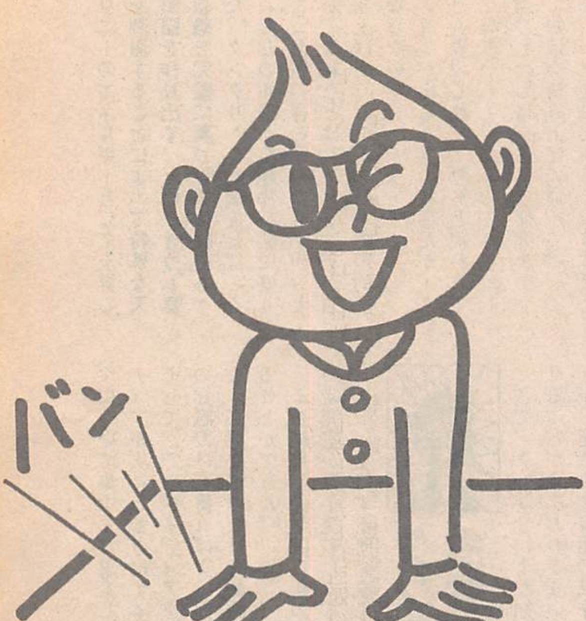
わたしのクンダリニー、それはオウム真理教の集中修行中に劇的に覚醒しました。瞑想中に頭頂に意識を集中していると、次第に気持ちが良くなってきて、そして自然と体が跳ね出したのです。これはヨーガ経典にも記されている〝ダルドリー・シッディ〟という超能力の一種で、クンダリニーのエネルギーが覚醒して上昇する際に起きる現象なのです。

さて、それからというもの、わたしの頭脳には予期せぬ〝大革命〟が起こりました。発想力が格段に豊かになったのです。わたしは企画を立案する仕事を行なっているのですが、それまではいくら頭をひねっても出てこなかったような斬新奇抜なアイデアが、面白いようにボンボン頭から飛び出してくるようになったのです。アイデアがあふれ出してくるときは、まる**で稲妻のような衝撃が脳のあちこちを鋭く刺激しているような感じです。そして意識は高揚し、明らかにクンダリニーのエネルギーが上昇しているのを実感します。**

さらに、雄弁にもなりました。わたしはこれまでは訥々としかしゃべれなかったのですが、ここ一番という重要な場面になると頭がジーンとしてきて、突然〝発火〟し（この表現が最も適切だと思います）、立て板に水を流すかのようにスラスラと力強く話せるようになったのです。そのとき頭はさえわたり、論理的思考、超論理的思考が瞬時にできるようになるのです。まるで超高性能のモーターが全力回転しているかのように……。わたしは人を説得しなければならない場面が多いのですが、この能力によって多くの人たちがわたしの意見を受け入れて協力してくれるようにもなったのです。

ちなみに、わたしが〝発火〟して雄弁になったとき、一度体温を計ってみたことがあるのですが、そのときの体温計は三七度を指していました。わたしの常温は三六度前後ですから、明らかに体温は一度前後も上昇していたことになります。**これはクンダリニーの熱のエネルギーが影響を及ぼしていたからでしょう。**

その他にも、話もしないのに相手の趣味や傾向が直感的にわかったりするようになり、クンダリニーの力によるわたしの頭脳の大革命には驚かされるばかりです。



◉土谷正実（二十七歳　茨城県）



麻原尊師を意識した瞬間、突然蓮華座を組んだままの姿勢で体が振動し始めた。突然訪れたクンダリニーの覚醒。オウム真理教に巡り合ってからわずか三時間後の出来事であった。

当時わたしは大学院で研究生活を送っていた。わたしの研究室では有機物理化学という分野の研究が行なわれていて、その分野に関しては世界的にも有名だった。そんなときに訪れたクンダリニーの覚醒。それを境にわたしの研究は目覚ましい成果を上げはじめた。

まず性欲が消え、食欲・睡眠欲も激減し、短眠で一日中エネルギッシュに活動できるようになった。それに付随して集中力が増大し、研究上のアイディアが次々と思い浮かぶようになった。これなどはまさに、**食欲・性欲といったストレスが**



クンダリニーのエネルギーとして上昇して大脳を刺激することによって特殊な天才型の頭脳を作り出す、というオウム真理教の教義を完璧に裏づける体験であった。また、クンダリニー覚醒後しばらくして、わたしの頭頂が突起物状態に盛り上がった（お釈迦様の頭の盛り上がりと同じ）が、これなどはクンダリニーが頭頂に突き上げてくることを示す物理的証拠に他ならない。

アイディアが出るときの状態だが、これが何とも表現し難く、忽然と現われてくるとしか言いようがない。クンダリニー覚醒以前のわたしは、一つの研究テーマに対して知識を積み上げていって、そこからアイディアを抽出するという作業を行なっていた。よって結果的に無駄な知識の蓄積やそれに伴う時間的損失は避けられなかった。しかし覚醒後は、研究テーマについて集中して思索しているとアイディアが次々とわき出てくるのだった。


クンダリニーのパワーで宙を舞う土谷正実さん

そして、そのアイディアを確立するための知識だけを得ればよいのだから、無駄なく必要な情報だけを知識として吸収することができた。

その結果、大学院三年のとき、わたしの研究室が長年提唱してきた理論をダイレクトに支持する研究成果をあげることができ、周囲からは将来を有望視されるようにまでなったのである。

以上の例はほんの一部にすぎない。受験生もうらやむ話だが、クンダリニー覚醒等の修行による飛躍的な知能アップの方法については、『能力覚醒の秘法を解く』（オウム真理教東大生チーム著・オウム出版）をご覧いただきたい。

クンダリニーが生んだ古今東西の天才たち

さて、クンダリニーが知能をアップさせることがよくおわかりいただけたと思うが、実は古今東西の天才といわれている人々も皆クンダリニーを覚醒させていたことを思わせる証拠があるのだ。

それは、彼ら天才に共通して見られる症状、「偏頭痛」である。この偏頭痛という病は欧米では千人いればおよそ数人かかるという病で、嘔気、下痢、めまい、蒼白などを伴い、光や騒音、振動で悪化するといわれている。この偏頭痛の初期症状がクンダリニーの覚醒状態と似ていることから、彼らがクンダリニー覚醒によってずば抜けた知能を誇っていた可能性が高い。

例えば、電話の発明者のアレクサンダー・グラハム・ベル、天才音楽家フレデリック・ショパン、「進化論」でおなじみの科学者チャールズ・ダーウィン、イギリスの女流作家ジョージ・エリオット、精神学者ジグムント・フロイト、元アメリカ大統領トーマス・ジェファーソン、哲学者イマニュエル・カントにフリードリッヒ・ニーチェ、科学的社会主義思想の産みの親カール・マルクス、そして天才作


ベル


マルクス


ダーウィン


ニーチェ


フロイト

クンダリニーの力で生み出された!? 古今東西の天才たち



クンダリニーを活用し得る者が21世紀の世界を背負う

家のエドガー・アラン・ポー、ルイス・キャロルなどなど、思いつくままに挙げてみるだけでそうそうたる名前が並ぶ。

エドガー・アラン・ポーの例を見てみよう。彼は「アニーへ」という詩の中に、次のような謎めいたことを記している。

「病痾が――嘔吐が――仮借なき激痛が――熱を堪えて沈潜し　わが脳髄を凌辱する『生』の名を借る炎熱が　わが頭骸の内を焼き盡くす　／　そして、嗚呼、この悉くの苦痛　苛烈きわまりなき苦痛が　衰微すると――次は兇るべき　渇きの苦悶に見舞われる　／　この忌むべき熱狂の　ナフタリンの河を鎮めんがため　われはひと滴の水を口にふくむ　その束の間、渇きは癒される……」（『クンダリニーとは何か』めるくまーる社より）

これは、そのまま読むと何が何だかわけがわからないが、クンダリニー覚醒の描写そのものなのである。特に、「ナフタリン」の性質がクンダリニーの現象とぴったり一致している。詳しくは後で述べるが、クンダリニーが覚醒すると、人間を超えた身体へと進化していくための準備として、一時期火に焼かれるような苦痛にさいなまれることがあるのだ。

そして、エジソンと同時代を生きた天才発明家、ニコラ・テスラ。彼の代表的な功績として「交流モーターの発明」があるが、彼が散歩中に突然そのイメージがひらめいたとき、彼の身体は左右に激しく揺れ動き、動きが止まるとトランス状態になって失神した、というのである。これは、突き上げてくるクンダリニーのエネルギーが稲妻のごとく彼の脳細胞を刺激したものとしか考えられない。

科学的社会主義思想の産みの親カール・マルクス。彼は常人では考えられないほどの猛烈な勉強によって、二十年もの歳月を費やして大作『資本論』を書き上げた。彼も偏頭痛に悩まされていたというが、これは彼の驚異的な集中力を支えていたエネルギー源がクンダリニーであることをうかがわせる事実である。



二十一世紀を背負う天才はあなただ!

このように、古今東西の天才たちの優れた頭脳の秘密はクンダリニーにあったのである。前掲のゴーピ・クリシュナも、次のように述べている。

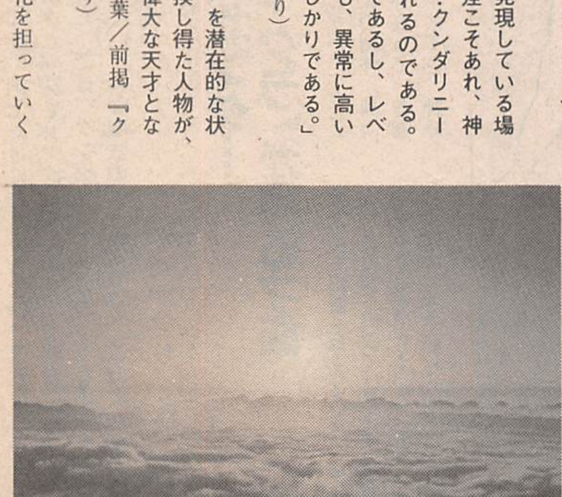
「精神的、心霊的能力が発現している場合には、超常性の程度に差こそあれ、神経系統や頭脳構造に、……クンダリニーの特殊な活動が必ず見られるのである。天才の場合がすべてそうであるし、レベルは少し低くなるにしても、異常に高い知能の持主の場合もまたしかりである。」（前掲『クンダリニー』より）

そして、

「この力（クンダリニー）を潜在的な状態から活動的な状態に転換し得た人物が、各時代や各文化における偉大な天才となる」（スワミ・ラーマの言葉／前掲『クンダリニーとは何か』より）

のである。

二十一世紀の時代と文化を担っていく偉大な天才――それは、クンダリニーを覚醒させたあなたかもしれないのだ。





PART 3

史上最高の能力開発法を公開

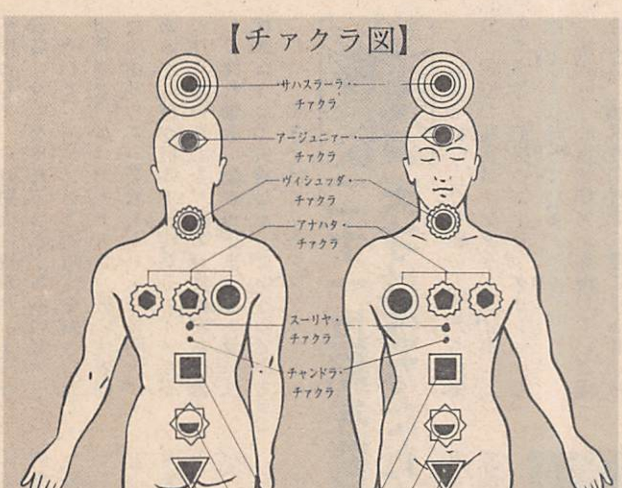
クンダリニーは超人的才能を開発する！

クンダリニーの恩恵は知能の向上だけにとどまらない。それは、わたしたちのありとあらゆる才能を次々と開花させ、昨日までの凡人を明日にもスーパーマンへと変身させてくれるのだ。では、クンダリニーはどのような才能をもたらしてくれるのだろうか。そして、そんな魔法のようなことが、どのようなプロセスによって行なわれるのだろうか。

霊的センター「チャクラ」が司る才能

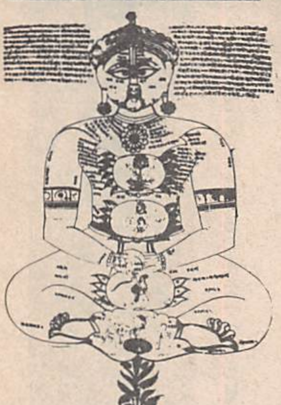
そのカギを握っているのが「チァクラ」である。チァクラとは、人の幽体（異次元に行くときの身体）に存在している霊的なセンターで、肉体のホルモン、神経系統にも影響を与えている。主なものは七つあるが、肉眼では見えず、霊視によって見ることができる。これもクンダリニーと同様に、古今東西の絵画にその記述や

【チァクラ図】











古今東西の文献に記されているチャクラの図
霊眼を開けば、あなたも見ることができる

描写が残されており、その実在は疑うべくもない。

古来より神秘的存在として注目を集め、**「人間が人間以上の存在と関わりをもつ接点」「異次元への接点」**とも呼ばれてきたチァクラだが、特に最近は科学的、生理学的にメスが入れられ、次のような説明がなされるに至っている（「ヒマラヤン・インターナショナル・インスティテュート」の創立者、指導者であり、クンダリニーやチァクラについて生理学的側面から実験研究を行なっているスワミ・ラーマの説）。

例えば電気的エネルギーは機械的エネルギーよりも精妙で、ここ二、三百年以前はまるで理解できないものだったが、それと同様に、電気的エネルギーよりも精妙で、現代科学では未知の存在であるが、身体に活力を与えている動的エネルギーに「プラーナ」と呼ばれるものがある。これは人体の中を走る七万二千本の霊的な管を電流のように流れて、肉体と心を結びつけたり、身体の組織全体を常に正常に働かせるための役割を果たしたりしている。そしてチァクラは、このエネルギーの巨大な渦巻であり、肉体の組織化をも助長しているものであり、それぞれ関係をもっている肉体的な領域に特定の影響を与えたり、その機能を高めたり、コントロールし、かつ意識の性質をも決定するものとして説明されている（前掲『クンダリニーとは何か』より）。

少々専門的な表現になってしまったようだが、要は、それは人体に確実に存在していて、「身体と心とを結ぶかけ橋」といわれているように、人間の心身に大きな影響を与えているものであるということだ。



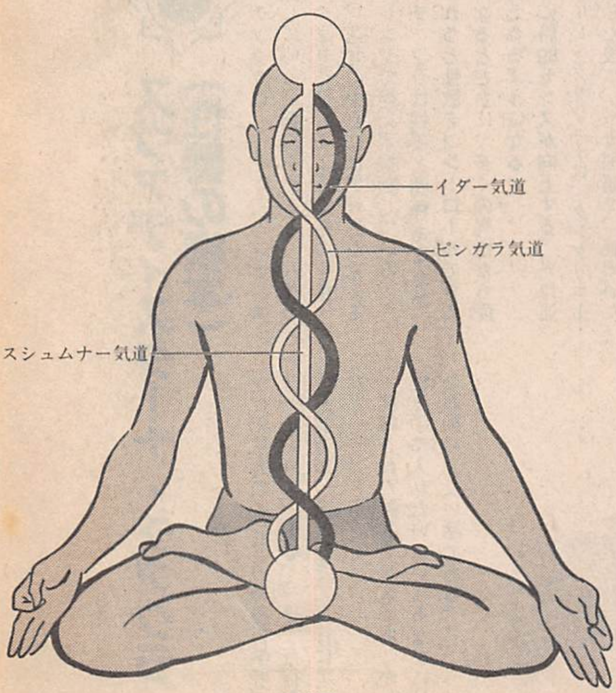
クンダリニーが扉を開く

さて、もう少し突っ込んでスーパーマンへのカギを握るチァクラについて見てみることにしよう。

チァクラは身体の下部に位置するものに比べ、上部へ行くほど次元が高くなっている。そして、各チァクラを開発することによって、それに対応する能力を身につけることができるのだ。

しかし、だ。残念ながらクンダリニーと同じように、チァクラも普通の人の場合は眠った状態で働いていない。では、どうすれば開発できるのか。

そこで登場するのが他ならぬクンダリニーなのである。修行によってクンダリニーを覚醒させて、背骨に沿って存在する霊的エネルギーを通すパイプ、スシュムナー管を上昇させていけば、チァクラは次々と開発されていく。そして、それに対応した能力が身についていくのである。



気道図

チャクラが司る能力

次に、それぞれのチャクラを開発することによって、どのような能力を身につけることができるのかを一つ一つ見てみよう。

ムーラダーラ・チャクラ（尾てい骨）

ムーラダーラ・チャクラは、霊視すると暗い赤色で逆三角形をしている。このチャクラは肉体と関係があるため、開発されると肉体が強化される。そのため健康になり、気力や体力が充実し、エネルギッシュになる。また睡眠時間も減少し、疲労しても短時間で回復するようになるのである。

事実、オウム真理教の修行者には疲れ知らずの健康体をほこり、一日三時間程度の睡眠でバリバリ仕事をこなせる人が多い。

また、修行と肉体強化の関係ついては、すでに科学的にも証明されているのである。オレゴン大学のR・モーゼスが、体育学科から選んだ生徒たちを使って行なった研究がそうだ。

彼はクンダリニー・ヨーガの実習を十週間行なった生徒たちと、ボディビル、柔道、レスリング、バスケットボール、バドミントンを十週間行なった対象群の生徒たちとを比較してみた。その結果、すべてのグループにおいて、関節の柔軟性や肺活量、止息の時間や筋肉の強さ等に能力の向上が認められたのだが、ヨーガ群の方が対象群よりも、よりいっそう顕著な向上を示したのである。そのため最近では、クンダリニー・ヨーガが多くのスポーツマンによって運動能力増進の手段として利用され始めているのだ（前掲『クンダリニーとは何か』より）。

この世界で成功を収めようと思えば、まずは健康な肉体づくりから始めねばならないことはいうまでもない。ムーラダーラ・チャクラの開発によって、病気に悩んでいるあなたには健康体を、受験生のあなたには睡眠時間の短縮を、そして忙しいサラリーマンであるあなたにはどんなストレスにもまけない強靭な肉体を得てほしいものだ（ヨーガによる難病奇病の治癒・超健康体獲得の詳細は、最聖麻原彰晃尊師著『超能力秘密のカリキュラム・健康編』を参照のこと）。

スヴァディスターナ・チャクラ（性器の根本）

このチャクラは、へそ下三センチの所に位置している。霊視をすると、八枚の花弁、つまり花びらのようなものを持っており、花弁の中心には半月形が見える。色はオレンジで絶えず振動している。

このチャクラは性器と関係あるため、開発されると性欲をコントロールできるようになるとともに、多くの異性から愛情を持たれるようになる。

さらに詩的センスが向上する。先に述べたゴーピ・クリシュナは、クンダリニーが覚醒した後に、十カ国語で、謎めいた詩を泉のように作り出す力を得ている。その中には彼が全く知らない言語さえ使われていたというのだから驚きだ。また、今世紀最大のインドの神秘哲学者、シュリ・オーロビントも、一日二百行だった作詩能力が、三十分で二百行にアップしたという。

洗練された詩的センスであこがれの異性を手に入れたいというあなたには、ぜひお勧めしたい話である。



マニプーラ・チァクラ（へそ）

へその所に位置し、形は四角形で、色は輝くような藍色である。このチァクラが開発されてくると、学問・才能の面で非常に優れるようになる。これは、PART2「クンダリニーで知能が向上する」において挙げたオウム真理教の修行者の体験談（一一～一四ページ参照）を思い返せば納得していただけるだろう。さらに、強固な意志の力が身につき、念力を獲得できるようにもなる。

学問・才能に恵まれず悩んでいる方、そして意志が弱くて何をやっても成功しない方には、ぜひこのチァクラを開発していただきたい。

アナハタ・チァクラ（胸）

アナハタ・チァクラは三つある。一つは右乳頭、もう一つは左乳頭で、残る一つは左右の乳頭を結ぶ線と正中線が交わる点にある。

左乳頭にあるアナハタ・チァクラは黄金色で、正中線上にあるものはスカイブルーである。そして、右乳頭にあるものは深紅で、形もそれぞれ違う。左が十二弁を持った六角形である。中心は十枚花弁を持った五角形、右は花弁を持たない円である。

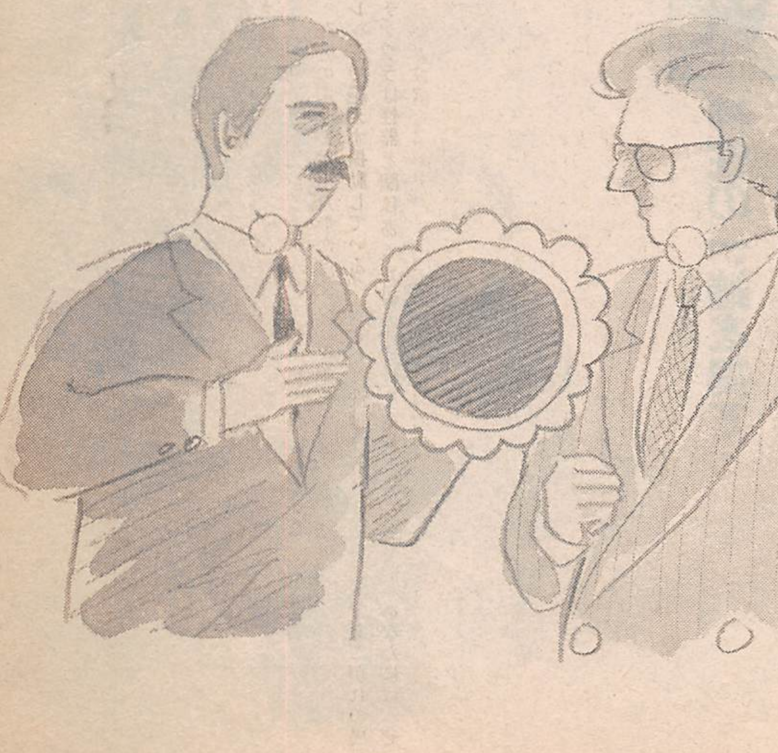
このチァクラが開発されると、名誉が得られるとともに、高貴さが身につくようになる。なぜならば、このチァクラは物質世界を超越した高位の世界へと通じているからである。名誉を得て、どことなく高貴な気品をただよわせる魅力的な人物になりたければ、まずこのチァクラを開発することだ。



ヴィシュッダ・チァクラ（喉）

このチァクラは十六枚の花弁を持っている円形である。

これが開くと、その人は地位や権力に恵まれ、高位高官に昇るようになる。その道を目指す人にはこのチァクラの開発は絶好の方法。



アージュニァー・チァクラ（眉間）

アージュニァー・チァクラの花弁は大きく分けて二枚であり、それぞれが四十八枚に細分化されている。色は白銀、形は長円形である。

このチァクラが開くと、いっさいの現世的な願望がかなうようになる。つまり、この世でかなわないことはない、この世は思うがままというわけだ。まるで王様のように。

サハスラーラ・チァクラ（大脳中央）

サハスラーラ・チァクラの色は、薄いブルーの入った白銀である。形は球状をしている。

このチァクラは修行の最終目標である「解脱」に関する至高のチァクラなので、もはや現実的な才能云々というレベルをはるかに超越している。詳しくはPART5をご覧いただきたい。

以上に述べてきたように、チァクラはそれぞれの部位にあり、それぞれの能力を司っている。なおそのチァクラが開発されていく順序は個人個人によってまちまちである。





神性の一端を得て

さて、チァクラがクンダリニーによって開発されると、夢のような能力・才能がわき出てくることがおわかりいただけただろう。クンダリニーがわたしたちの人生を一変させてくれるのは間違いない。前掲のスワミ・ラーマが次に述べているとおりだ。

「彼は確かに神性の一端を得たのであり、その体験は彼の残りの生涯を通して、彼の存在性のあらゆるレベルに影響を与え続けることになる。またこの体験の結果として、これまで隠れていたたくさんの能力が目醒めてくる。そしてこのような弟子は、活動的で、創造的で、人生のあらゆる面で能力を発揮するようになる。彼は精神的にも道徳的にも、そして知力の上でも向上する。」（前掲『クンダリニーとは何か』より）

夢のようだが、決して夢ではない。それがクンダリニーの力なのだ。あなたもこの力を目覚めさせて、最高の人生を歩もうではないか。

チァクラ開発の修行によって人生思うがまま——オウム真理教修行者の声

修行によってチァクラを開発すれば、夢のような能力を身につけることができる——。オウム真理教の修行者は、その恩恵を日々受けているのだ。では、いかにオウム真理教の修行者の生の体験談を紹介しよう。



◉短眠獲得　活動時間がグンと増える
（松尾信幸　二十二歳）

わたしはオウム真理教の修行によって、とてもエネルギッシュになりました。また、短眠、食事の量が減る、病気をしなくなるなど、修行によって体質がずいぶん変わりました。オウム真理教の修行を一時間することによって、睡眠時間が二時間短縮され、しかも修行してから寝ると、次の日の朝はすっきりと目覚めます。つまり、修行すると、一日の活動時間が増えるのです。多眠型の生活をしている人にはお勧めです。



◉実感したエネルギーの強さ
（ウッタマー師　四十二歳）

クンダリニー・ヨーガの素晴らしさは、やはりそのエネルギーだと思います。クンダリニー・ヨーガの成就後間もなく、翻訳のワークが入ったとき一日二時間しか寝なくても訳し続けられて、自分が本当にスーパーマンになったような気がしました。





◉かち取った健康体
（聖者タントラヴァジリ上流師　二十四歳）

わたしは高校時代、肉体的にも精神的にも病弱でした。例えば、朝起きられない、体が常にむくんでいる、頭痛がする、関節が痛い、心臓も悪いというように、いたるところが悪く、しかも病院に行っても病名がはっきりしなかったのです。でも入信後、数カ月間頭痛が続いた後、むくみがなくなり、関節の痛みもなくなって、健康体になりました。修行によって肉体的に変化し、それが精神的にも好影響を与えたのです。



◉素敵な女性が集まってきた！
（スワミ・スサーラダ　二十九歳）

昔からうわべを取り繕うのに懸命だったわたしは、素敵な女性を求めても、なかなか心の疎通ができませんでした。しかし、オウム真理教に入信してしばらく経つと、わたしの周りには空気のように自然と心の安らぐ女性が集まっているのでした。以前は外見で女性を測っていたのですが、今は相手の心の清らかさを喜び、その素直さに感心し、畏敬の念を持つようになりました。そして、もう何十年来の友達のように、他人には言えないような悩み、夢、真理の素晴らしさなど真剣に語り合っています。





◉マニプーラ・チャクラ開発で成績急上昇！

（稲葉紀人　二十一歳）

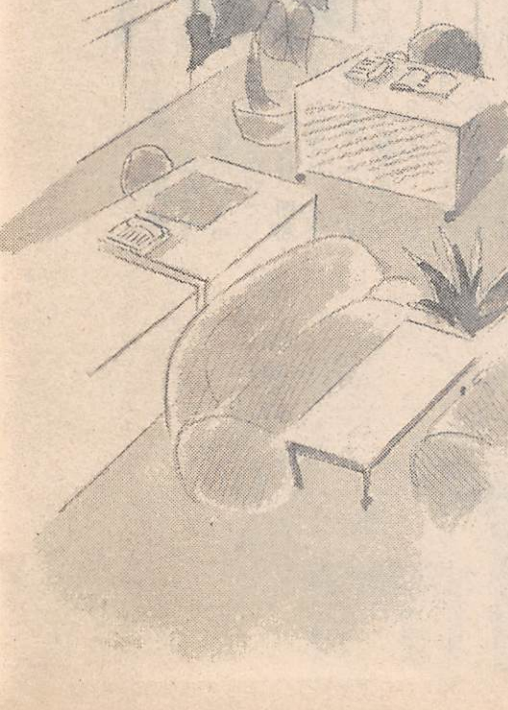


わたしの成績が急に良くなったのは、オウム真理教に入信し、マニプーラ・チャクラが開発された高校二年の二学期のことだった。それまではドンジリから数えて四分の一から三分の一の成績だったわたしが、一学期間で百人以上の同学年生を抜くこととなったのだ。さらに次の学期には九十人抜き、その次には六十数人をごぼう抜きにした。つまり、一年間で二百七十人以上を抜いたことになる。一年もしないうちに教師に期待されるようになり、大学模試は学年で一番になり、実力試験も四番で、いつの間にか人にうらやましがられるシチュエーションに立っていたのだ。

この成績の変化を生じさせたのは間違いなくクンダリニーのエネルギーとマニプーラ・チャクラの働きである。ヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマ（クンダリニーを覚醒させるヨーガ行法・知能を向上させる働きもある）を行じているとき、目を開けると周りがすべて真っ赤になって見えていたが、これはクンダリニーが覚醒したあと、わたしがヨーガでいうところの「火のステージ」を経験していたからである。

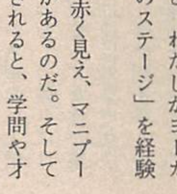
火元素は霊視すると赤く見え、マニプーラ・チャクラと関係があるのだ。そしてこのチャクラが開発されると、学問や才能に目ざましい進歩があるとされており、まさにわたしの成績が急上昇したのは、クンダリニーの覚醒によってマニプーラ・チャクラが開発されたからであるとしかいいようがない。

ちなみに、わたしは小学校の頃から筋金入りの勉強嫌いであったのに、その当時、急に「勉強したい」という気持ちが強くこみあげてきて、勉強に没頭するようになってしまった。周りは奇異な目で見ていたが、これもクンダリニーとこのチャクラの働きからすれば当然のことなのである。



◉主任へランクアップ

（聖者イシディンナ上流正師　三十三歳）



オウム真理教に入信以来コツコツと修行していたら、次第に性格が積極的になってきて、どんな仕事でも前向きにこなすことができるようになりました。その結果、会社からは信頼され、ヒラの社員から主任へとランクアップしました。当然給料も上がり、その上、何かと自由に仕事をさせてくれるという特別待遇をしてくれるようになったのです。いきなりやってきた〝たなぼた〟のようなこれらの変化に、自分ながらあっけにとられています。

◉一気に一年分のノルマを達成！
（スワミ・アシバンダカプッタ　四十歳）



オウム真理教に入信し、奉仕活動を始めたところ、仕事上で「このようになればいいなあ」「こうなるんだろうな」と思えば、すぐそのとおりになってしまうという現象が立て続けに起こるようになりました。特に、ほとんど労せずに、超大口の受注が取れ、一年分のノルマを二月の時点で一気に達成してしまったのには自分でも驚きました。



◉売上トップへ
（津軽貞憲　三十八歳）

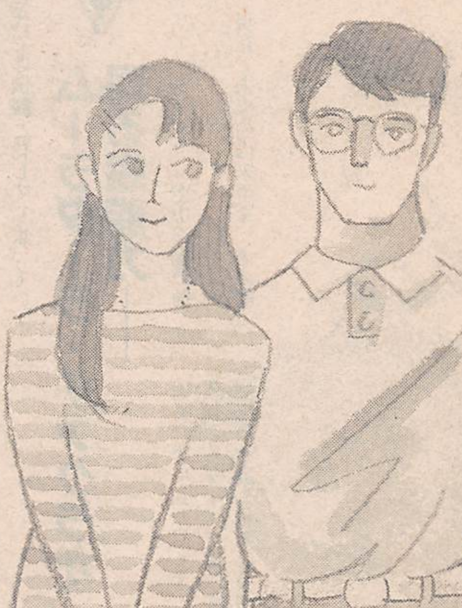


わたしは勤務している会社で営業部に所属しています。当然実績数字（売り上げ・利益率）がすべてという環境の中にいますので、自分でも気がつかないうちにそれが願望となっていたのでしょう。決算時において前年比一五〇パーセントの実績を達成し、営業部の中でトップの売上となり、新年度からはポジションが一つ昇進するという願望成就を果たしました。

◉結婚相手に巡り合えた
（片岡寛次　二十八歳）



オウム真理教に入信し、功徳を積んだところ、入信二カ月目にして縁談が三件も持ち上がりました。そして、今の妻と知り合ったとき、一目でわたしの生涯の伴侶であることがわかり、長年の願望だった結婚相手に巡り合うことができたのです。功徳の恩恵が自分の願望をかなえてくれることを実感し、オウム真理教の教義の素晴らしさを確信しました。



チァクラ開発の修行によって身につく夢のような能力の数々……。だれの中にも必ず眠っているこの隠された能力をクンダリニーの力で目覚めさせ、オウム真理教の修行者の後に続くのは、あなたなのだ！

PART 4

人間を超えた神の力を
クンダリニーで超能力を獲得せよ！



クンダリニー、それは知能の向上と、あらゆる才能をわたしたちにプレゼントしてくれる。しかし、まだまだこんなものは〝子供だまし〟だ。クンダリニーの偉大な力のほんの一部が現われているにすぎない。

なぜって、クンダリニーはそれ以上に素晴らしいもの――つまり〝超能力〟というとびきりの贈り物を与えてくれるのだから。

チァクラ開発でこんな超能力が！

PART3で見てきたのは、チァクラ開発で身につく〝能力〟であった。注意してほしいのだが、以下に見ていくのは、それをはるかに超えた〝超能力〟なのだ。それは人間業ではない。仏典をはじめとする世界中の宗教経典に記されているだけで、現代では伝説と化してしまっているスーパーナチュラルパワーの世界なのだ。

では、以下にチァクラ別にどのような超能力が身につくのかざっと見てみよう（経典『シヴァ・サンヒター』に記述されているものを中心に記す）。

ムーラダーラ・チァクラが司る超能力――

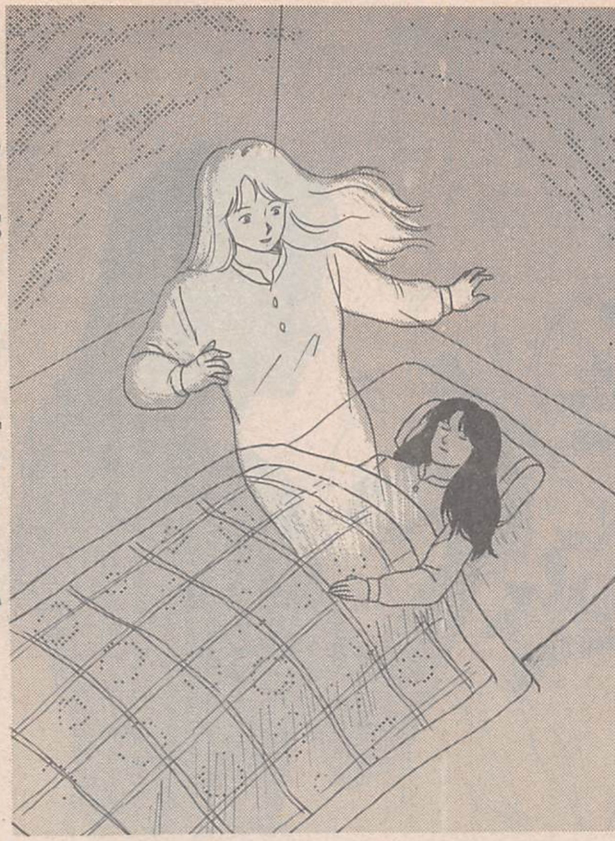
・ダルドリー・シッディ（空中浮揚の前段階）
・過去、現在、未来の出来事を、その原因も含めて知り尽くす
・望むことがすべて実現する
・高位の神霊を見ることができる



スヴァディスターナ・チァクラが司る超能力――

・不老長寿
・低次元の霊視、霊聴を得る

※また、幽体離脱をすることができるようになる。



マニプーラ・チァクラが司る超能力――

・この世において欲するものが手に入る
・死神をだまして生き延びることができる（面白い表現だ）
・他人の体内に入り込むことができる
・地中に埋蔵されている宝物を透視することができる
・黄金等の貴金属を製造することができる
・過去の解脱者の姿を見ることができる

※また念力を獲得できるようになる。

アナハタ・チァクラが司る超能力――

〔左のチァクラ〕
・他心通（他人の心の中を読むことができる）
・相手の心を動かすことができる

〔中央のチァクラ〕
・空中浮揚
・空中歩行
・透視、遠聴



ヴィシュッダ・チァクラが司る超能力——

・不老不死
・意のままに世界を支配できる
・全身が快感状態になる
・死後も肉体をミイラ化して、何千年もこの世に残しておける
・動植物と会話ができる



アージュニァー・チァクラが司る超能力——

・自分の内側にいる守護神と外側にいる守護神を見ることができる
・微細物質（原子など）を見ることができる
・今までについた超能力がさらに磨かれていく

サハスラーラ・チァクラが司る超能力——

・身体を極めて小さく（大きく）させる
・身体を軽く（重く）させる
・どこへでも好きなところへ行ける
・どんな望みでも実現できる
・どんなものでもつくり出せる
・万物を意のままに動かす

その他にも、テレパシーや予言能力等の様々な超能力を身につけることができる。



人を超えて神となれ

今では伝説に語り継がれているだけの超能力の世界も、クンダリニーを覚醒させてチァクラを開発する修行を進めていけば、現実化は可能なのである。

ただ残念ながら、超能力開発のための具体的修行法の多くは〝秘儀〟に属するため、ここで公開することはできない。

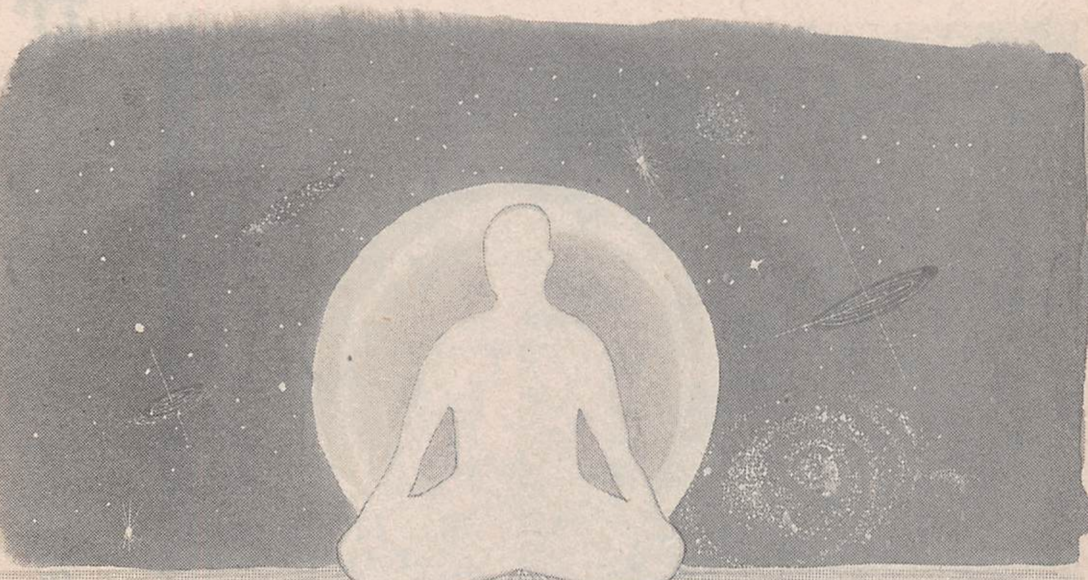
しかし、その一部は尊師のご著書『超能力秘密の開発法』(オウム出版)に記されているので、ぜひそちらをお読みいただきたい。尊師や弟子の修行体験や神通体験談も豊富に掲載されているので、きっとあなたのよい参考になるだろう。

クンダリニーはもっと素晴らしいプレゼントを……

人を超えたスーパーパワーを与えてくれる――。クンダリニーのこの驚くべき力を知ってしまえば、PART3までに述べてきた知能の向上やあらゆる才能の開発などは、たちまち色あせて見えてしまうかもしれない。

しかし、である。この素晴らしき超能力すらも、実はクンダリニーがわたしたちにもたらしてくれる最高のプレゼントではないのだ。もし、あなたがその最高のプレゼントを手に入れてしまえば……。超能力すらもつまらないものに見えてしまうに違いない。

では、その最高のプレゼントとは何だろうか。クンダリニーは究極的に、どのような〝至上の宝〟をわたしたちにもたらしてくれるというのだろうか。



チャクラ開発で超能力が……

——オウム真理教修行者の声

チャクラを開発することによって、人を超えた力、超能力を得ることができる。オウム真理教の修行者も、修行によって一つ一つそうした力を発揮し出している。以下に、その一部の例を挙げよう。

◉ダルドリー・シッディ
——重力から解放された！
（スワミ・アシバンダカプッタ　四十歳）

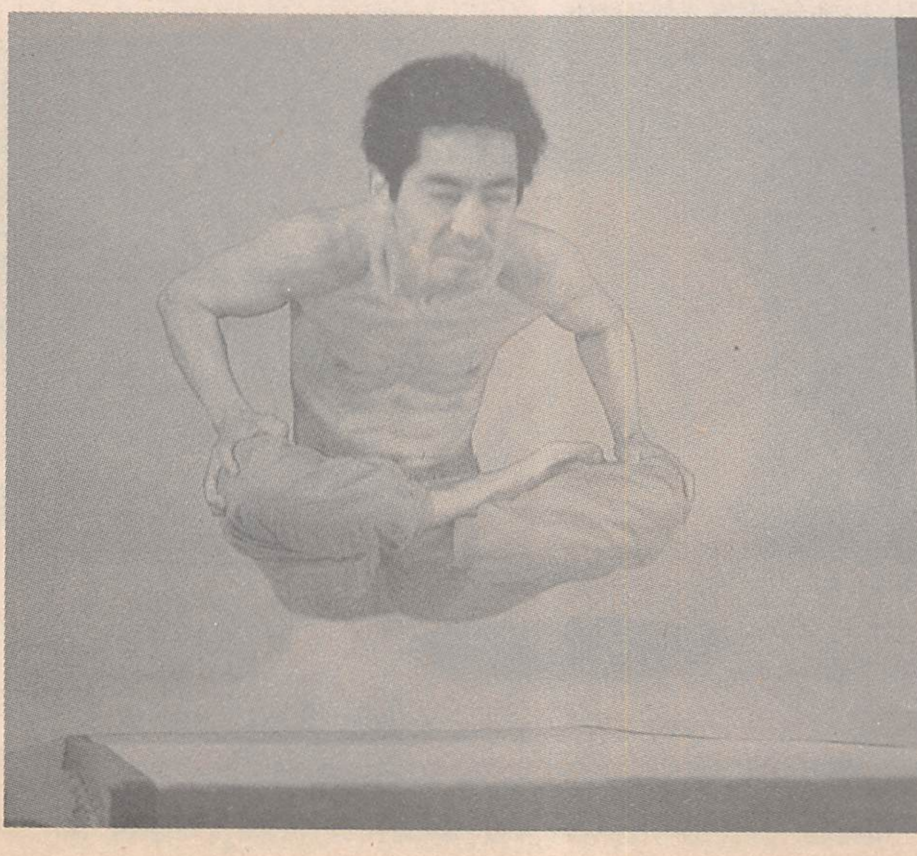


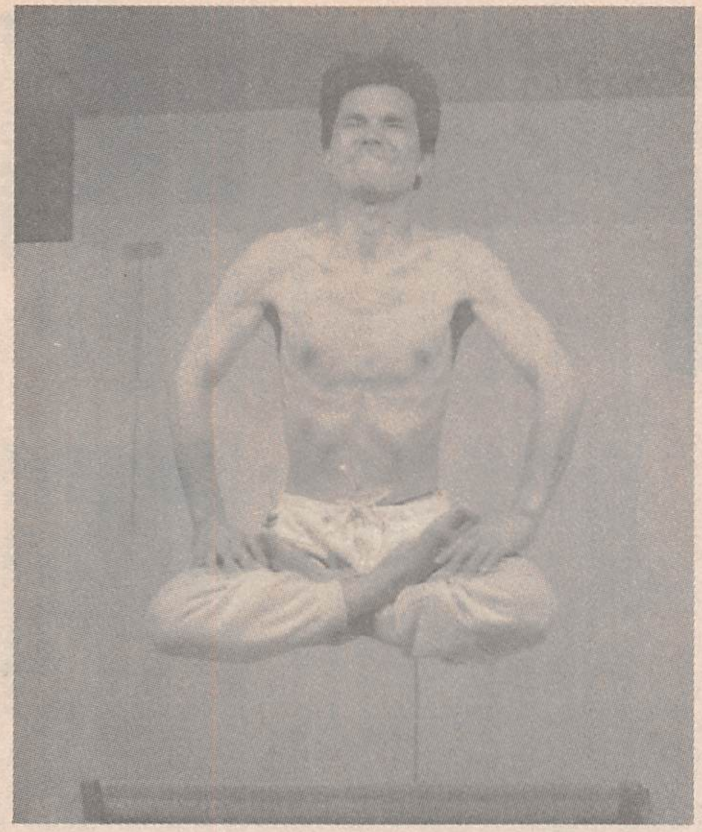
わたしがクンダリニーというエネルギーによって重力から解放されたのは二年ほど前のことでした。この年の一月、オウム真理教恒例の集中修行である行法をしている最中、保息（息を止める）をしていると尾てい骨で何かがモゾモゾと動くのがわかりました。やがて振動は徐々に大きくなり、どこかに行きたがっているかのようにもがいていました。そこで上に引き上げようと眉間のアージュニァー・チァクラに集中してみたところ、体がポーンと浮いてしまったのでした。

驚いたわたしは、確認するように何度も同じことを繰り返していました。すると限界までの保息をしたとき、それははっきりと起こりました。「自力で跳んでいるのでは？」とチェックしてみましたが、上昇の原因はやはり何度やっても下から突き上げてくるエネルギー以外のなにものでもありません。

ちなみに、このときのダルドリー・シッディの体験といい、次のステージのヘビのヴィジョン、光や色の霊視の体験もすべて経典どおりでした。また、このとき風のステージの特徴である宿命通も同時につきましたし、わたしのグル（麻原尊師）への信は、これらの一連の体験によって不動のものになりました。

ところで、わたしの「無重力体験」ですが、その後修行が進むことによって自由に起こせるようになりました。特に二年前は身体中にエネルギーが満ちていて、グルを意識するだけで跳べるようになっていました。具体的には、エネルギーを尾てい骨のムーラダーラ・チァクラにため、突き上げてくるクンダリニーをなだめすかしながら圧縮。そしてボルテージが限界に高まったとき、ムーラダーラ・チァクラでクンダリニーを捕まえて精神を集中し、アージュニァー・チァクラに向けて一気に解き放ちます。このときは、すべてクンダリニーのエネルギーに委ね、心はまさに無心の状態。調子が良いと身体の細胞は粒立ち、しびれて、とても軽い感じがします。







◉わたしも跳べた
――修行で心がチェンジしたときに
（小林之生　三十四歳）

「もう少し頑張って！　もう少し！　もう一息！　あとちょっと！」――初めてのダルドリー・シッディは、法友たちの声援の中で起こりました。
　昨年四月のセミナーでのことです。神秘体験や神通といったものに無縁だったわたしは、そろそろ目に見える修行の結果が出ないものかと考え、意を決してダルドリー・シッディに挑戦したのでした。
そして、法友たちに励まされながらヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマを行じているうちに身体が震え、それが振動に変わり、ついには跳ね出し始めたのでした。
　出家して短いながらも心が修行に向かうようになり、否定的な心が肯定的にチェンジした途端の体験は、まさに修行により精神的なプロセスが進めば必ず肉体的にも変化が現われてくるという経典どおりのものでした。
　あのころを振り返りながら、「実体験できる教えを有するオウム真理教こそ超現実主義の最高の宗教である」と確信しつつ、より高い世界の経験ができるように修行に励もうと思います。



◉体から抜けて自由に散策
（溝口博文　二十一歳）

　尊師のシャクティーパットを受けて、一カ月後のことでした。少し修行し眠りについたわたしは妙な感覚に襲われました。確かに体は眠っているのに、意識がはっきりとしているのです。このときうねっている多重の音が聞こえ始め、その音がピークに達したとき、ふと体が肉体より二十センチメートルほど浮き上がっていることに気がつきました。本当に幽体離脱しているかを確かめようと思い、部屋に置いてあった時計を見て肉体に戻り、すぐ時計を見たのですが、一、三秒後の時間を指していたので、夢ではないのだと確信しました。体から抜け街並みを眺めたり、宇宙空間のようなところへ行き、地球のような青い綺麗な星を眼下に見、感動したこともあります。これらの体験を通して修行に関する確信と、尊師に対する信を深めました。



◉修行によって幽体離脱が
（スワミ・シーヴァリ　三十三歳）



会社から帰ってプラーナーヤーマ（ヨーガの呼吸法）をしたあと、ベッドの上に横たわったときのこと。金縛りにあい、耳もとでシンシンシンという金属音が聞こえてきた。幽体離脱かと思って、緊張しつつもそのまま放っておくと、体が自然に抜け出した。特に腕が抜け出したときはリアルな触覚があった。自分自身の体が天井まで浮き上がって、自分自身の身体を見下ろしている状況になった。恐怖感はなかったが、肉体に戻りたいと思った瞬間、肉体に戻った。こういうことが、プラーナーヤーマのあとリラックスすると何度か起こった。

◉わたしを救った不思議な声
（スワミ・ヴァジラカツ　三十三歳）



一九九〇年九月初旬の深夜、わたしは名神高速道路上で一人車を走らせていた。単純な走路に、つい眠気に襲われがちになっていた。必死に眠気と闘って運転していたが、ついに意識が飛び、夢の世界に入ってしまった。そのとき、「危ない！　危ない！　危ない！」という複数のせっぱ詰まった男女の声が聞こえた。その声にハッと意識を取り戻したところ、なんとわたしは、ハンドルをやや右に切って、まさにわたしの車を追い越そうとしていた隣の車に体当りしようとしていたのだ。慌てて、ハンドルを左に切り直し、大事には至らずにすんだ。ちょうど、その危ない瞬間に、絶妙のタイミングでわたしを救ってくれた不思議な声。真理の道を歩いているわたしに対する、シヴァ大神の守護を強く感じたのだった。



◉他心通でジャンケンも連勝
（聖者ディーラー到達光師　二十三歳）



道場で信徒さんの対応をしていると、その方の心が手にとるようにわかったり、その方の性格を表わす色が見えたりすることは日常茶飯事です。先日も、信徒さんのご自宅にお邪魔したのですが、その方に会った途端すごい悲しみのヴァイブレーションが伝わってきました。聞いてみると、その方は昨日も今日も寂しくて泣いていたとのことでした。また、そのとき目をつむると青い色が霊視できたので、「とても信仰心のある方ですね」と言うとズバリ当たっていたそうです（信仰心のある人は青い光を発している）。

一度他心通を試してみようと実験をしたこともありました。それはジャンケンをするときに、相手の出すものを言い当てるというものでした。一回、二回、三回、わたしは彼に勝ち続けました。そして、連続して勝つことなんと九回。最後は、「すごいね」って誉められたので、心が動揺して、相手の出すものがわからなくなってしまったのですが。

◉相手の心が移ってくる他心通
（聖者ウルヴェーラ・カッサパ到達光師　三十二歳）



集中的な修行をしていたとき、体が周囲に敏感に反応するようになった。それが他心通だということは自分ではわからなかったが、そのころから相手のヴァイブレーションを受けることによって、自分の心身に変化が起きるようになった。例えば、イライラしている人と話しているとき、そのイライラが自分に移ってきた。話をすることによって相手のイライラがほぐれて心が変化すると、自分もそれを感じて心が楽になった。「今、心が変わったでしょ」というと、相手もそれを認めていた。

また足が痛くて苦しんでいる人のそばにいくと、すぐに足が痛くなる。無智に覆われている人であれば、眠くなる。サットヴァ（智性）のエネルギーに包まれている人であれば楽になる。修行が進んでいる人でエネルギーが上がっている人なら、自分もエネルギーが上がってしまう。また、五メートル以内に人が近づくと、自分のものとは異質のエネルギーが上がってしまうこともあった。尊師から、これは他心通だと言われた。

◉眼前に開けた第一天界

（聖者ヤソーダラー最上善逝）



わたしは九二年の十二月にアンダーグラウンド・サマディ（地下で究極の瞑想状態に入る修行。詳細は「理想社会9」参照）を行なったのですが、その結果はどうだったでしょうか?

結果的には成功で、わたしはまた一つ新しい経験をしました。

それは、ニルヴィカルパ・サマディといわれる状態で、ごく普通に（もちろん精神集中はしています）この現象界（三六頁参照）に意識がありながら、様々なヴィジョンが目の前を通り過ぎていったのでした。

次から次へとヴィジョンが見えてきている途中、

（あれ、何だろう?）

と思うものがありました。キツネのようでありながら、もっと顔の丸い動物が、毛皮のえり巻きのようにたくさんぶら下がっているのです。そして、

（奥には何があるんだろう?）

と、そのヴィジョンに集中した瞬間、わたしはそのヴィジョンに入り込んでしまいました。

そこは、薄暗くて気持ちの悪いバルドー（死後の中間状態）でした。トンネルのようにずっと奥に続いていて、ぎっしりと例の動物がぶら下がっています。わたしは、ものすごい勢いで、そこを通り抜けていきます。

経験上、こういうバルドーが何らかの世界へと続いているということはわかっていましたが、思った以上に長いバルドーで、わたしは途中で、

（引き返そうか?）

という気持ちにもなりました。

（でも、せっかくここまで来たのだから……）

と思い直し、さらに進んでゆくと、突然まぶしい空間に飛び出したのです。

そこは、これまでの気持ちの悪いバルドーとはうって変わって神々の世界でした。男神と女神が踊っています。「死と転生」（オウム真理教の舞踏歌劇）のオペレッタで見たような、ふんわかした天界の踊りとはまた違って、神々が着ているものも、踊りも絢爛たるものでした。

しかし、

（あの薄暗くて気持ちの悪いバルドーと、この輝く世界がつながっているなんて不思議なことだ）という思いは、後々まで頭に残りました。

ところが、サマディが無事終了したとき、尊師がわたしの体験について解説してくださったのです。すなわち、これはわたしが死生智を使って体験した、現在のカルマ（業）のレベルだったなら転生するはずの世界だったのです。

そして、尊師は『えんじょい・はぴねす』という雑誌に、こんなエピソードをお書きになっていました。

「今から五、六年前の話であるが、わたしの妻であるヤソーダラーの霊界には、たくさんの俗にいうところの〝かわいい猫〟が存在しており、彼女の心が乱れているとき、決まってわたしはその猫たちに噛まれたのである。わたしは彼女の来世を見て、彼女が修行しなければ、来世は猫神様、つまり（第一天界の）成長天の侍神に転生すると話していたわけだが、それも今年の仏典研究によって間違いなかったという確信を得たのである。これからもわかるとおり、まさしく日本の仏教でいわれている餓鬼の世界こそ霊の世界であり、低級霊域は存在するのである。」



まさしく、成長天と低級霊域はつながっていた（第一天界が低級霊域を支配している）のです。これでわたしの体験した世界の構造も納得できたのでした。

今回のサマディで、わたしはさらに上の世界にも入ることができ、最終的には形状界（三六頁参照）にある神聖天の入り口まで達することができました。

PART 5

クンダリニーで"聖者の境地"へ

クンダリニーは"解脱"への道、至福への道



尊師がいらっしゃった。

「今日必ず解脱するぞ。」

とおっしゃった。そして、最後のイニシエーション（秘儀伝授）を与えてくださった。強烈なエネルギーだ。頭に気が集まっている。

修行を開始する。

快感が走る。震動する。しびれる。そして、太陽の光のようにまぶしく、ものすごく強い、明るい黄金色の光が頭上から眼前にかけて昇った。

金色の光が、雨のように降り注いでいる。その光の中で、わたしは至福感に浸っていた。

この太陽は、その後何回も昇り、そして最後に黄金色のうずが下降し、わたしの身体を取り巻いた。

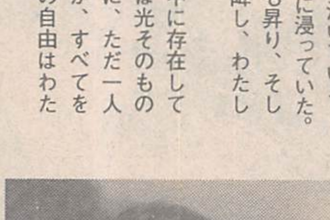
このとき、わたしは光の中に存在していた。いや、真実のわたしは光そのものだったのだ。その空間の中に、ただ一人わたしはいた。ただ一人だが、すべてを含んでいた。真の幸福、真の自由はわたしの中にあることを悟った。

そのとき、わたしは光だった……

この劇的な描写は、麻原尊師の一番弟子である聖者マハー・ケイマ最上善逝が、尊師の指導のもとで「クンダリニー・ヨーガ」を成就した瞬間の体験談である。

そして、このクンダリニー・ヨーガの成就こそが、クンダリニーがわたしたちにもたらしてくれる"最高の宝物"なのである。





聖者マハー・ケイマ最上善逝

第一章

クンダリニーからの最高の宝物——解脱

「解脱」をもたらす「クンダリニー・ヨーガ」

　では、そのクンダリニー・ヨーガとは何だろうか。それはクンダリニーを上昇させることによって煩悩を昇華させ、「解脱」を得ることのできるヨーガのことだ。

　解脱——そのとき人は煩悩から生じる一切の苦しみから解放され、〝絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜〟の状態にひたることができる。移ろいやすく、いつかは必ず壊れ去ってしまうこの世のはかない幸福とは違って、解脱のもたらす至福の境地は生死を超えて永続する絶対不動のものなのだ。

「……そりゃいったいどういう意味だ?」

　突然こんな話が始まって、こう戸惑っている方もいらっしゃるだろう。なにしろ、PART4までは〝知能の向上〟だとか〝能力開発〟だとかいった現実的な話が続いてきたのに、いきなり「解脱」だとか「絶対自由」だとかいう耳慣れない言葉が飛び出してきて、しかもそれがクンダリニーのもたらす〝最高の宝物〟だなんて言われるのだから無理もない。

　しかし、あなたがどう思われようが、このクンダリニー・ヨーガの成就、そして解脱は、あなたにとってもわたしにとっても、いやすべての魂にとってもかけがえのない最高の宝物なのである。

　あなたは今日、クンダリニーというスーパーエネルギーに巡り合うことができた。そんな幸運なあなたに、たかだか知能の向上や能力開発程度のことで話を終わらせてほしくはないのだ。せっかくのチャンスなのだから、もっと素晴らしいものがあることに気づいてほしい。だから、ここで少し話をさせていただきたいと思う。



解脱——それは〝絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜〟の境地

解脱——人間として生きる最高の目的

　なぜ解脱が何にも勝る最高の宝物なのか。それは、わたしたちに最高の自由と幸福と歓喜を与えてくれるからに他ならない。

　ところが、こういうと、

「いやいや、頑丈な体を持って、異性にもてて、天才のような頭脳を持ち、その上、地位や名誉や権力まで得られれば、わたしは最高に幸福だ!」

とおっしゃる方もいよう。なるほど、そう感じられるのももっともだ。

　しかし、だ。二千五百年前に仏教を開かれた真理勝者サキャ神賢（釈迦牟尼如来）の言葉によってこの世を見るならば、それも大きな疑問である。サキャ神賢はこう説いているのだ。

「この世の一切は〝無常〟である。よって〝苦〟である。」

と。

　無常とは常ならざること、つまりこの世のすべてのものは一定の形をとどめることなく、必ず変化し、そして必ず壊れ

去っていくということである。もちろんわたしたち自身をも含めて——。すなわち、わたしたち人間には必ずや〝老い〟と〝死〟というものが襲いかかってくるのだ。

考えてみてほしい。たとえ強靭な肉体をもっていて病気にかかることがなくても、老いは絶対確実にやってくる。当然、強い肉体からはおさらばだ。そして、死。ついに肉体はただの灰と化してしまう。死に際してはすべてのものから切り離される。異性からも、天才的な頭脳からも、地位からも名誉からも権力からも——どんなにもがき叫ぼうが——あっさりと引き離される。**この世で幸福とされているものなんて、どれ一つとしてあの世に持っていくことはできないわけだ。**

「でも、死ぬことなんて考えてちゃ何にもできない。それまでが楽しければ別にいいじゃないか。」

という方もいるかもしれない。

そういう方には、次のことを想像してほしい。ここに、明日処刑される死刑囚がいるとしよう。ただ本人には執行日は知らされていない。そして、かねてからの彼の要望が受け入れられて、今日から彼の食事の質が大幅に改善されたとしよう。もちろん彼は大いに喜び、幸福を感じるに違いない。しかし、彼の喜びと幸福感なんて、いかに空しいものであるか……。

「人間とはすべて、執行日未定の死刑囚である」

これはサルトルの言葉だが、わたしたちも死を迎えねばならないという点においては、死刑囚と全く変わるところはないのだ。違いは、単に早く死ぬか遅く死ぬかということだけ。いや、ひょっとしたら、わたしたちの方が死刑囚よりもずっと早く〝死刑を執行〟されるやもしれないのだ。だとすれば、現世的な幸福に満足している自分と、この死刑囚との間にどんな違いがあるというのだろうか。現世的幸福——そんなものは、実に空虚ではかないものに見えてくるではないか。

現世的幸福——実は苦しみの因

それに、はかないというだけならまだしも、現世的な幸福が大きな〝苦しみの原因〟となることにも気づくだろう。というのも、現世的な幸福からはいつかは離れなければならないからだ。そして、愛するものと引き裂かれるとき、人は必ず大きな苦痛に見舞われるからだ。強靭な肉体が〝老い〟によって衰えていくとき、異性や天才的頭脳や財産や地位や名誉が〝死〟によって自分から離れていくとき、きっと胸が張り裂けんばかりの苦しみに直面することだろう。この苦しみを仏教では〝愛別離苦〟という言葉で表現しているが、幸福だと思っていたもの



が一転して苦しみの原因となってしまうわけだ。

このように、はかなく、そして未来の苦悩の原因となってしまう幸福のことを果たして〝最高の幸福〟と呼ぶことができるだろうか。

最高の幸福——解脱

「じゃ、いったい最高の幸福って何なんだ？」

と思われよう。

それが「解脱」なのである。では、解脱とは何か？

今述べてきたように、現世的な幸福というものは、いずれ苦悩を生み出すだけだ。愛着していたものから離れるときに苦悩を感じ、そして欲しいものが得られないときに、また苦しみを感じる。無常を根本とした世の中で、現世的な幸福を追い求める心を持っている限り、人は必ず苦しみに襲われる運命にある。このように一見幸福を与えてくれるように見えて、実は苦しみの原因となってしまう心の働き（要素）を仏教やヨーガでは「煩悩」という。人生におけるすべての苦しみの原因は、すべて煩悩に求めることができる。

そして、「解脱」とは、この煩悩を滅尽し、苦しみから完全に解放されることなのである。

「煩悩がない状態が本当に幸福なんだろうか……。」

そう思われるあなた。確かになかなか想像しにくいかもしれないが、煩悩が少なければ少ないほど、苦しみの原因も少なくなるわけだから、心は満たされて穏やかになり、幸福感に包まれるようになるのだ。

次の公式に注目してほしい。古今東西の文明を研究してこられた京都大学教授の岸根卓郎氏は人間の幸福度を、

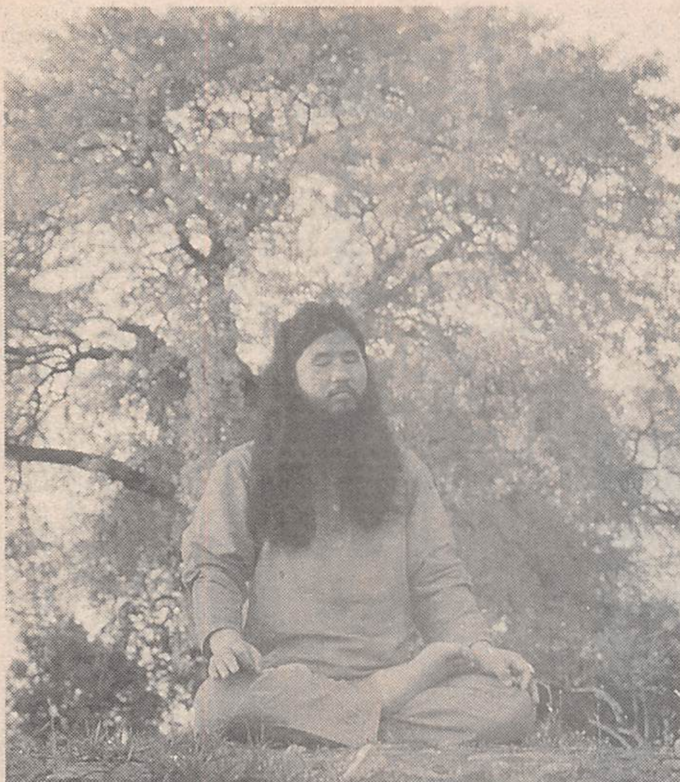
「幸福度　＝　所得／欲望　＝　物／心」

という式で表わしている。これは皆さんも納得できるだろう。そして同氏は、

「幸福度を高めるためには欲望を減少させることが必要である」と述べているのだ（『文明論』東洋経済新報社より）。

これまでの物質主義社会は、「幸福度を高めるためには、所得や物を増大させなければ」という考えに基づいてきた。「物さえあれば」という考え方が幸福観の主流を占めていた。しかし、だ。人間の欲望（＝煩悩）には際限がなく、どんどん増大していくので（先の公式でいえば分母が大きくなるので）、いくら物を増やしても幸福度が高まることはない。さらに、物の量には限界があり、必ず失われるときが来る。だから、欲望を満足させることによって最高の幸福を得ようとしても、それが実現されることは未来永劫にわたってありえない。そこには幻の幸福を追い求め続ける不安定な心があるだけである。

そこで、真の幸福を実現するために、発想のコペルニクス的転換が必要になるわけだ。先の公式を見てほしい。解脱へ向けた修行というのは、欲望（＝煩悩）をどんどん減少させてゼロに近づけていくことだが、そうすれば幸福度は無限大に増大していくではないか。そして、このゼロになった状態、つまり解脱したときの幸福度は〝無限大〟であり、人はまさに〝最高の幸福〟の状態に到達するわけである。



煩悩から解放された状態、それが最高の幸福

解脱の喜び——すべての喜びを超える

解脱のもたらしてくれる喜びと幸福が、わたしたちの想像を絶するものであることは無理もない。しかし、それは確かに最高の幸福なのだ。

例えば、食べることや寝ること以外にさしたる楽しみのない動物は、人間の楽しんでいる音楽や芸術や文学の喜びを想像することはできないだろう。それと同じように、人間界よりも一つ高い意識堕落天という世界には、人間がとても想像できないような喜びがある。さらに、意識堕落天よりも一つ高い戯れ堕落天には、同じように意識堕落天の住人が想像できないような喜びがある。さらに戯れ堕落天よりも高い世界には戯れ堕落天の住人には想像できないような楽しみがある。そしてそれよりもさらに高い世界には……と続けていくと最終的には至高の喜びに到達する。それが〝解脱〟の喜びなのだ。

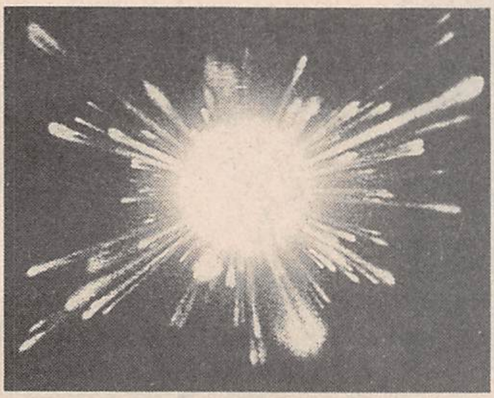
このように、解脱の喜びに比べれば、この人間界の喜びなんて、動物界以下の喜び程度にしか見えないわけである。

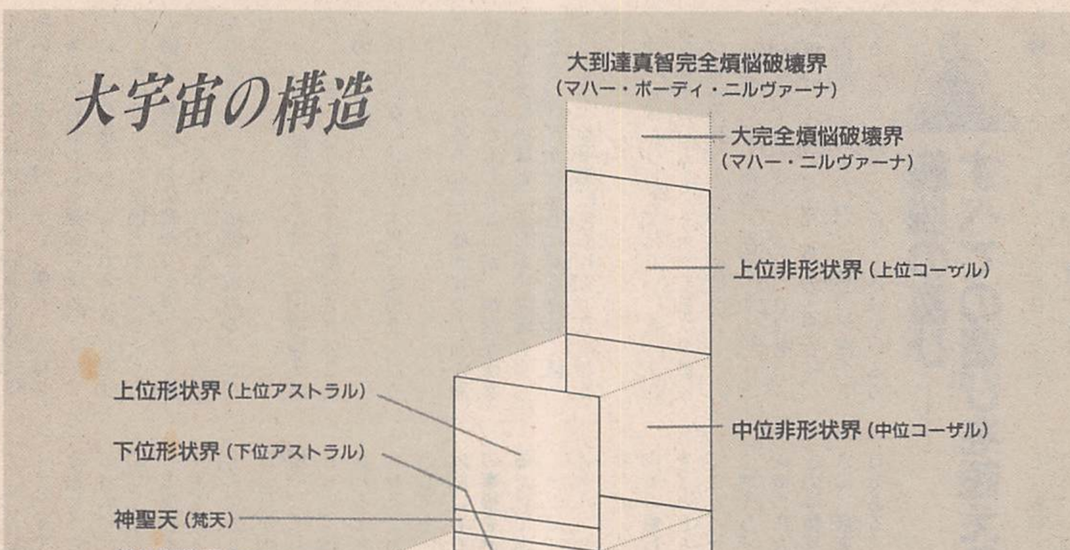
それは永遠に続く

そしてこの解脱がもたらす最高の幸福は、死ねばあっさり消えてしまう現世的な幸福とは違って、なんと死んだ後にも続いていくのである。ただ、それを述べるためには、まず宇宙創成のプロセスと宇宙の構造から説明しなければならないだろう。

時を遡ること、始まりとてない遥かの昔。わたしたちの「真我」（本当の自分）は、この物質次元を超越した意識のみによって成り立つ至高の世界に、〝絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜〟の状態で存在していた（「真我独存」）。しかし、あるとき「三グナ」と呼ばれる宇宙のダイナミックな三つのエネルギー（ラジャス・タマス・サットヴァ。仏教でいうところの根本煩悩である貪・瞋・癡にそれぞれ対応する）が干渉してきて、真我はそれに巻き込まれてしまった。その際大爆発が起きて（現代科学でいう「ビッグ・バン」）、コーザル世界・アストラル世界・現象界という三つの世界が形成された（仏教では、愛欲界、形状界、非形状界という）。これが現在の宇宙である（図参照）。

そして、大部分の真我は、三グナの織





解脱の喜び ――それは実際に解脱した人にしかわからないものといえよう。以下に挙げるのは解脱の喜びを語る解脱者の言葉である。

聖者マハーケイマ最上善逝　31歳



この体験（冒頭に挙げた光への没入の体験）の後は、至福感に満ちた素晴らしい空間に行こう、安住しようと思えばいつでも行くことができるようになりました。それは、光の壁を突き破ったことによって、その世界への筋道ができたからでしょう。この状態をヨーガの言葉では「サマディ」といいます。

サマディ（瞑想の究極状態）の状態に入ると、肉体的には呼吸が停止し、心もピタッと静止します。そして、全く苦というものが存在しない世界を経験するのです。これがクンダリニー・ヨーガの成就なのです。

聖者アヌーパマ到達光正師　28歳



そのとき、わたしの心は満ち足りて、求めるものはもう何もなかった。周りは自己の内側の光で照らされ、その明るい空間の中にわたしは座っていた。……いっさいの欲求がわいてこない。雑念もわいてこない。完全に無思考の状態――。こんな静かな平安な状態は初めてだ。……この後、煩悩が引きちぎれるように落ちていった。目の前を白い餅のような煩悩の塊がぷちぷちと落ちていく（なぜか、煩悩が塊のように感じられる）。性欲が落ちていく。食欲も落ちていく……。わたしは自分の呼吸が完全に止まっているのを認識した。



聖者タントラデュパ到達光正師　34歳



どんどん瞑想状態が明るくなり、たった一人で座っていると、心が寂静へと溶け込んでいくような感じがしました。軽くて広い心の状態です。瞑想を終わって目を開けると、辺りがキラキラ輝いて見えました。光に満ちた空間だけがあり、もう何もいらない――そんな気持ちがしました。心には雑念がなく、時間の流れも止まっているのです。この延長にニルヴァーナ――涅槃があるとするならば、戻ってきたくはないだろうな、そんなことを考えました。

聖者キレーサ・パハーナ・アーナンダ到達光正師　29歳



右上方からキラキラと輝く黄金色の光が射込んでいるのに気づいたのはその直後のことである。その光は徐々に強くなり、神秘的で優しいヴァイブレーションを発しながら、最後にはわたしの身体を完全に包み込んでいた……。

そこは歓喜に満ちあふれた世界だった。そこでのわたしには煩悩によって動かされる“感情”そのものがなく、すべてが止まっているかのように思えた。もちろん、苦しみなどいっさいない、長い間求めていたものがようやく得られたような、そんな満足感さえ与えてくれる世界だった。

そのときわたしは、本当の幸福というものを知ったような気がした。……幸せだった。壊れることのない本当の幸福を求め、すべてを捨てて出家してから一年余り。ひたすら求め続けてきた解脱・悟りは想像以上に素晴らしく、わたしに本当の幸福がいかなるものかを教えてくれた。そして、その幸せに比べたら、我々がとらわれているこの現世での幸せというものが、取るに足らないつまらないものであることも理解できた。

りなす幻影に惑わされて落下を続け、煩悩を増大させ、「苦界」とよばれるこの現象界（地獄・動物・低級霊域・人間・意識堕落天・戯れ堕落天によって成り立つ）を輪廻転生（生れ変り）し続けている。自分が落下してきたプロセスの記憶を失って、なぜ自分がこの世に存在しているのかという理由もわからぬまま、ひたすら煩悩を追求し続け、それがために無始の過去から、この低い苦しみの世界をさまよい続けている——これが現在のわたしたち人間を含む、あらゆる生き物の姿なのである（宇宙の構造と創世プロセスの詳細は、最聖麻原彰晃尊師著『ターガタ・アビダンマ第一誦品』を参照のこと）。

しかし、他ならぬ解脱によって、この永遠に続くかのように見える苦界での漂流についに終止符が打たれるのである。煩悩を滅尽して、この世の無常なるものから心を切り離せば、わたしたちをこの苦界に結びつけている絆が断ち切られ、わたしたちの意識は物質を超えた至高の世界、永遠の至福の世界へと飛躍することができる。それは、太古の宇宙創成以前の〝本来の自分〟への帰還、神を超えた〝真実の自分〟への帰還に他ならない。



苦界をさまよう魂——解脱によって救われる!!

解脱——宗教の〝本質〟

この時空を超越した至高の境地こそ、古今東西の「聖者」と呼ばれる偉大な宗教家たちが目指してきたところなのである。そして、世界中の正しい宗教は、元来わたしたちの真我が存在していたこの境地に再び戻ることを共通の最終目的にしてきたのである。いわば解脱は〝宗教の本質〟とも言えよう。

事実、〝宗教〟をさす英語 *Religion* の語源には「再び結びつける」という意味があるのだが、これは宗教というものが、人間を本来の存在に再び戻すことを最高の目的としていることを意味している。

また『聖書』には、それを象徴するような記述がある。というのも、巻頭の『創世記』にあるアダムとイヴの楽園追放劇は、魂が至高の状態から転落していった様子を思わせるのだが、巻末の「ヨハネの黙示録」には一部の魂が神々に近づいていく様子、つまり〝真実の自分〟に帰還していく様子が描かれているのである。

また、『聖書』とヒンズー教との間の根本的一致を究明したといわれ、多くの人の尊崇を集めた聖者スワミ・スリ・ユクテスワも、「あらゆる宗教には、本質的一致点があり、種々の信仰が説く真理も、帰するところは一つである……そこにはあらゆる聖典が認めているただ一つの目標がある。……宗教の最高目標は、〝真の自己を知ること〟である。」（『聖なる科学』森北出版 より）と述べており、また、元大阪大学教授で

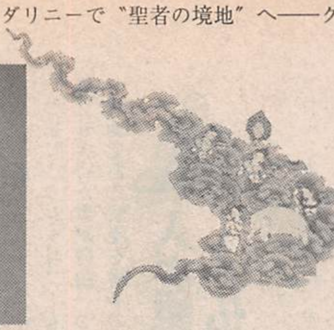


魂は、かつて至高の状態から転落した



しかし、一部の魂は至高の世界へ再び戻る













書籍案内



『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』
大宇宙の実相
原始ヨーガ、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教などすべての真理を内在した史上最強の法則。
麻原彰晃尊師の修行体験と原始仏教などをベースに確立されたオウム真理教入門書第一弾! 真実の宇宙観と魂の落下のプロセスを詳述する。

550円

『タターガタ・アビダンマ第二誦品』
真理勝者の救済計画

インド・ヨーガに造詣の深い故佐保田鶴治文学博士も、
「『このおれは、いったい、だれか、何者だ?』という問いに解決を与えてくれる宗教でなければ、ほんとうの宗教とは言えない……真実の宗教は自我の開顕、人のうちなる神が自らをあらわにすることにある」（『ヨーガの宗教理念』平河出版より）
と述べており、世界中の宗教の本質がわたしたちを原初の状態へ回帰させるところにあることを示している。

麻原尊師も解脱の意味合いについて、「人間が人間として生きる最高の目的」とおっしゃっているが、これもすなわち人間の生き方を指し示す宗教の最高目的が解脱に他ならないことを意味しているものといえよう。

第二章 至福への道――クンダリニー・ヨーガによる解脱へのプロセス

クンダリニー・ヨーガとは?

クンダリニーがもたらしてくれる〝最高の幸福〟を追求してきた結果、とうとう「解脱」へと突き当たってしまった。そして、それこそがクンダリニーからわたしたちへの〝最高のプレゼント〟であり、またあらゆる宗教の本質であり奥義であることがおわかりいただけただろう。

もっとも、宇宙創成という壮大なレベルにまで話がさかのぼってしまったので、ピンとこない点があったかもしれないが、本来解脱の境地とは、「不立文字」という言葉があるように、言葉ではとても表現できない超越的なものなのだ。よって、その素晴らしき境地については、あなた自身がクンダリニー・ヨーガの修行をして自ら体験するしかない。

では、クンダリニー・ヨーガとは、どのようなものなのだろうか。いよいよ具体的に見てみることにしよう。

それは先にも述べたとおり、尾てい骨に眠るクンダリニーを覚醒させ、そして背骨に沿って存在するスシュムナー管の中を上昇させて頭頂へと導き、煩悩を昇華していくヨーガである。その結果として、解脱が訪れる。ヨーガに関する最も古い論集の一つである『ハタ・ヨーガ・プラディーピカー』には、次のような記述がある。

「鍵によりてその戸を開けるとき、そのときヨーギは解放への扉を……クンダリニーによりて開けることになる。偉大なる女神（クンダリニー）はまだ眠っているが、その閉じられた唇を分け開くとき、ヨーギはブラフマ・ランドラ（頭頂）へと……すなわち苦痛も苦悩もないところへと昇ってゆくことになる。クンダリニーはカンダ（*kanda* 根）の上で眠っている……彼女はヨーギに自由を与え、ヨー

ギを無知の束縛から解き放つ。このクンダリニーを識るものこそ真にヨーガを識る者である。クンダリニーは蛇の如くにとぐろを巻いているとされている。これを〈上方へ〉昇らしめる者こそ、自由を得る。」（偈一〇五～一一〇）

つまり、クンダリニーを覚醒させて上昇させきった者が自由、つまり絶対自由の境地である解脱を得るのである。

もちろん、これだけではよくわからないだろう。クンダリニー・ヨーガにおける解脱のプロセスがどのようなものであり、修行に励むことによってあなたは実際にどのような体験をしていくのか？ その詳細は、クンダリニー・ヨーガのプロセスを日本で初めて明快に説き明かした麻原尊師の名著『生死を超える』（オウム出版）から見てみることにしよう。

人を超える——仏教本来の目的


人を超えた境地へ——それが仏教本来の目的

クンダリニー・ヨーガによる解脱へのプロセス——。それは、実はすでに日本にはるかの昔に伝えられていた。しかし、これまでだれもその意味を理解できなかっただけなのだ。それは何かというと、仏教の開祖サキャ神賢（仏陀釈迦牟尼）が説かれた「縁起の法」のことである。サキャ神賢の教えが遺されている原始仏典の中でも最古のものとして有名な『阿含経』の中心となる教えである。

麻原尊師は、インド・ヒマラヤ等における八年間にわたる仏教・ヨーガの過酷な修行によって解脱を果たした後、「縁起の法」がクンダリニー・ヨーガのプロセスを意味していることを日本で初めて認識された。サキャ神賢が後世の人々に残されたメッセージが、二千五百年の時を超えて、尊師によって見事に解読されたわけだ。

ところで仏教というと、

「葬式のときにわけのわからないお経を読んだり、墓参りをするだけの暗くて辛気くさいあの宗教が解脱をもたらしてくれるなんて本当か？」

とおっしゃる方もいよう。確かに日本では、そういう暗いイメージが定着しているようだが、実は日本に現在残されている仏教は本当の仏教ではない。これは学者の間でもすでに定説である。

仏教には本来、仏——つまり〝人間を超えた至高の存在になるための教え〟と、〝仏によって説かれた教え〟という二つの要素があった。しかし、仏教がインドから日本へ伝わってくる過程で、肝心の仏になるための教えの部分が欠落してしまった。そして、今日本に残っているのは、わずか仏によって説かれた教えが俗世間に都合のよいように歪曲されたものばかりなのだ。

本来、仏教とは、わたしたち人間を、人間を超越した至高の存在に引き上げるための教えなのである。それは、仏教の〝仏〟という字を見ればわかる。〝仏〟は旧字体で書くと〝佛〟となるが、左半分の〝イ〟は「人」を表わしており、右半分の〝弗〟には「～でない」という否定の意味がある。すなわち、「人でない」、「人を超越した存在」になるための教えという意味なのである。よって、麻原尊師によって、初めて日本に真の仏教がもたらされたことになるといえよう。

なお、仏教がヨーガを源流としており、サキャ神賢がクンダリニー・ヨーガの修行を行なっておられたことも定説である（サキャ神賢の頭頂にある盛り上がりはクンダリニーが頭頂に達したときにできたもの）。そして、そのヨーガに精神的な教えを付加したものが仏教なのである。

尊師が明かす解脱へのプロセス

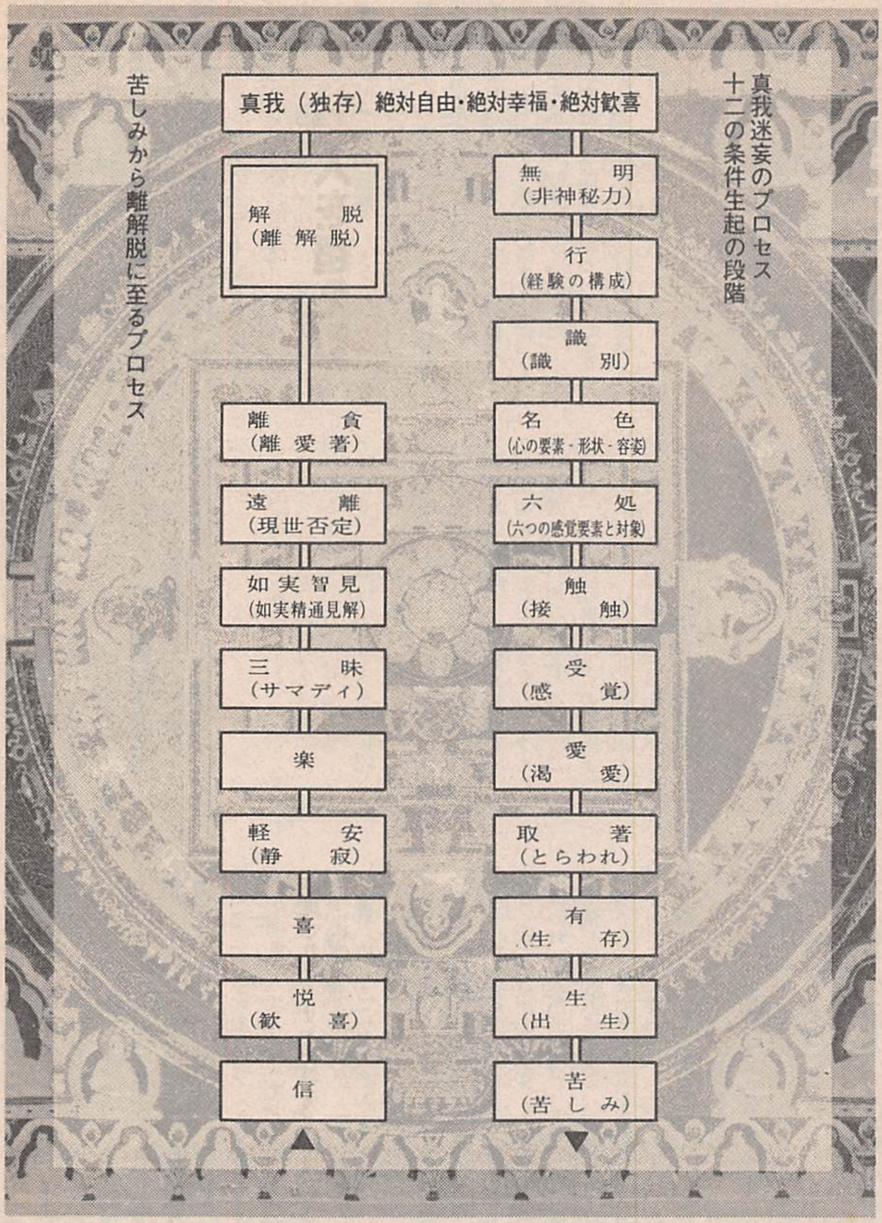
さて、それでは左図の「縁起の法」に基づいてクンダリニー・ヨーガを見てみよう。この「苦しみから離解脱に至るプロセス」が、クンダリニー・ヨーガによって解脱へと至るプロセスなのである（「真我迷妄のプロセス」は魂の落下のプロセスを表わす）。このプロセスについて、尊師は次のように解説されている。

「縁起の法」の一番のポイントは、人が人生のすべてを〝苦〟だと感じることが解脱への第一条件だということである。詳しいことは後にして、だいたいの流れを述べてみよう。〝苦〟を感じると、わらをもつかむ気持ちから解脱したいという強い思いが生じる。これを〝信仰〟という。信仰があると解脱への〝修行〟をするようになる。修行すると〝クンダリニーが覚醒〟する。クンダリニーが覚醒すると、〝悦〟が生じる。それがサハスラーラ・チァクラに到達すると〝喜〟が生ずる。喜がサハスラーラ・チァクラに満ちると〝軽安〟が生じる。軽安が体を満たすと〝楽〟が生じる。精神的にも肉体的にも楽で満たされると、強い精神集中を得ることができる。それによって〝三昧〟に至る。三昧によってすべてのことを完全に知ることができる。これを〝如実智見〟という。すべてのことが理解できたとき、この世が幻影だと悟り〝遠離〟する。遠離すると〝離貪〟する。離貪することによって〝解脱〟する。自分でも解脱したという納得が生じる。

次に、解脱へ至るそれぞれの過程について尊師が解説されているところを一つ一つ見てみることにしよう（以下、ゴシック文字部分は「生死を超える」からの引用・抜粋）。

◉〝苦〟あるゆえに〝信〟あり

人生が苦だと感じるのが解脱への第一条件だと釈迦牟尼仏は言った。まさしくわたしが修行の道に入ったのも、苦を感



十二縁起の法（十二の条件生起の段階）

じたときである。……自分自身の人生に対する疑問であった。……いったい何のために生きているのだろうか、と。絶対のもの、真の幸福はこの世に存在するのだろうか。わたしは、それを手にすることができるだろうか。このときわたしの魂が求めたものが解脱だとは知り得なかった。だが、いても立ってもいられない。そんな気持ちが昂じて、わたしの模索が始まった。強い思いであり、信仰だった。

◉クンダリニーの覚醒

……わたしは、独学ながらクンダリニーを覚醒させ、解脱への第一歩を印した。超能力を得たのもこれと同時だった。……わたしは仙道でクンダリニーを覚醒させることができたが、読者の皆さんにはヨーガによる方法をお教えするつもりだ……仙道での覚醒には四年もかかってしまったが、ヨーガを用いたならば数カ月ですむだろう。

◉〝悦〟は最高のエクスタシー

クンダリニー覚醒後、さらに修行を続けると〝悦〟の段階に至る。これは、クンダリニーが上昇してものすごいエクスタシーをもたらす状態である。……身体を震わせながらクンダリニーが駆け昇る。その感覚たるや、この世で味わうことのできる、最高のエクスタシーだといえるのではないかと思う。どう表現したらいいだろうか。セックスの快感とは全く違う。とても優しく柔らかく、溶けてしまいそうな感じである。〝悦〟に入っている間、その快感は強まることはあっても決して弱まらない。しびれも伴って、それがまた気持ちいい。そして、数分間その快感に浸っていることができるのである。

最近はわたしも瞑想時間を長く取っている。だから瞑想によって何時間もこの状態を持続させることができるようになった。

そして、クンダリニーが上昇して、頭頂にある霊的センター「サハスラーラ・チァクラ」に到達すると、そこに隠されている「不死の甘露」を落とす。不死の甘露とはネクターともビンドゥとも呼ばれているもので、心を歓喜状態にし、これが体中に満ちると意識が鮮明になり、かつ途切れることがなくなる。ゆえに不死の甘露といわれるのである。

なお、ヨーガ経典は、この段階までしか記述しておらず、また古代神道や仙道の経典にもこの段階までしか述べられていない。それほど高度な段階なのである。

◉至上の幸福〝喜〟

サハスラーラ・チァクラの上部から滴り始めた不死の甘露は、まずサハスラーラ・チァクラをそれで一杯にしてしまう。次にヴィシュッダ・チァクラへと移りそこを満たし、アナハタ・チァクラへ、アナハタ・チァクラからマニプーラ・チァクラへと次第に下へ降りていく。……各チァクラを満たし終えた不死の甘露は、最後にスヴァディスターナ・チァクラを満たすとともに、そこに強烈な震動を呼び起こす。その震動に呼応して、ムーラダーラ・チァクラから再び〝悦〟を伴ってクンダリニーが上昇する。サハスラーラ・チァクラまでクンダリニーが到達すると、このときもまた不死の甘露を滴らせる。このプロセスが何回も繰り返されることにより、クンダリニー上昇時に生まれる〝悦〟に加えて、心の満足感である〝喜〟がつくられ、徐々にそれは強くなっていくのだ。それはもう、これ以上にない満足感である。

〝喜〟に入ることのできる人間は、他の人に必要とされる。普通の明るさとは違う、心が満足して解放されきった明るさなので、相手を安らがせるからだ。そして、人の喜びを増大させ、苦や悲しみをなくすことができる。たとえ、失恋したばかりの人がいたとしても、その悲しみを消してくれるだろう。ただ、そばにいるだけでそれだけの好影響を与えるのである。したがって、〝喜〟に入った人は、自分が自分自身のものではなくなってしまう。多くの人間のものとなってしまうのだ。必要とされるがゆえに。ここに供養を受ける資格ができ、その人にはお金や物、名誉などが集まってくるだろう。ここで、そういうことに満足し執着してしまうと、堕落してしまうので要注意。せっかくこの段階にまで来ても、何にもならない。解脱に比べたら、ちゃちな満足であり幸福である。解脱はすべてを超越したところにある真の幸福だ。幸いにも、わたしは前世において解脱を経験していたため、ここで惑わされることなどなかった。

また、この段階では満足しているので、心に雑念がなくなる。そのため、強い精神集中（凝念）を習得することができる。

◉〝軽安〟は瞑想の条件

この〝軽安〟に至った途端……ここでは肉体的な痛みを感じなくなるのだ。そうして、解脱にどうしても必要な長時間の瞑想が可能になる。

その他の特徴としては、日常生活において体が軽くなって、歩いているときなど浮いているような気さえすることが挙げられる。

ところで、どうしてこのようなことが起こってくるのだろうか。まず〝喜〟の状態を思い出していただきたい。それは、心が非常に満足した状態だった。その満足した心が、肉体的に素晴らしい影響を与えるのが〝軽安〟である。

◉無限のエネルギーの源〝楽〟

〝軽安〟の次に来るのが〝楽〟である。これは、ものすごいエネルギーを持っている。この段階に到達したときからわたしは、一日に十六～十七時間もの修行が平気になった。もはやどんな体力自慢でもわたしにはついてこられない。これは、〝楽〟によってエネルギーが満ちあふれているからだ。自分がやらなければならないこと以外、意識が向かわなくなる。このことがエネルギーのロスをなくし、エネルギーを体内に充実させるのである。〝喜〟の満足に対して、〝楽〟は安定で

ある。外界の刺激に反応しなくなる。また、高いレベルのヨーガ行者の言葉に「解脱のためには、最低六時間の瞑想が必要である」というものがある。〝楽〟に入ると、長時間の瞑想に苦痛を感じないどころか、瞑想のために座るのが一番楽な状態になるという、大幅な変化が起こる。これが次の三昧の重要な準備なのである。だから、必ずここを越さなければ解脱に至ることができない。



三昧で経験する５つのヨーガは解脱へ至るための重要なジャンプ台である

◉三昧とは何か？

……三昧とはいったい何か。一言でいえば、主体と客体の合一なのである。主体とは自分自身のことであり、客体とは相手や対象物を指す。それが合一するとは、強い精神集中をすることにより、自分が相手や対象物に溶け込み、一体となることなのである。……相手の心に精神集中したなら相手の心と一体になり、相手の感情も考えもわかるだろう。神に精神集中したなら、神と合一するだろう。……その中で真我と合一するのが、内的三昧の究極ともいえる。

この三昧においては、次の五種類のヨーガを経験すると尊師はおっしゃっている。これは、解脱へ至るための重要なジャンプ台なのである。

1、熱のヨーガ――内なる炎

わたしは自分のスヴァディスターナ・チャクラに精神集中をした。すると下腹部で強烈な熱が発生した。その熱は背骨を伝わって上がっていった。……背中全体が熱くなるようになった。そして、どんな寒さの中にいても平気になった。たとえ、氷点下の寒さでも、裸でいられるほどである。また、精力絶倫となった。

2、バルドーのヨーガ――死の体験

……わたしはマニプーラ・チャクラに精神集中をするこの〝バルドーのヨーガ〟を実践することによって、死と転生のプロセスを何回も何回も体験することができたのだ。だれでも三昧に入ることができるようになったら、自分で体験することができるだろう。

このヨーガによって肉体の死のプロセスをリアルに経験するとともに、次の世界への転生のプロセスに入ると、いろいろな世界から射し込んでくる光を見ることができる。そして尊師はこのヨーガによって、次のことを知るとおっしゃっている。



人は死んで、次の世界へと転生していく――バルドーのヨーガは生きているうちにその体験ができる

①死後の世界の存在を確認できる
②転生の秘密を知る
③功徳（よいカルマ）と修行の必要性を理解する
④功徳と修行以外が無力であることを知る

すると、この世のすべてのものが幻影

であると感じるようになる。そのことで、執着から離れることができる。これが解脱への大きな布石となるのだ。

3、夢見のヨーガ
――あなたが世界の創造主

……これは、アナハタ・チァクラに精神集中し、イメージし続けることから始まる。そして、この世と全く違う世界をつくり出して、そこに遊ぶことができるのである。その場合の主人公は必ず自分だ。その世界では、触れることも、見ることもできる。聞くことも、におうことも、味わうこともできる。その上考えることもできるのである。……現実同様、イメージでつくり出した世界でも実体験ができる。だったら「この世」だと思っている世界も、実際はイメージでつくっているだけなのではないだろうか……。イメージの世界に入っていけるレベルになった修行者は、やがてこの歴然たる事実に気づく。……この世も幻影、異次元も幻影、このヨーガによってそのことを悟るのである。

それでは、幻影でない世界はあるのだろうか。たった一つだけあるのだ。それが、ニルヴァーナである。

4、幻身のヨーガ――時空を超える

〝夢見のヨーガ〟が完成したころ、わたしはヴィシュッダ・チァクラを開発しようと思って、ビバリータ・カラニーというムドラー（注・霊的覚醒の技法）を始めた。一日に三時間ずつ、五カ月間これを続けた。すると四カ月ほど経ったころ、ある変化が現われたのだ。ビバリータ・カラニーが終わった後は、長時間のシャヴァアーサナというアーサナ（注・調気体操）をとらなければならない。その間に瞑想していると、二時間くらい経ってブーンというハチの羽音のような音が聞こえてくるようになった。しばらくして、周囲の様子が一変してしまう。そして、自分が時や空間を超えた場所に移動してしまっていることを知るのだ。自分が育った当時の家に行っていたり、我が家の一階から二階に移動していたこともあった。シヴァ大神の神殿に飛んでいたこともあった。テレポーテーションである。これは幻覚でも嘘でもない。そのうちに、テレポーテーションしたわたしを目撃したという人も現われた。……このようなことを通じてわたしは、時も空間も、そして自分自身さえも幻影だったのだと思うようになった。わたしはこのヨーガを〝幻身のヨーガ〟と呼ぶことにした。

5、光のヨーガ――神が送る光のサイン

やがて三昧においての最後のヨーガである〝光のヨーガ〟の段階に入る。このヨーガによってこの世や異次元を構成している光の意味を知るようになる。

そして尊師はコーザル世界にある「アーカーシック・レコード」と呼ばれる宇宙神素と結ばれた（下図参照）。これは過去から未来にわたる宇宙のすべての情報（もちろん個人的な情報も）が収められているデータバンクで、尊師が予言される際は、ここから情報を得られるのである。その後尊師のアージュニァー・チァクラが崩壊し、〝光のヨーガ〟は完成した。その結果、尊師は常に光の世界にいるようになり、コーザル体を霊視されたり、人の感情も光によって表されることに気づかれた。そして……

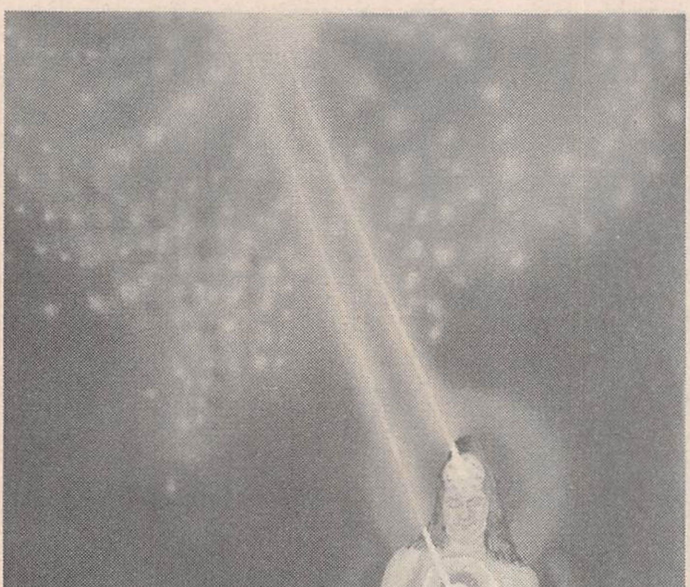
……最終的には、全宇宙の構成物質の中で、一番高レベルのものが光であることを知る（全宇宙は、光、音のヴァイブレーション、粗雑物質でできている）。

◉如実智見――真実の世界を知る

〝三昧〟がクリアできると、〝如実智見〟の段階に入ることができる。だが、その前に〝三昧〟でわたしが到達した考えをお話ししよう。整理して書くと次のようになる。

①諸行は無常である――全宇宙、全次元の万物は流転するものであり、決して元の形をとどめることはない。

②諸法は無我である――もろもろの観念・社会通念は、真我（本当の自分）の所有物ではない。



コーザル世界にある「アーカーシック・レコード」と結ばれる修行者

③存在が悪業を積む——人間も含めて生き物は、存在している（生きている）こと自体が悪業の源となってしまう。例えば、殺生や嘘が悪業に含まれる。
そして、「いっさいが苦である」という結論を得た。これが〝如実智見〟である。〝三昧〟によってすべてを知ってしまうと、〝如実智見〟が生じるのである。

◉遠離と離貪——心の解放

ところで、ここまで来たら、一時的にでも社会生活から離れた方がよいだろう。弟子や友人からも離れなければならない。……この期間は自分を確立するためにも離れなければならない。……これが〝遠離〟の段階である。

さて、新しい自分を確立するためには〝離貪〟の行を進めなければならない。〝離貪〟の行としては、特殊な瞑想が有効である。その瞑想は、心、体、物質などのすべてをグルに差し出すというものである。

◉解脱はニルヴァーナへのパスポート

この行を終え、心が消滅し真我が何の影響も受けなくなると、いわゆる唯我独存の状態が訪れる。これが解脱なのだ。生きていながらにして、苦のない状態である。また、好きなときに肉体を捨てて、ニルヴァーナに入ることが可能になっている。ただ、ニルヴァーナに入ってしまうと、二度とこの世には帰れない（帰る必要がない）ので、その時期は慎重に選ばなくてはならない。

ニルヴァーナに入った後は、意識も体も不滅となる。つまり、四大苦といわれている生老病死が存在しない。しかも、真我は永久に歓喜状態である。ここに真の幸福があるのだ。……

これが、尊師が日本で初めて解明された「縁起の法」に基づくクンダリニー・ヨーガによる解脱への全プロセスである。以上は尊師の名著『生死を超える』をごく簡単に抜粋・要約したものなので、もっとリアルでダイナミックな尊師の修行体験を具体的に詳しく知りたい方は、ぜひ『生死を超える』を直接お読みいただきたいと思う。

クンダリニーで明るい性格——次々と煩悩が止滅！

「自分の性格っていやだな……」。あなたも一度はこう思ったことがあるのではないだろうか。なにぶん、わたしたち人間の心の中には、ドロドロした醜い煩悩がぎっしり詰まっているのだから無理もない。怒り、嫉妬心、エゴイスティックな心……、自分の心を知れば知るほどますます嫌気がさしてくる。

「純粋で綺麗な心になりたい！」——そう熱望しつつも半ばあきらめているあなた。安心してほしい。道は開かれているのだ。そう、クンダリニー・ヨーガの実践がそれである。クンダリニーを覚醒させて上昇させていくと次々とチァクラが解放されていくのだが、その際に各チァクラに対応する煩悩が次々と止滅していくのだ。

では、各チァクラの解放によって、どのような煩悩が止滅されるのだろうか。

◎ムーラダーラ・チァクラ——邪悪心
◎スヴァディスターナ・チァクラ——性欲
◎マニプーラ・チァクラ——食欲
◎チァンドラ・チァクラ——イメージによるけがれ
◎スーリア・チァクラ——怒り
◎アナハタ・チァクラ——卑屈さ
◎ヴィシュッダ・チァクラ——嫉妬心
◎アージュニァー・チァクラ——現世の願望

こうして、解脱に向かっていく過程で、醜い煩悩がどんどん止滅していく。その結果、暗くて重たかった心が、次第に明るく軽くなっていく。そして、サハスラーラ・チァクラが解放されることによって、わたしたちは解脱するわけである。

こうして解脱することによって、初めてあなたは他人の苦しみを理解し、それを取り除いてあげる力を持つことができる。それこそ〝真の愛〟の実践なのだ。素晴らしき自分への変身は、解脱がもたらしてくれるのである。

最高の宝を得るために

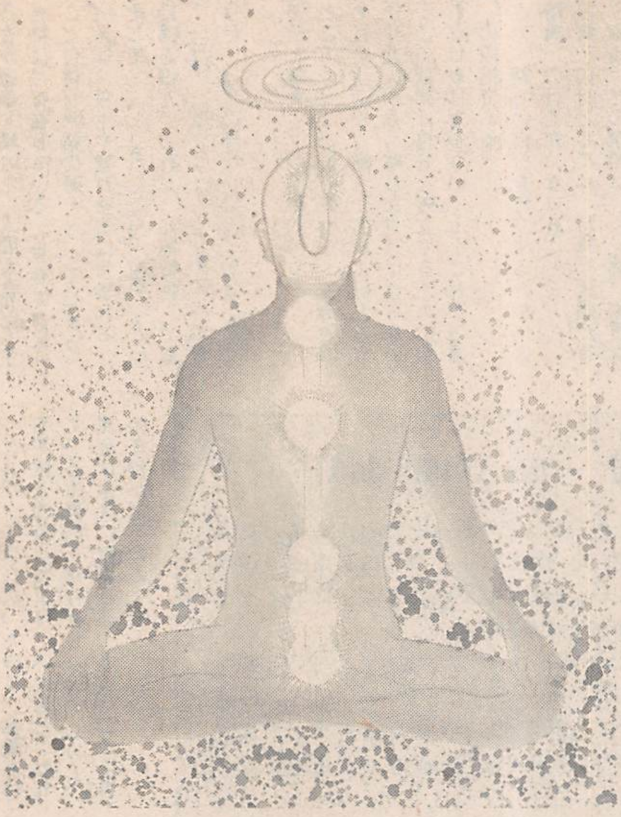
クンダリニー・ヨーガによる解脱。それはわたしたちに、この宇宙の真実の姿と絶対的法則を知らせてくれる。そしてわたしたちを苦界から解放し、神を超えた至高の境地、永遠の幸福へと導いてくれるのであった。それこそが、クンダリニーがもたらしてくれる〝最高の宝物〟に他ならないことが、よくご理解いただけたのではないだろうか。

事実、前掲のゴーピ・クリシュナも、自らの至福のクンダリニー体験（コラム参照）の後にこう語っている。

「その時にいたって私は、なぜ古代においてクンダリニーを首尾よく目覚めさせることが人間最高の偉業と考えられていたのか、なぜこの道を選んだ修行者が最後に手にする至高の宝のために、どんな高い犠牲も、どんなに大きな努力も払って悔いなかったのか、その理由をとらえることができた。インドでは、悉地成就したヨーガ行者にたいし最高の敬意が払われてきたし、また生前すでに覚者とされた人は、かなり時代を経たのちも、王侯貴族、有力者はじめ、あらゆる階層の人々から尊崇されているが、そのわけもわかった。たしかに、私が求めずして与えられたもの（クンダリニー体験）と比べると、この世にはそれよりみごとな栄誉とか、より貴重な財宝は存在しなかった。」（『クンダリニー』平河出版社 より）

ゴーピ・クリシュナはクンダリニー・ヨーガで解脱していたわけではなさそうだが、そんな彼でもその途中過程にすぎない体験にいたく感動し、〝世界で最も貴重な財宝〟として、自らの体験を世界中に紹介しているのだ（左コラム参照）。ならば、それをはるかに上回る解脱というものが、どれほど素晴らしいものであるか容易に想像がつくだろう。

このクンダリニーのもたらす〝最高の宝物〟を次に手にするのは、そう、あなたなのだ！



ゴーピ・クリシュナのクンダリニー体験

「定に入ると、展開される素晴らしい驚異の光景に完全に圧倒されて、いつしか私の感覚器官は魅入られたようになったまま、苦楽の入りまじった荒々しい世界から超感覚的次元に転送され、そこで私は、無限定の実在が拡がる果てしない大洋の中に身をひたし、言葉につくせぬ歓喜の光の波に洗われていた。その体験は実に不可思議なもので、私はそのみごとな光景が荘厳のきわみに達した時、全身が総毛立つのを感じた。

そのような時、私というか、私の中の見えざる知覚の中心は、光り輝く意識の海の強いひき潮の力で、肉体の中の安全な停泊地から引き離されていった。そして、地球上のあらゆるものを心服せしめる強大かつ広大な存在に没入し、私は、あらゆる束縛や限界に煩わされることもなく、果てしなく拡がる荘重にして崇高な驚くべき超物質的宇宙と融合していた。

ただそうした最中でも、私にはまだ肉体的自我がかすかに残っていて、内なる世界に開けた荘厳な光景を、ふるえながらじっと見つめていた。私は自分の到達した壮麗な境地に狂喜した。たしかに、自分が目覚めたクンダリニーを保持する特別に恵まれた人間であることに、何の疑いの余地もなかった。」（『クンダリニー』平河出版社 より）

修行で身につく神通力

——驚くべき尊師の神通の数々

パート4でも、チャクラ開発によって神通力が得られることを述べたが、本パートで紹介した解脱へ至るための修行を行えば、その過程で神通力は自然と身についていくのである。そして、その神通力こそ修行を進めるための重要な役割を果たすのである。

仏典には、「六神通」すなわち、

・神足通（化身を抜け出させ、行きたいところに自由に行く力）
・天耳通（遠くや近くの音、あるいは天界や人間界の声を聞く力）
・他心通（他の魂の心の働きを、その魂自身が気づかない潜在的な部分まで含めて認識し理解する力）
・宿命通（自分や他人の前世を知る力）
・死生智（自分や他人のカルマがどのように現われ、そして来世が形成されるのかということを理解する力）
・漏尽通（完全なる絶対なる神の叡智）

が記されているが、こうした能力が完全な解脱によって得られるのである。では、以下に尊師が示された神通力等について少々掲載しよう。

◉他心通——見抜かれたイメージ

談・聖者ウッパラヴァンナー供養値魂
二十七歳



尊師がある日、Tさんという女性のイメージをわたしに尋ねられたときのことです。

その女性は、わたしがまだ一度もお会いしたことのない方でした。わたしは答えるために、頭の中でその女性のイメージを箇条書きにしていました。

すると尊師は、

「ウッパラヴァンナーが想像しているTさんは、もの静かで、忍耐強く、夫によく従い、家庭をしっかりとやりくりするような良妻賢母だろう。」

とおっしゃったのです。わたしは、一語一句間違っていない尊師のお答えに、ただ、「はい」としか答えることができませんでした。しかもイメージした順序まで正確だったのです。

この他心通の正確さには、本当に驚きました。（『神通力』オウム出版 より）

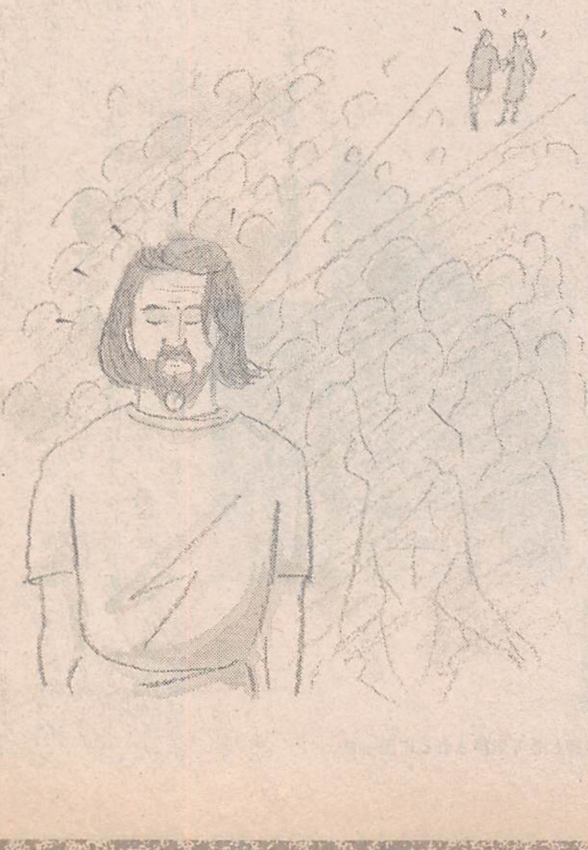
◉天耳通——十五メートル先のヒソヒソ話が聞こえる

（最聖麻原彰晃尊師著『超能力秘密の開発法』オウム出版 から抜粋）

ある日のこと、わたし（尊師）と女性の弟子二人は渋谷の雑踏の中を歩いていた。わたしが先頭を行き、彼女たちは十五メートルほど後方をついてくる形であった。

わたしは、喉のヴィシュッダ・チァクラに精神集中をして、歩きながら修行を続けていると、彼女たちのヒソヒソ話が聞こえてくる。かなり離れており、しかも雑踏の中である。超能力によって聞こえてくるのである。

女性は何かとおしゃべりだから、普段は彼女たちの会話など気にも留めないのだが、そのときの彼女たちの話はポイントがずれているということが聞いている



うちにわかった。その夕催された「超能力レセプション」の結果について云々していたのである。わたしの弟子である以上、物事を正確に見てほしいので、振り返り、彼女たちが近付いてくるのを待って言った。

「それは、そうじゃない。どんな能力も〝期〟が熟さない限り駄目なことがあるのだ。」

わたしにそのように言われて、二人がびっくりしたのは言うまでもない。絶対にだれも聞いているはずのない内緒話であったのだから——。断わっておくが、ヴィシュッダ・チァクラに精神集中をしていたから聞こえただけの話で、普段は別に盗聴しているわけではない。

遠隔透耳（天耳通）の場合、距離には関係なく、いつもすぐそばで聞くような大きさで音や声が聞こえるということが、大きな特徴であろう。

◉遠隔透視——距離を超えた共時性

談・聖者ウルヴェーラ・カッサパ到達光師　三十二歳



尊師は、いつでもわたしたち弟子を見ていらっしゃいます。

名古屋での話です。尊師はホテルで寝ていらして、私達は名古屋支部で寝ていました。突然、ミラレパ大師（現正悟師）が起きたのです。すると間髪を入れずに、電話が鳴りました。それは尊師からの電話で、尊師はこうおっしゃっていました。

「ミラレパが起きたのがわかったから、電話したんだ。」

わたしはその光景を見ていたので、「なるほど」と思いました。

こうしたことは、度々経験しています。部屋に戻るやいなや、自分に電話がかかってきたり、尊師の部屋の前に立っただけで、「ウルヴェーラ・カッサパか、入れ」と言われたりすることがあります。

あるとき、出家修行者になろうとしていた人が、オウム真理教のだれにも言わずに、インドに旅行していたことがあったのです。だれもそれを知らなかったのですが、その人に話題が及んだとき、尊師は、

「あれ、今、日本にいないんじゃないか。インドに行ってるヴィジョンを見たぞ。」

とおっしゃっていました。尊師の前では、隠し事はできないのです。（『神通力』オウム出版 より）

◉宿命通——過去世の記憶で現在を知る

談・聖者ヤソーダラー最上善逝



サマディに入って多くの過去世を思い出すことのできる超越神力を宿命通といいますが、尊師の宿命通がまさしく本物だと実感したエピソードがいくつかあります。

一つはチベットに行ったときのことです。尊師は、

「ガンデン宮殿へ行きたい。ガンデン宮殿はデプン寺と同じ場所にあるはずだ。」

と言われていました。

しかし、ガイドブックを集めてルートを検討していた正悟師たちは、

「そんなところにはないですよ。」

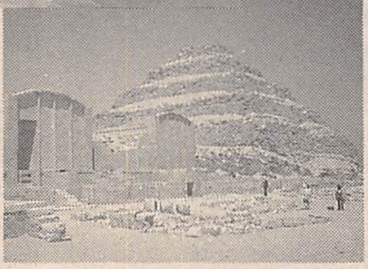
と言うし、実際わたし自身がガイドブックを見てみても、違う場所に書かれているのです。

ところが、実際にデプン寺へ行ったら、そこにガンデン宮殿があったのでした。

尊師によると、同じ場所にあると知っていたのは、過去世の記憶があったからだということでした。ガンデン宮殿は、ポ



はるか五千年の時を超えて尊師の記憶は甦る



ジェセル王の階段ピラミッド



イムホテップの像
多岐にわたる才能は古代エジプト人に尊敬され、工作の神として崇拝されるに至った

タラ宮が建てられる以前にダライ・ラマ五世が住んでいた宮殿なのですが、尊師は当時チベットに転生されていたのだそうです。

同じように、エジプトでも尊師はわたしたちをびっくりさせました。オウム真理教は古代エジプトの秘儀をも導入しているのですが、最古のピラミッドといわれているジェセル王の階段ピラミッドを訪れたときのことです。尊師が、

「これは、わたしがアインファテプという名の宰相だったときに建造したものだ。」と言われ、玄室の位置から入口、葬祭殿の位置、それらの使用目的に至るまで、過去世の記憶にしたがって説明されたのでした。

当時、既に尊師は視力をほとんど失っており、事前にそんなことをお一人で調べることなどおできにならないということは、そこに居合わせただれもが知っていましたので、尊師の宿命通のすごさに感じ入ったものです。

後でその宰相のことを調べてみたところ（現代では、彼の名をイムホテップと発音していますが）、尊師と同様にあらゆる知識に通じた万能者とされていたので、あらためて尊師はイムホテップであられたんだなと思いました。

その他にも、尊師が宿命通によって思い出された過去世の記憶に従って、地形や宗教、風俗、産業などを調べてみると、そのとおりだったということが数限りなくあります。（最聖麻原彰晃尊師著『超越神力4』オウム出版 より）



◉死生智

死生智が身につく前には、まず〝宿命通〟という自分の過去世を知る神通力が身につくのであるが、そのプロセスについて尊師の体験を紹介しよう。

「あの日もわたしは瞑想していた。瞑想は深く深くなってゆき、三昧（瞑想の究極状態）の状態が訪れた。すると、わたしのアストラル・ボディ（異次元で動く肉体とは別の身体）が肉体を抜け出した。肉体を抜け出したアストラル・ボディは、まばゆいばかりの光の方向へと飛んでいった。そこには光源がある。どうもアストラル・ボディは光源へと引き寄せられているようなのだ。光源が間近に迫った。それでもアストラル・ボディはそのまま飛び続ける。――そして、とうとう光源を突き抜けて、光源の裏に出たのだ。その瞬間だった。わたしが宿命通を得たのは！」（前掲『古代エジプトの秘儀を解く』より）

こうして宿命通を獲得された尊師は、ご自分の前世を次々と思い出された。さらに、死生智の身につくプロセスについて次のようにおっしゃっている。

「まずサマディ（三昧）に入って、暗闇に意識が没入する経験を、何度も何度も行なう。次に代謝が落ち、完全に呼吸が止まり、心臓が停止する。そして、この停止状態を過ぎると、いろいろな世界の光が降りてきて、その光に意識を集中して飛び込むと、ヴィジョンによって自分の次の転生先を知ったり、いろいろな世界とつながったりすることができるのである。」（最聖麻原彰晃尊師著『超越神力2』オウム出版より）

以上に挙げたのは尊師が示された神通力のほんの一部である。尊師の神通力の詳細については、オウム出版から発行されている『超越神力1～4』『神通力』をご覧いただきたい。特に『超越神力4――わたしは見た！これが尊師の超越神力』には、弟子が目撃した尊師の驚くべき神通力の数々が満載されているので、ぜひご一読いただきたい。

PART 6

オウム真理教の修行で 最短・安全に覚醒

クンダリニーの100%活用のために



知能の飛躍的向上、あらゆる才能の開発、超能力の獲得、そして神々を超えた至福の境地・解脱……。史上最強のスーパーエネルギー・クンダリニーは、数え切れないほどの宝物をあなたに与えてくれる。そして、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜という、世界中の宗教が目標としている至高の境地へと導いてくれる。あなたの夢は限りなく膨らむばかりだろう。

しかし、だ。ここで重要なことを思い出してほしい。あなたのクンダリニーは、まだ眠っているのだ。度々述べてきたように、クンダリニーを活用してスーパーパワーを発揮するためには、まずそれを目覚めさせなければならない。クンダリニーの覚醒こそが、すべてのスタートなのである。

では、いったいどうやって目覚めさせればよいのだろうか。

第一章 困難かつ危険——クンダリニー覚醒の実態



困難で危険な覚醒

結論から言うと、クンダリニーを覚醒させることは非常に難しい。ヨーガの本場インドでは、一生懸命修行しても覚醒までに最短でも五年はかかるとされており、また悲しいことに一生覚醒しないというパターンが非常に多い。それだけ困難なことなのだ。神通力者や解脱者が世界に数えるほどしかいないのも、そのためである。

そして、問題は〝困難〟ということだけではない。その上、覚醒には大変な〝危険〟も伴うのである。クンダリニーは人間を神以上に進化させるだけのエネルギーだけあって、そのパワーは極めて強烈である。だから、もし難行苦行の上にようやく覚醒に成功したとしても、そ


クンダリニー覚醒は大変難しく、間違って覚醒させると死を招く恐れすらある

のすさまじいパワーに振り回されて、心身ともに異常をきたし、ときには廃人になってしまう危険性すらあるのである。あたかも、強大な原子力エネルギーをコントロールしきれずに、滅亡しつつある人類のように……。

　なお、いま述べたクンダリニー覚醒に伴う危険性は、決して脅しなどではなくて、定説である。それは次の修行者・識者たちのコメントを見ても明らかだろう。

◉「あなたの頭の中の無意識の領域に、突然厖大な量のエネルギーがドッと流れ込んでくるようすを、あなたは一体想像することができるだろうか。そのような状態が、まさにクンダリニーの覚醒によって現実に引き起こされるのである。……準備なしにクンダリニーを解き放つことは、中から出てくるものを処する力なしにパンドラの箱を開けるようなものである。」（スワミ・ラーマ）

◉「クンダリニーの上昇には非常な危険が伴うもので、偶発的に、あるいは時期尚早にもかかわらずクンダリニーを上昇させてしまった人に降りかかる危険の重大さはどんなに誇張しても誇張しすぎることは決してない……勝手にクンダリニーを弄ぶと、クンダリニーが勝手に動き、その結果の苦痛をしばしばもたらしたり、肉体の細胞組織が容易に破れたり、はては肉体の死に至ることさえおきる。」（A・E・パウエル）

◉「……クンダリニーを間違って目醒めさせると、それは恐ろしい破壊力となって現われ、他人を傷つけると同時に、自身の一生をも破滅に導く結果となるのである。……或る人々は、其のために精神分裂を起したり、また狂想状態の人間と変わるものさえある。」（関口野薔薇）

◉「私の経験から言うと、クンダリニー覚醒の初期には、耐えがたい頭痛が伴う。それもズキン、ズキンといった性質のものではなく、しめつけられるような頭痛である。……ひどいときには吐いた。それから数々の神経症状にも悩まされた。もう完全な精神病患者である。」（高見誠）

（以上引用文献／『クンダリニーとは何か』めるくまーる社／『神智学大要1』たま出版／『ヨガ行法中伝』霞ヶ関書房／『ジュニャーナ・ヨーガへの道』森北出版）

　このように、クンダリニーを正しい条件のもとで覚醒させないと、わたしたちは悲惨な末路をたどるわけである。

　あのゴーピ・クリシュナも、十七年間にもわたる瞑想の後にクンダリニーが覚醒してしまったのだが、その直後から心身ともに想像を絶するドン底の状態に陥ってしまった。彼はその状態のことを「夜昼の別なく吹き荒れていた神経の暴力の嵐」と呼んだが、その危険性について次のように語っている。

「間違った経路を伝わってクンダリニーが上がったり、あまりにも急激に動き始めたりすると、いろいろな形で発狂したり、ノイローゼになったり、あるいは治療しにくい神経的あるいは精神的苦痛に悩まされたりするようになる場合がある。……きわめて深刻な影響が出てくる。つまり、めまいがしたり、感覚を喪失したり、興奮しやすく短気になったり、極端な場合、精神錯乱あるいは全身麻痺を起


正しくない覚醒によって“魔境”に陥る例が多々ある

こして死んでしまうこともある。」（前掲『クンダリニー』より）

ちなみに、ゴーピ・クリシュナは、クンダリニーがもたらした心身の苦痛を解決してもらおうと、インド中のあらゆる高名な人物——聖者を含めて——を訪ね歩いたのだが、だれも正しい処置をほどこすことができず、さじを投げ出してしまった。普通の人（もちろん医者も）では到底対処できないほどに、クンダリニー覚醒のもたらす心身異常は複雑怪奇なものなのである。



覚醒にはグルが不可欠

非常に難しくて、しかも時には死をもたらすという危険極まりないクンダリニーの覚醒——。

「せっかく〝青い鳥〟を目の前にしているのに、手にすることはできないのか……」という落胆の声も聞こえてきそうだが、そんなにがっかりしないでほしい。というのも、クンダリニーを容易に安全に目覚めさせる唯一の方法が残されているからである。

それは、正しく力のあるグル（霊的指導者）の指導のもとで修行を行なうことである。これも修行の世界では〝定説〟である。次に挙げる修行者や識者のコメントからも明らかである。

◉「多くの著者が、クンダリニー・ヨーガは危険な道程であると書いている。しかし、これは、たとえば熟練者の指導を受けずに車を乗り回そうとする場合でも同じことが言えるはずである。そこで**クンダリニーを覚醒させるもっとも安全で、もっともすぐれた方法は、クンダリニーに精通したグルの祝福を受けることである。**たとえどんな方法でシャクティ（クンダリニー）が目醒めるにしても、この道に関するかぎり、グルの祝福は絶対に必要である。神の意志を吹き込まれると、グルは、それを受けるに足る弟子の眠っているクンダリニーをかき立てようとする。」（ヨーギ・アムリタ・デーサイ）

◉「**豊富な経験を積んだグルの指導なし**に、自分ひとりで強力な組織的技法を操り、クンダリニーを目醒めさせようと企てる人は、どんな人であろうと必ず危険な目に会わざるを得なくなるということを、いまここではっきりと指摘しておきたい。」（同右）

◉「真摯な心をもった求道者に対して、私は、**まず正統の資格をもった指導者に**つき、そしてその指導者のもとで伝統的な形でタントラ教典を学び、その後で初めてクンダリニーを覚醒させるための実践を始めることを勧めたい。」（スワミ・ラーマ）

◉「では、ごく普通の知識をもってクンダリニーを見つけ出すには、探求者は一体どうすればよいのだろうか。**それはひとえに師を見つけること……**」（スワミ・シヴァナンダ・ラダ）

◉「**大師または経験豊かな先輩密教家の指導、監視がない限り、**仮にもそのような試み（クンダリニー覚醒と上昇）など決してしないように厳重な警告を発する次第である。」（A・E・パウエル）

◉「**クンダリニーを覚醒させる為には、良き師を選んで其の指導を受ける必要があるのである。**……実際上の行法を修得しようと思う人は、書物によらず、**『生きた人間』としての大師を先ず求むべきである。**」（関口野薔薇）

（以上引用文献／前掲のとおり）

修行者や識者が右に述べているように、**クンダリニーを覚醒させるための最も容易で安全な方法は、クンダリニーについて熟知したグルのもとで修行を行なうこと以外にはない。**クンダリニーを勝手に覚醒させて廃人になってしまった人は数知れないが、もし彼らがグルのもとについて修行をしていれば、そのような悲劇を招くことは当然なかったであろう……。



クンダリニーを安全かつ容易に覚醒させるためには、正しいグルのもとにつかなければならない

第二章

唯一の覚醒法――オウム真理教のシャクティーパットで安全敏速



正しく力のあるグルを求めよ

　さて、待望のクンダリニー覚醒への道は開かれた。それは、あなたのクンダリニーを安全容易に覚醒させてくれるグルのもとにつくことである。早速あなたのグル探しを始めようではないか。

　しかし、グルならだれでもいいというわけではない。なぜって、先にも述べたとおり、あなたのグルは〝正しく〟しかも〝力のある〟グルでなければならないからだ。もし正しいグルでなければ、クンダリニーを覚醒させた後、あなたを魔の方向に引っ張っていってしまうかもしれない。もし力のあるグルでなければ、クンダリニーを覚醒させることは当然できないし、覚醒させたとしてもあなたをリードすることができない。最悪の〝グル〟は、クンダリニー覚醒後に心身に変調をきたしたあなたを放置してしまうだけだ（日本のある宗教団体の中にはこのような例がある）。

　現在、世界中にはグルと自称している人は星の数ほどいるが、その中で〝正しく力のあるグル〟はほんのひと握りしかいないと言っていい。グル選びは自分の一生、いや来世の運命にまで影響を与える重要なことだ。だから、インドではグルを探すために一生を費やす人もいるというほどである。



本物のグル――最聖　麻原彰晃尊師

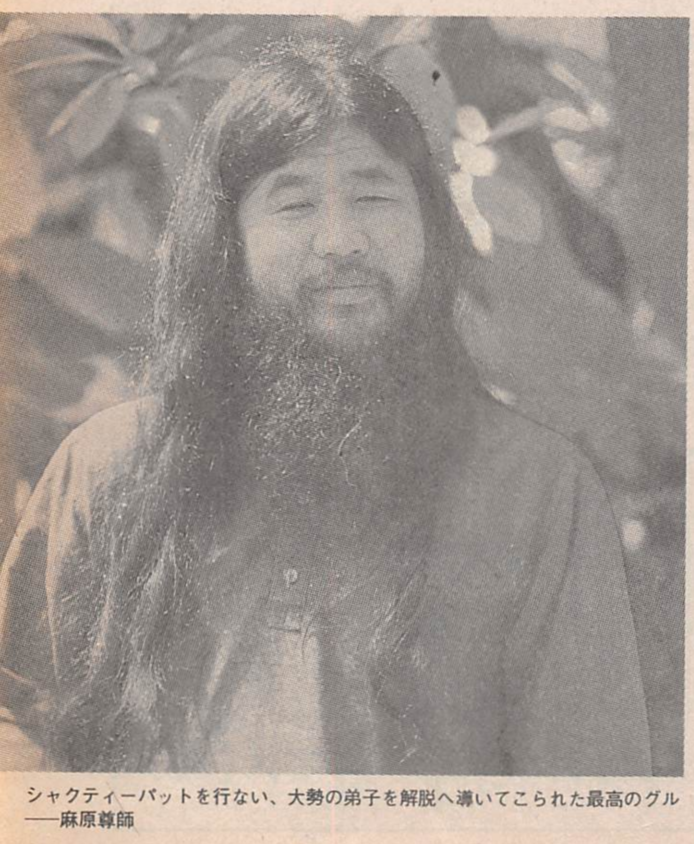
「しかし、そんな本物のグルなんて日本にいるんだろうか？」

「インドかチベットにでも行かないと会えないのでは……」

多くの人がこう思うことだろう。しかし、心配御無用。あなたの目の前にいるのだから。そう、オウム真理教を率いる最聖麻原彰晃尊師のことである。

　事実、麻原尊師が、クンダリニーを安全敏速に覚醒させてくれる秘儀「シャクティーパット」を行ない、百名以上の弟子をクンダリニー・ヨーガの成就に導いてこられたことは、精神世界に詳しい方の間ではあまりに有名な話である。

　シャクティーパット――それは、解脱者による聖なるエネルギー移入の儀式である。施し手は、あたかも〝印を押す〟かのように受け手の額に指を当て、そこから修行によって得られた高い世界の聖なるエネルギーを注入する。これによって、受け手のクンダリニーが速やかに覚醒してしまうのである。



シャクティーパットを行ない、大勢の弟子を解脱へ導いてこられた最高のグル――麻原尊師



オウム真理教だからこそ可能

このシャクティーパット、だれにでもできるというわけではない。修行によって煩悩が止滅された境地、すなわち仏典でいうところの「阿羅漢」という高いステージに至って初めてその資格が得られるのである。

現在世界中を見渡しても、このような高度な修行ステージに到達した人はほんのわずかしかおらず、したがってシャクティーパットを行なっている聖者もほとんど存在しない。また行なっているといっても、それは一生のうちに二、三回しか行なわないとか、頭にちょっと触れる程度のもので、オウム真理教が行なっているような本格的なものには到底及ばない。



聖者マハー・ケイマ最上善逝



聖者ヤソーダラー最上善逝



聖者マイトレーヤ智徳成就者







現在、尊師の後をついでシャクティーパットを行なっている３人の高弟。３人とも「阿羅漢」のステージに達したきわめて高レベルの修行者である

オウム真理教のシャクティーパットは、十分間にもわたって受け手にエネルギーを注入し続けるというものであり、また一定の修行条件を満たした人すべてに対して行なわれているのだ。現在シャクティーパットは、阿羅漢以上のステージに達した尊師の高弟の中でも特に厳しい修行をした者が引き継いで行なっているが、オウム真理教のシャクティーパットを受けた延べ人数は、すでに一万人以上にも及んでいるのである（オウム真理教のシャクティーパットの詳細は、『原爆覚醒』『奇跡のエンパワーメント』〈いずれもオウム出版刊〉を参照のこと）。

現在では世界にほとんど見られない〝最高のクンダリニー覚醒法〟シャクティーパット――これをこれだけ本格的に、しかも公に多くの人に行なっているのは、世界広しといえどもオウム真理教しかない。なぜオウム真理教にそれが可能なのかというと、オウム真理教には、

①二千五百年前に真理勝者サキャ神賢が説かれた原始仏教の教えを中心とした古今東西のあらゆる真理が、矛盾のない教義として確立されており、

②その教義に基づいた、修行者各人に適した完璧な修行体系が存在し、


全ての修行プロセスを知り尽くした最高のグル──麻原尊師


修行をスピーディに進めるイニシエーション、忙しい現代人には不可欠である


オウム真理教の教義は原始仏教をはじめ古今東西の真理が体系づけられている


尊師の適確なご指導により解脱へ導かれた弟子たち

③修行を飛躍的に進めるイニシエーション（エネルギー移入を含めた秘儀伝授のこと／シャクティーパット等）が存在し、
④修行の全プロセスと弟子のことを知り尽くしている優れたグルが存在し、
⑤その結果として、多くの弟子たちが解脱し、シャクティーパットが可能な「マハー・ムドラー」という高い修行ステージに到達している、からに他ならない。

まあ、その詳しい話は別の書籍に譲るとして（最聖麻原彰晃尊師著『宗教の条件』オウム出版を参照のこと）、ここでは皆さんの関心の的であるシャクティーパットについて続いて述べていくことにしよう。



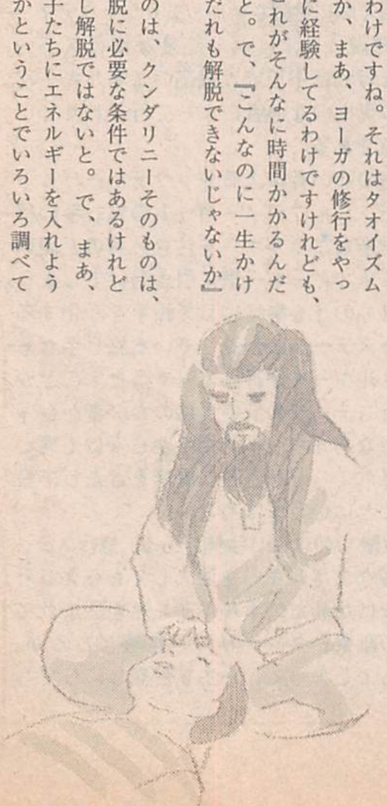
“最聖”のすさまじきパワー

「まず、いろんなインドの教典、その日本語の翻訳、あるいはそのインドの教典を読んだという人が書いた内容を読みますと、『クンダリニーの覚醒は危険である』とか、あるいは『それはほとんど無理である』とか、あるいは、『三年以上の激しい修行をしてやっと覚醒するかしないかである』とか……。

ところが、わたし自体、そのクンダリニーの経験というのは、初期の段階で経験してるわけですね。それはタオイズムの修行とか、まあ、ヨーガの修行をやってるときに経験してるわけですけれども、『なんでこれがそんなに時間かかるんだろうか』と。で、『こんなのに一生かけてたら、だれも解脱できないじゃないか』と。

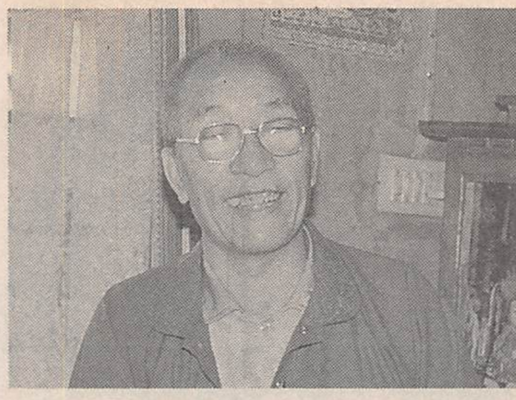
というのは、クンダリニーそのものは、確かに解脱に必要な条件ではあるけれども、しかし解脱ではないと。で、まあ、よって弟子たちにエネルギーを入れようじゃないかということでいろいろ調べていきますと、シャクティーパットという技法があると。じゃあ、やってみよう、ということでやったら、いきなり弟子たちがクンダリニーを覚醒し出したということなんですね──。」

これはある雑誌のインタビューの中で、麻原尊師がシャクティーパットを始めた



きっかけについて語られたその一部を抜粋したものである。尊師は弟子を速やかに解脱に導くためにクンダリニーを覚醒させようと考えられ、シャクティーパットを試みられたわけだが、それに簡単に成功したのは、尊師が世界中の聖者から絶賛されるほどの最高の修行ステージに到達していらっしゃったからである（※尊師は、チベット仏教の成就者から〝イシェ〟＝〝完全なる絶対なる神の叡智〟のステージだと言われ、タントラ・ヴァジラヤーナ仏教を国教とするブータン王国からは〝最聖〟の称号が贈られている。詳細は巻末『聖者からのメッセージ』『世界との交流』参照）。

もちろん、現在シャクティーパットを行なっている尊師の高弟たちも、同様に仏典に記されている〝聖者〟のステージにあることはすでに述べたとおりだ。





↑尊師を〝イエシェ〟と絶賛したカムトゥール・リンポチェ師（元・ダライ・ラマ法王宗教局長・チベット仏教ニンマ派の成就者）
←ブータン国王と。尊師は同国から〝最聖〟の称号を贈られた



劇的！クンダリニーが覚醒した

さて、理論を並べるよりも、実際にシャクティーパットを受けた人の体験談の方が説得力がありそうなので、早速以下に尊師と尊師の高弟によるシャクティーパットの体験談をご紹介することにしよう。

◉虹色の光の後に……

M・N（二十四歳）

尊師からシャクティーパットを受けていると、虹色の光が二本見えた。一本は、左下から右上へ、そしてもう一本は右下から左上へといずれも斜めに走った。

「クンダリニーが昇ったよ。」

という尊師の声が聞こえたとき、その光は螺旋状に変わっていた。

シャクティーパットが終わったとき、身体が動かなくて起き上がれなかった。催眠状態のような感じがしたけれども、意識ははっきりしていて、身体がなくなってしまったような感じで手足の感覚は全くなかった。

その後、小周天という、エネルギーを転回させる技法を行なったところ背骨が熱くなり、アナハタ・チァクラ（胸）から後頭部へものすごい量のエネルギーが昇っていった。その夜は寝ているときでも背骨が暖かかった。

◉素晴らしい尊師のエネルギー

S・R（二十九歳）

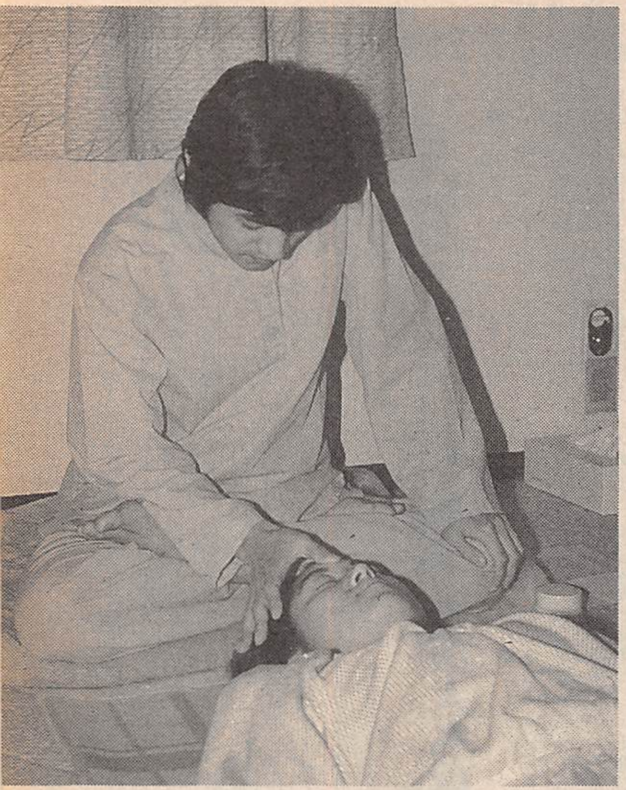
尊師のエネルギーが私のアージュニァー・チァクラ（額）に注入され、私の尾てい骨のムーラダーラ・チァクラを熱くさせ、そのエネルギーに引っ張られるように、

ニセ・シャクティーパットにご用心！

クンダリニーを瞬く間に覚醒させてしまうシャクティーパット。この、「阿羅漢」とよばれる高度な修行ステージに到達した者でなければ不可能な最高のエネルギー移入が、一部ではその資格のない者によって行なわれているというから要注意である。

というのも、資格のない者によるシャクティーパットは非常に危険なのだ。シャクティーパットの施し手は受け手に高い世界の神聖なエネルギーを注ぎ込むのと同時に、受け手の悪いエネルギーを一気に引き受けてしまう。つまり、施し手は自分の身を犠牲にして相手を浄化するのである。高い修行ステージに到達している施し手ならば、受けた悪いエネルギーを修行によって落とすことができるが、もし修行ステージの低い資格のない者がシャクティーパットを行なったら……。相手から受けた悪いエネルギーに翻弄されて、心身ともに異常をきたして狂人になってしまうことはいうまでもない。

そして、もっと危険なのは受け手側である。修行ステージの低い者から神聖なエネルギーを注入してもらえるわけがない。煩悩的なけがれたエネルギーを注ぎ込まれてしまうだけだ。その結果、クンダリニー覚醒どころか、低い世界とつながってしまって、一生を台無しにしてしまうだけである。



夢のクンダリニーを覚醒させるオウム真理教のシャクティーパット

熱が上へ上へと昇りつめました。それに伴い心臓の鼓動が非常に速くなり、呼吸が荒く乱れ、全身がしびれ、そして硬直していき、自分の思い通りにならないという状態となったのでした。この時、頭の中では（これはどういうことなのか？）と思いながら、私の最初のシャクティー・パットは終わったのでした。尊師は、この状態を『歓喜』だと教えて下さいました。

　そして、徐々に修行を進めていくうちに自分一人でも『歓喜』を味わえるまでとなったのです。最初は偶然に起きたことが、今では、意識をアージュニァー・チャクラに集中することによって、ムーラダーラ・チャクラから各チャクラを通ってクンダリニーが上昇し、身体もシャクティーパットの時と同様な反応をするのです。これによって、初回のシャクティーパットの時の疑問が解決し、修行の道へまた一歩進み出したのです。

　また、シャクティーパットの回を重ねるごとに尊師のエネルギーの素晴らしさに、身体、心ともに歓喜は増すばかりで、満足感、幸福感以上のとても言葉では表わせないものが、私を包み込んでいるように思えるのです。

◉熱いお湯のようなものが

Ｈ・Ｈ（三十六歳）

　頭を向けて横になると、尊師は指をアージュニァー・チャクラに当て、二、三度グルグル回転すると、「これは、堅いな。」とおっしゃいました。私は実は霊体質で、九年間以上も魔境に入ったままで、何人もの霊能者、超能力者に施療をしてもらいましたが完治せず、いつも頭が締めつけられるようで、筋肉が凝っていたのです。だから、そのことをおっしゃったのかなと思って目を閉じていると、何やら尾てい骨の中がどろりと溶けて、あついお湯の様なものが背骨の中を上下しながら昇ってくるのが、はっきりと感じられました。どんどん上昇するように祈っていましたが、へその少し上の部分で止まって、それ以上動かなくなってしまいました。

　シャクティー・パット終了後、尊師に、私の霊体質の原因は、マニプーラ・チャクラがすでに開いていたからで、アナハタ・チャクラが開かれるならば、この最悪の体質から抜け出せるということを教えていただき、目の前が急に明るくなりました。

　その夜、尊師から授かった、ヒヒイロカネをアナハタ・チャクラの上に置き、マントラを唱えると、尾てい骨が熱くなり、閉じている目の前が、赤くなったかと思うと、濃い紫色でいっぱいになりました。

　それからは四、五日に一度くらいの間隔で尾てい骨から白いものが、シューという感じで頭頂めがけて上昇し、ボワッという感じで頭から出てゆくのが夢うつつの状態ではっきりと見えました。

　そのころから身体ともに良好な状態に向かっているのが自分でも良く理解できるようになりました。

◉半信半疑だったが……

Ｍ・Ｍ（三十五歳）

　シャクティー・パットの体験談ですが、一回目は、閉じている目の前が少し明るくなると同時に尾てい骨が暖かくなり、背骨を虫がはって昇っているように感じました。

「クンダリニーが昇ったよ。ムーラダーラとアナハタとアージュニャーの三つのチャクラが開いたからね。ところで、アナハタ・チャクラが開いたので胸が痛くなるだろうから気をつけなさい。」

と、尊師は言われた。

　その時、私は以前本を読んで知り得た知識で、クンダリニー覚醒が大変な苦痛を伴うものだと思っていたのに苦痛を感じないままだったので、半信半疑で帰途に着きました。

　しかし、三日後の夜、寝ていたら尾てい骨がドクドク脈打ってきたのです。その脈打つ音が、だんだん大きくなり不安になってきました。しばらくその状態が続いていたのですが、今度はかなりの痛みが尾てい骨を襲い、その痛みが背骨を伝わって頭の方へ昇っていくという体験をしました。それから時々、胸と尾てい骨がチクチク痛むことがありました。

　二回目のシャクティー・パットは、いくつもの色の光が虹のように見え、その色を緑、オレンジ等とはっきり識別することができました。

　三回目のシャクティー・パットの時は、何かパッと光ったと思うと虹色の光が現

われてうずのようにぐるぐる回り、その中心に自分が引き込まれていく感じがするのです。やがて気が遠くなりかけたと思ったら、パッと辺りが輝いたように感じました。

「白銀の色が見えただろう。よく修行しているね。」

と、尊師は言われました。

◉駆け上るクンダリニー

M・N（四十一歳・兵庫県尼崎市）

ヤソーダラー正悟師（現正大師）の指がわたしの額に載せられ、ゆっくりと回転を始めた。しばらくすると、下腹から強い圧力が上り始め、腹部のバンダ（引き締め）が自動的に起こり、手足がバタバタ震え出し、その圧力は胸から頭頂へ上がった。

今度はスシュムナー管の中を、まるでジュースがストローの中をピューッと通過するようにクンダリニーが駆け上がり（頭頂を）刺激した。それが四、五回繰り返されたとき、ベルが鳴った。

十分がとても長く感じられた。体は熱く、額には汗が吹き出し、頭はボーッとし、心は満足感にひたっていた。

◉尾てい骨からエネルギーが

H・K（十七歳・東京都新宿区）

しばらくすると、（目はつぶったままですが）視界が明るくなってきました。そして紫色（あるいは薄い青）が見え続けたのを覚えています。そのとき正悟師から「光に包まれているでしょう」と言われました。そういえば、なんだかホワーンとしていい気持ちです。エネルギーが入っていることが実感できました。

またしばらくすると、尾てい骨に熱くドロドロしたものが現われました。全身は至福感に満たされ、本当に幸せな状態が訪れました。こんな幸せは生まれてこの方、一度も味わったことがありませんでした。「これがシヴァ大神（オウム真理教の主宰神）のエネルギーなのか」、わたしはシヴァ大神と偉大なグルの素晴らしさをより深く理解することができました。

オウム真理教のシャクティーパットのリアルな体験談は、最聖麻原彰晃尊師著『イニシエーション』にも多数掲載されているので、そちらもご覧いただきたい。



外国人も体験！

さて、驚かれたのではないだろうか。尊師や尊師の高弟たちのシャクティーパットが、あんなに困難で危険といわれるクンダリニーの覚醒を瞬時にして可能にしてしまうのだから。これが精神世界に詳しい人々の注目を集めて大評判になったことはもはやいうまでもなかろう。

ところで、

「シャクティーパットは実は暗示か催眠術の一種ではないのか？」

と疑う方もいるかもしれないが、そうではないことをハッキリと示す証拠がある。というのも、**尊師はこのシャクティーパットを言葉の通じない外国人に施して、見事成功させていらっしゃるのである。**

それは、八八年六月、ニューヨークのオウム真理教道場にて、アメリカ人の信徒二人に対して行なわれた。衆人環視の中、尊師から三十分にもわたるシャクティーパットを受けたセーラは、その後皆の前でこう語っている。

「今日、麻原尊師にシャクティーパットをしていただきました。その体験を皆さんにお話ししたいと思います。

わたしは入信してまだ日が浅く、クラスに数回出席しただけでした。だから、シャクティーパットの体験者に選ばれたのは幸運でした。

シャクティーパットを受けている間、わたしには、多くの影の中に紫のエネルギーが飛び回り、ときどきそれと白銀が交ざるのが見えました。

いま思い出したのですが、紫の前には美しい緑色が見えていました。そのエネルギーはとても気持ちの良いものでした。その後、わたしはいくつかのドアのヴィジョンを見ました。そして、昔の人工的に着色したカラー写真のように見えるドアを通り抜けました。ドアを通り抜けると、そこは濃い金色の世界で、多くの影がありました。そして、わたしの中の何かが出てきて流れていきました。



尊師から30分のシャクティーパットを受けたセーラ



88年6月、ニューヨークで行なわれた尊師のシャクティーパット



尊師のシャクティーパットで神秘体験をしたエリック・ジョンソン

終わりの方になると、胸とおなかの上部に大変気持ちの良い重みを感じました。そして、わたしは起き上がるように言われました（本当は起き上がりたくなく、そのままでいたかったのですが）。

強いエネルギーと胸から解き放たれた何かが、上昇するのではなく外に向かって出ていくようでした。安らぎも感じました。しかし、それにも増して、わたしは強いエネルギーを感じ、自分自身がとても堅固になっているような気がしました。」

さらに、尊師からシャクティーパットを受けたもう一人の男性エリック・ジョンソンも、次のように体験を語っている。

「シャクティーパットを受けた直後、わたしは麻原尊師がこすられたアージュニァー・チャクラのところに、冷たさと穴が開いたような感覚を覚えました。同時に、胸の辺りに強く上昇するような感覚がありました。

シャクティーパットの後、妻がレストランでわたしを待っていました。わたしは道場を離れたいという気持ちが全然なかったのですが、妻の望みに応じることにしました。

レストランへと向かって歩いている間、自分が肉体からも周囲の世界からも分離しているかのように感じました。この感覚は、わたしがお気に入りのレストランに着き、妻の友人たちに会ったときいっそう強くなりました。すぐに、中の二人の男性がわたしにあいさつしようと手を差し出してきました。

なるべくそっと、その手を握ろうとしましたが、それでも気が進みません。わたしは自分がここにいられないんだということを悟り、オウムの道場に帰って食事を取りました。そして、しばらく経ってから、妻に再び会ったのでした。」

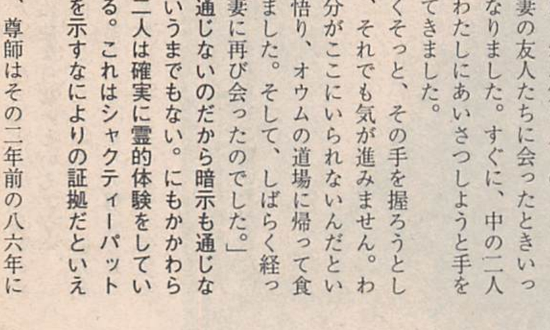
言葉が通じないのだから暗示も通じないことはいうまでもない。にもかかわらず、この二人は確実に霊的体験をしているのである。これはシャクティーパットの実効性を示すなによりの証拠だといえよう。

さらに、尊師はその二年前の八六年にも、インドにおいてドイツ人青年に対してシャクティーパットを施されている。しかもこのときは、その青年に対して何も告げずに行なわれたのだ。その結果だが、青年は、

「虹色の光が見えました。ものすごく心地よくなって、しびれて身体が動かなくなってしまった。エネルギーが尾てい骨から頭頂に向かって強く昇っていくのがわかりました。」

と語っているのだ。

オウム真理教のシャクティーパットがクンダリニーを覚醒させる正真正銘のエネルギー移入であることはもはや疑いあるまい。



何も告げずにドイツ人青年に対して施してみたところ、彼もクンダリニー体験をした



尊師から見たシャクティーパット

さて、シャクティーパットの受け手側の体験ばかり紹介してきたが、ここで施し手である尊師の側から見たシャクティーパットの様子を見てみよう。以下は、尊師のご著書『超能力秘密の開発法』（オウム出版）からの抜粋である。

「相手のクンダリニーが覚醒していく様子は、霊眼で見ている。まず、相手の眉間に当てたわたしの親指から白銀色の光がスシュムナー管（クンダリニーの通り道）を通って尾てい骨のムーラダーラ・チァクラまで降りていく。これを三回ほど繰り返すと、光はパッと消えてしまう。これは、スシュムナーにクンダリニーの通り道ができたことを意味する。

さらにシャクティーパットを続けていると、小さな豆粒ほどの赤い点が相手のムーラダーラ・チァクラに四点くらい見え始める。このとき、わたしのムーラダーラ・チァクラも呼応してむずがゆくなる。それらの点は初めは離れて見えるのだが、やがて一カ所に集まり、逆三角形を作る。そのとき、わたしのムーラダーラ・チァクラは熱くなる。三角形は次第に大きくなり、骨盤ほどの大きさにまでなる。わたしのムーラダーラ・チァクラはいっそう熱くなり、エネルギーが上へと昇り始める。同時に相手の赤いクンダリニーも上へと昇り始めて、それがわたしの親指のところにまで到達すると、相手の身体全体が赤く見えるようになる。これで第一回目のシャクティーパットは終了である。たいていこれでクンダリニーの覚醒も終了する。シャクティーパットを受けた人は以後超能力をどんどん獲得していくことができるのである。」



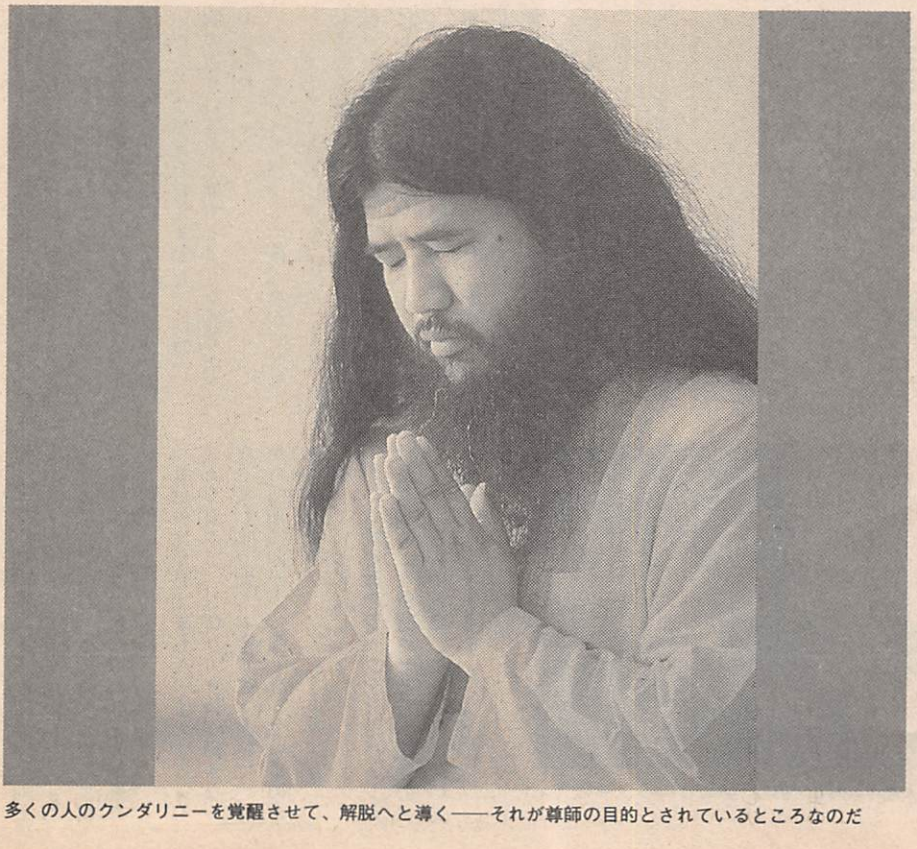
最終の救済兵器

「シャクティーパットはただ一つ人類を救済できる、最終の救済兵器だと思います」

尊師はこう語られているが、このお言葉は意味深長である。

度々述べてきたように、クンダリニーは人間の精神レベルを高い次元にまで引き上げる働き、つまり解脱をもたらしてくれる。この滅亡の危機を迎えている世紀末の世界を救うことができるのは唯一「解脱」だけであるとおっしゃる尊師にとって、一人でも多くの人のクンダリニーを覚醒させ、解脱に導くことは至上の命題なのである。よって、クンダリニーを安全速やかに覚醒させることのできるオウム真理教のシャクティーパットは、まさに尊師のおっしゃるとおり「最終の救済兵器」に他ならないといえよう。

知能を向上させたいあなたも、能力を開発したいあなたも、そして解脱を果たして人類を救いたいという壮大な希望を持っているあなたも、ぜひシャクティーパットを受けてみていただきたい。そして、その目で、その耳で、その体で真実の世界を体験していただきたいと思う。



多くの人のクンダリニーを覚醒させて、解脱へと導く――それが尊師の目的とされているところなのだ

第三章

前代未聞の奇跡的な覚醒——尊師の偉大なエネルギーによって



本を読んで覚醒！

「尊師の本を読んだだけでクンダリニーが覚醒した！」

クンダリニー覚醒の難しさを知っている者にとってはウソのような話だが、これはオウム真理教の出家修行者でクンダリニー・ヨーガの成就者である聖者サンジャヤ上流師の実際の体験である。以下に師に語っていただこう。



聖者サンジャヤ上流師

八八年の三月、まだオウム真理教に入信する前のことでした。わたしはTMという瞑想団体に入っていたのですが何の効果も得られなかったため、そこの実践をやりながらも、本物を求め続けていました。その結果、オウム真理教の書籍に巡り合いました。その素晴らしさに夢中になり、それから一カ月間はただひたすらオウム真理教の本を読み続けました。

すると、『生死を超える』を読み始めたころから、不思議な体験をするようになりました。ギリギリギリと、マニプーラ・チァクラに棒を突っ込まれるような痛みを感じたり、頭の上から気のようなものが抜けていくのを感じたり……。まさに、『生死を超える』に書いてあるとおりの神秘体験でした。

クンダリニーの覚醒が起こったのは、それから数日経ったときです。その日もオウム真理教の書籍を夢中で読んで、うとうとしていました。すると、

「バーン」

と、突然発破を仕かけたような爆音が体を走り抜けました。びっくりすると同時に、

「ああ、これは本に書いてあったことと同じだ。」

と冷静に見つめている自分がいました。しばらくすると、尾てい骨から何やら熱いものが上昇してきます。

「これが、クンダリニーか！」

それは、マニプーラ・チァクラを通り抜け、アナハタ・チァクラを通り抜け、喉の辺りまで昇ってなくなりました。その後、気のようなものが上がって、頭蓋骨がククッと音を立てるのを感じました。朝起きてみたら、肩の辺りに熱っぽさが残っていて、その後二、三日は体がしびれたままでした。

それから少しして、コロコロと鈴虫のような音（ナーダ音）が聞こえるようになり、これも尊師のご著書どおりで、ますます本物であるとの確信を得るようになりました。

そして、一週間後、オウム真理教に対する揺るぎない確信によってわたしは入信を決意しました。





聖者サンジャヤ上流師のクンダリニーを覚醒させた『生死を超える』と他のオウム真理教の書籍群



尊師のマントラで覚醒!

「そんなことってあるのか?」

シャクティーパットだけでもびっくりなのに、その上、本を通じても相手のクンダリニーを覚醒させることができるとは……。麻原尊師のパワーのすさまじさに思わず目を疑ってしまうのは無理もない。しかし、これは紛れもない事実なのだ。

いや、話はこれだけではない。なんと**尊師のマントラ(真言)を聞いているだけで覚醒した人**までいるのだ。それは、同様にクンダリニー・ヨーガの成就者である聖者ガンポパ化身成就師の次の体験である。



聖者ガンポパ化身成就師

オウム真理教の集中修行が行なわれる場所に向かう途中のバスの中で、目を閉じて尊師の唱えるマントラを聞いていたわたしは、不思議な体験をしました。まず、自然と眉間のアージュニァー・チァクラに意識が集中しました。するとそこにプレッシャーがかかり始め、そのプレッシャーはだんだん強くなっていって、とうとう体全体にまで広がってしまいました。その広がり方は、まるで湖面に波紋が広がっていくようです。その過程で、体の前面五センチくらいのところで、牛乳瓶ほどの太さの熱気が上昇するのを感じました。その熱気は、黄色もしくは黄金色でとても綺麗なものでした。あごまで昇ると、今度は尾てい骨とあごの間で上下動を繰り返しているのです。次第に気持ちが良くなって、今まで感じたことがないほどのリラックス状態に入りました。素晴らしい幸福感に浸っているようです。辺りは、白っぽく輝いている光に包まれています。そして、意識は上へ上へと引き上げられていきました。

この状態は、尊師がマントラをおやめになった後もしばらく続きました。しかしそのときは、どうしてこんなことが起こったのか見当もつきませんでした。その後、尊師はわたしの状態を見て、

「クンダリニーが上がったんじゃないか?」

と、言われました。そこでわたしは、バスの中での体験を尊師に話しました。やはりそれがクンダリニーの覚醒だったのだそうです。そして、そのときマニプーラ・チァクラまで開いていたのです。



弟を通じて覚醒!

実に神秘的な話だが、そのテの話は尊師の周りにはいくらでもある。例えば、同様にクンダリニー・ヨーガの成就者である聖者ヴァンギーサ到達光師の次の体験がそうだ。



聖者ヴァンギーサ到達光師

記念すべきわたしのクンダリニーの覚醒——。それは、あまりにも突然に、そして劇的にやってきました。

八六年十一月のことです。当時、印刷会社に勤めていたわたしは、その日、営業の仕事で得意先に出かけていました。

いつものように商談をしていると、ちょうど夜の八時ごろでしょうか、いきなり体がものすごく熱くなり、下痢をしてしまいました。そして、まるで腰が抜けたような状態になり、何とか立てることは立てるのですが、歩けなくなってしまったのです。

突然のことで、いったい何が起こったのかわけもわからず、

「……救急車を呼んでください!」

と叫ぶわたしに驚いた周りの人たちは、救急車を呼んでくれ、わたしは近くの病院にかつぎ込まれました。

そこで入院となったわけですが、点滴を受けながら、わたしは何か妙な心持ちがしていました。

「変だな。おかしい。」

というのも、そのときの意識の状態というのが、今までに経験したことのないものだったのです。それまでだと高熱が出ると意識がもうろうとしたのですが、なぜか、非常にはっきりとしていて鮮明である(計ってみると四〇度ぐらいありました)。また、現実の世界が、いつものようにリアリティーがなく、現実でないような感じがする——。

おまけに、その病院の検査では、全く身体に異常はなく、医者も何が原因か首をかしげるばかりだったのです。

実は、これがクンダリニーの本覚醒だったのでした。そのとき、わたしはまだオウム真理教の修行を始めていなかったので、指導してくださるグルもおらず、自分に何が起こったか理解できなかったのです。

ところで、なぜ、修行を行なっていないのに、クンダリニーが覚醒してしまったのでしょうか? それには、深いわけ

がありました。

わたしの弟が、そのときオウム真理教に入信していて、ちょうど九月ごろにシャクティーパットを受けていました。縁の深い者は、アストラル世界でつながっているといいますが、弟がシャクティーパットで受けた尊師のエネルギーが、アストラルを通じてわたしの方に流れてきていたのです。それで、わたしのクンダリニーが覚醒してしまったのでした。

「尊師のエネルギーというのは、なんてすごいんだろう。」

後になって、つくづくそう思いましたが、それにつけても、クンダリニーが覚醒する前に入信していたら……と悔やまずにはいられませんでした。



最高のグルの証明

本を通じて覚醒させる、マントラを通じて覚醒させる、本人の弟を通じて覚醒させる……。こうした奇跡は通常は極めてまれなのだが、実際に起こり得るのだから驚きである。こうした現象について、スワミ・ラーマは次のように語っている。

「……こうしてこれらの行法は、ついにシャクティパット・ディークシャーと呼ばれる高度な行法伝授の儀式に到達する。この儀式において、師は自らのエネルギーを直接弟子に送り込む。そして弟子の最後の障害物を取り除き、眠っている蛇を目醒めさせ、彼女を上方へ導こうとする。しかしときとして、きわめて高いレベルで活性化している人の場合には、磁石が近くの金属を引きつけてしまうように、無意識のうちにまわりの人に影響を与えてしまう場合もある。」

また、ヨーギ・アムリタ・デーサイも、

「人によってはグルの書いたものを読んだだけで、あるいはグルの写真を見ただけでシャクティパットを受ける。この聖なるエネルギーは、意識的にも無意識的にも転送することができる。あるいはそれがどんなものであれ、グルのものにたんに触れるだけでも、弟子の中には火がともり得る。」

と述べている。

そう、スワミ・ラーマが言うように、**こうした奇跡を起こされる麻原尊師が「きわめて高いレベルで活性化している人」であることは疑いない。**本格的なシャクティーパットができるグルですら世界にはほとんど存在しないのだから、ましてやシャクティーパットを経ずにこのような間接的方法によって他人のクンダリニーを覚醒させることのできるグルに至っては、世界でただ一人麻原尊師しかいらっしゃらないと言っていいだろう。

歴史上まれに見るグル・最聖麻原彰晃尊師――。あなたも尊師の本を集中して次々と読めば、クンダリニーが覚醒するかもしれない!?

第四章

高い世界に至るために――必要不可欠な功徳の実践



功徳は修行のエネルギー源

ところで、ようやく夢にまで見たクンダリニーの覚醒を成し遂げたという方には、ぜひ知っていただかねばならない重要なことがある。これは、ある意味ではクンダリニーを覚醒させることよりもずっと重要なことで、場合によっては命にもかかわってくることなのだ。

それは何かというと、「功徳」のことである。功徳とは善性のエネルギーのことで、その人の心を軽く明るくし、高い世界へと導く働きがある。エゴから離れた一般的に良いとされている行為（後述するように〝真理〟にのっとっていなければならないが）をなすことによって、その人に蓄積されていく。功徳は目には見えないが、それはエネルギーとして確実に存在しており、コーザル世界を霊視すれば白い点として見ることができる。功徳の多い人には願望成就などの多くの幸福がもたらされる。

そして、この功徳とは、車がガソリンで動くのと同じように、修行を進める上での必要不可欠なエネルギー源なのである。特にクンダリニーを覚醒させた後は、この功徳が絶対に必要となってくる。これはクンダリニーを活用して能力開発をしようという人にも、解脱を果たそうとしている人にも共通していえることである。

なぜ必要なのかというと、クンダリニーのエネルギーはわたしたちの意識をアストラル世界やコーザル世界といった異次元の世界へとつなげる働きがあるのだが、もし功徳がなければ大変な目に遭ってしまうのだ。というのも、アストラル世界やコーザル世界には、高い幸福な世界から低い恐怖の世界までが存在しており、その人の功徳の量によって経験できる世

界が違ってくるからである。つまり、功徳があれば自分にとってプラスになる高い世界の体験をすることができる（高位の神々と接触したり、至福の境地を体験したりする）のだが、逆に功徳がなければ悲惨な世界の体験をすることになる（いわゆる金縛りにあったり、幽霊を見たり、気味の悪いものに襲われたりする）のである。頻繁にそのようなひどい世界に飛び込んでいると精神的なバランスを崩してしまうのはいうまでもない。

このような状況を「魔境」というが、この魔境に入ることを避けるためにも絶対に功徳が必要となってくるわけだ。ちなみに、世間には霊能者と称して「キツネやヘビの霊が見える云々……」という人がたくさんいるようだが、このような人たちは修行によって異次元とつながったのはいいが、功徳がないために低い世界とつながって気味の悪いものを見ているだけなのである。

クンダリニーを覚醒させて幸福になりたいあなたは、功徳を積む実践を怠ってはならないわけだ。



←功徳があれば高い世界の有意義な体験を



←功徳がなければ低い恐怖の世界の体験が

最高の功徳の積み方――「八つの功徳」



「じゃあ、どうすれば功徳は積めるんだい？」

とおっしゃる方のために、功徳の積み方を具体的に述べよう。それには、仏教でいう「八つの功徳」を実践するのが一番いい。それは、

①仏陀に対する帰依（帰依とは奉仕、布施、教えを広めるなど）
②仏陀の説かれた「真理の法則」の教えに対する帰依
③「真理の法則」を実践している集いに対する帰依
④生き物を殺さないで慈しむ
⑤人に物を施し盗まない
⑥愛のない性的交わりをやめ、いかなる人とも心から和合する
⑦嘘、必要のない言葉、仲たがいさせる言葉、悪口をやめ、愛をもってすべての人に優しく語る
⑧心を乱すお酒、タバコなどをやめ、絶えず安定した優しい心を持って周りと和合する

という八つの実践である。

この①から③は、仏陀が存在する真理の団体に属さなければ実践することが難しいが、④から⑧を実践するだけでも大きな功徳となることは確かである。つまり、クンダリニー覚醒後は真理にのっとった生活を送ることが何よりも重要なのだ。

さて、この実践によって功徳は確実に増えていき、クンダリニーの覚醒後に高い世界の素晴らしい体験ができるようになる。そして、あたかもガソリン満タンの車が高速道路を快走していくように、功徳に満ちたあなたはスピーディーに修行を進め、クンダリニーのもたらすあらゆる宝物を手中に収めることができるに違いない。





集え、最高のグルのもとに

わたしたちを夢のような境地へと導いてくれるクンダリニー——。それを活用するためには、

まず最初に覚醒させねばならないこと、

そして、覚醒させるためには正しく力のあるグルのもとにつかねばならないこと、

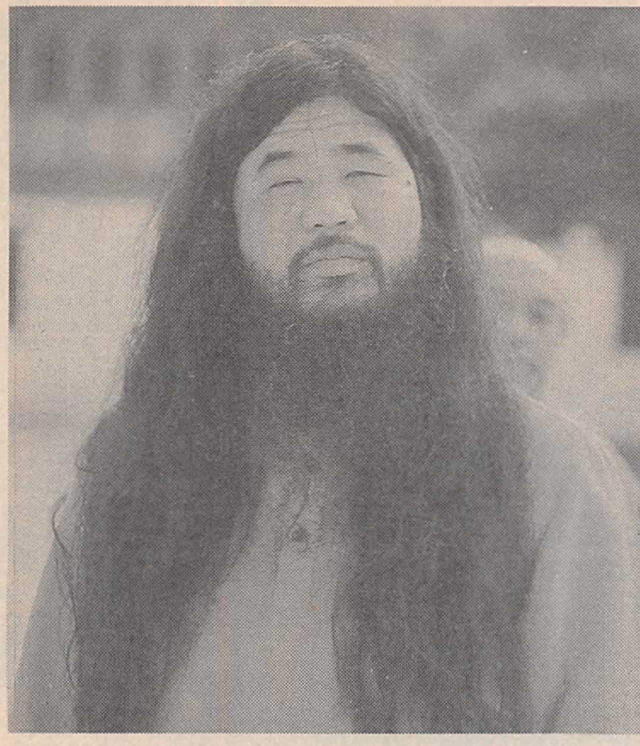
そして、そのための最高のグルが最聖麻原彰晃尊師であり、

覚醒のための最高の技法がオウム真理教のシャクティーパットであること、

さらに、覚醒後には功徳の実践＝真理にのっとった生活が必要不可欠である、ということがわかった。

さあ、あなたの前には今、無限の可能性への道が大きく開かれた。知能の向上、才能開発、超能力覚醒、そして至高の境地・解脱……。これまでは〝聖者〟と呼ばれるほんの一握りの人にしか許されていなかった無上の境地が、あなたの眼前に、すぐそこに広がっているのだ。もはや何を迷う必要があろう。オウム真理教の門を叩き、史上まれに見るグル・最聖麻原彰晃尊師のもとに集おうではないか。そして、大勢の先達たちの後に続いて、安全確実に神々を超えた境地への第一歩を踏み出そうではないか。

なぜって……。世紀末に登場することが予言されている〝超人たち〟の一人とは、あなたに他ならないのだから——。







PART 7

クンダリニーを覚醒させた者が地球を救う!

21世紀の主人公はあなただ



今日、幸運にもクンダリニーに巡り合ったあなたは、きっと人生観が一変してしまったに違いない。「今日をかぎりに〝凡人〟からはおさらばして、明日からは新しい生き方を始めよう」と。

ところで、驚かないでほしいのだが、その決意はあなた個人だけではなくて、人類全体にも非常に大きな影響を与えるのだ。

「えっ!」

と、やっぱり驚かれるかもしれないが、〝クンダリニーを覚醒させて超人へと至る道〟――あなたが選択したその道は、実は、古今東西の賢人たちによって長く待望されてきた人類理想の道であり、また、後世の歴史家たちによって高く評価されるであろう黄金の道に他ならないのである。



危機を迎える世紀末の人類

「自分はそんな大げさなことをやろうとなんかしてないぞ。」

とおっしゃる方、その前にまずよくよく見てみてほしい。この世紀末を迎えた人類の現状を。

なんと汚れ、乱れきっていることであろうか、この世界は。絶えることなき大小の戦争、急増する世界中の軍備、理不



尽な人種差別、大規模な自然破壊、親殺し子殺し、残虐化し増加する一方の犯罪、目を覆わんばかりのモラルの低下……。まさに滅亡を前にした人類の末期的症状のオンパレードである。

なぜ、このようなひどいことになってしまったのかというと、それは人類の精神レベルが極端に低下してしまったからである。どのように生きることが正しいことなのかということもわからぬまま、物質主義に毒され、エゴをむき出しにし、欲望を満足させることだけに熱中してきた末路がこれだ。その上、現在進行しつつある食糧危機やエネルギー危機が深刻化すれば、すぐにでも大戦争が始まって、人類は本当に滅亡してしまうだろう（最聖麻原彰晃尊師著『人類滅亡の真実』参照）。

解脱しかない!

このような瀕死の状態を打開するためには、より多くの人々を解脱へ導いて精神レベルを引き上げる以外にない。

「〝解脱〟が二十一世紀の日本を、そして世界を背負う!」

と述べられる麻原尊師は、その理由を次のようにおっしゃっている。

「ではなぜこの解脱が、二十一世紀の日本を、そして世界を背負うことになると言い切っているのだろうかと。それは、わたしたちは、一般にいわれる教育というものによって自己を形成している。この教育と呼ばれているものは、例えば一万人いたら一万人、例えば十万人いたら十万人、例えば百万人いたら百万人が同じものを学ぶと。つまりわたしたちのデータの中には、同じもの、同じ発想、同じ知識というものが内在しています。そしてその同じもの、同じ発想、同じ知識によって、同じ――例えばいい部分と、同じ過ちと両方を行なっていると。

ということは、その同じ過ちを取り除くためには、別の角度から当然アプローチしなければならないわけだが、なかなかそれは難しいということになると。ここでいったんゼロにし、完全に清算し、そして新しい現象に対するアプローチによってのみ、それを乗り越えることができるというのが、わたしの考え方です。」

（九一年六月四日・北海道大学にて）

地球上のだれの手にも負えない難問を解決するためには、〝既成の観念をいったんゼロにし、完全に清算し、現象に対する新しいアプローチ〟をしなければならない――。そのために人類は、解脱を果たして進化を成し遂げ、精神レベル・知的レベルを格段に向上させなければならない、それしか方法がない、と尊師はおっしゃっているのである。

そして、この解脱のカギを握っているものが、他ならぬクンダリニーであることは、度々述べてきたとおりだ。

人類を栄光の時代へ――クンダリニーの役割

クンダリニーが人類を飛躍的に進化させ、山積する諸問題を一挙に解決し、人類が長年にわたって夢みてきた理想社会を実現してくれる――。事実、このような期待は各方面から数多く寄せられてきた。例えば、前掲のクンダリニー研究家ジョン・ホワイト氏は、

「クンダリニーに関する知識が普遍化することによって、人類の諸問題を処理すべく出現する高潔なる天才が、今後何人も輩出することになる」

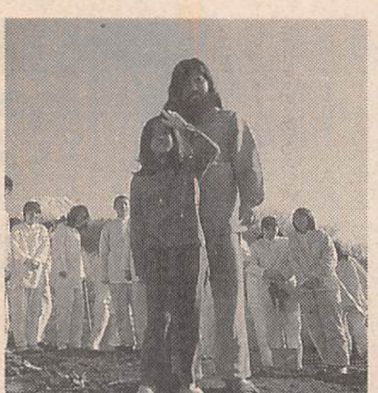
「クンダリニー体験は、個人的変容という広い視点から考えるならば、悟りへの道であると言い得るであろう。しかしもし仮に、悟りをひらいた非常に多くの人々が、一度に社会の中に現れてきたとしたならば、おそらく社会自体も変容してしまうに違いない。」

と、クンダリニーが人類に〝進化〟をもたらしてくれるであろうと述べている。

また、かのゴーピ・クリシュナも、

「これは、人間が目的もなく押し合いへしあいしている群居の次元から、また戦いに明けくれている個人的な次元から、あるいは自らを自覚していない無明の次元から、魂の至高の輝きを体験し覚醒した人間たちによる調和した集団へと変容するための、聖なるメカニズムなのである。」

と語り、クンダリニーによる人類の光輝く未来の可能性について多大な期待を寄せている（それぞれ前掲『クンダリニーとは何か』『クンダリニー』より）。



書籍案内

『人類滅亡の真実』

滅亡の真実を克明に解き明かす、真理勝者サキャ神賢と最聖麻原彰晃尊師が贈る人類啓蒙の書。果たして我々人類は滅亡するのだろうか? 救われる道は? 今再び仏陀からのメッセージが届いた。



980円

オウム真理教の歴史的使命

　このような期待がなされているように、クンダリニーはまさしく人類を高度な生命体へと進化させる機能を持っている。現に、古今東西の文明にその記述があるように、クンダリニーはそれぞれの時代において〝生命進化促進装置〟の役割を果たしてきた。

　そして世紀末の危機を迎えた今、このクンダリニーによって、人類は質量ともに歴史上かつてなかった大規模な進化を遂げるべき時期を迎えている。それは世界中の予言書に、今世紀末に進化する超人たちが新しい地球を創っていくと予言されているとおりである。

　このはるかの昔から運命づけられていた世紀末の人類の飛躍的な進化は、大宇宙の摂理ということができよう。そして、この大宇宙の意思を促進する歴史的な使命を担っているのが他ならぬオウム真理教であるということも、実は過去から予言されていたことなのである。

ゴーピ・クリシュナの期待に応えて

「クンダリニーを覚醒させる最も安全な方法が発見されて、肉体的にも精神的にもクンダリニーの覚醒者としてふさわしい高尚な人々が、自分の身体の上でその知識を実際に応用するようになると、人類は多くの心霊的、精神的巨人を輩出する時代を迎えることになる。彼らが、そして彼らのみが原子力時代ならびにポスト原子力時代において、人類の安全を確保しつつ正しい仕方で、神の司祭であるとともに政治を司る最高の職務を遂行しうるのである。」（前掲『クンダリニー』より）

　これはゴーピ・クリシュナの予測であるが、正論である。この言葉は、彼がまさにオウム真理教の登場を予感していたのではないかと思わせる。事実、彼は、

「クンダリニーの探求は、創造の知力に近づくことを目的としている。それゆえこの企図に参画せんとする者には、重大な責務が課されることになる。この特異な現象を経験主義的に扱い、その背後に秘められている知識を開示すべき運命のときが、まさに近づきつつあることを私ははっきりと実感する。」（前掲『クンダリニーとは何か』より）

と述べているのだ。

　クンダリニーの開発を通じて人類を進化させ、新しい世界を創っていく使命を担う団体、オウム真理教――。オウム真理教が歴史の表舞台へ登場することは、ゴーピ・クリシュナよりもはるかに鮮明な形で、あの大予言者ノストラダムスや、〝予言の中の予言〟といわれる『ヨハネの黙示録』によって、はっきりと予言されているのだ。

ノストラダムスが予言していたオウム真理教のシャクティーパット

　大予言者として有名なノストラダムスは、十六世紀のフランスに生きた人物である。彼は瞑想によって数々の未来ヴィジョンを見て、それを謎めいた四行詩に表現し、その詩集を『諸世紀』と題して発行した。

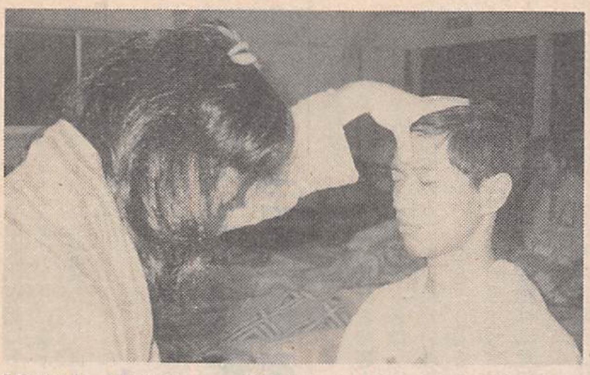
　彼は人類のその後の歴史を恐るべき正確さで予言していたのだが、特に驚くべきは、今世紀末に人類が決定的な破局を迎えるという終末予言である。しかし彼は、その大破局の際に救世主や救済の団体が登場し、多くの人を超人に進化させて人類を救うとも予言しているのだ。そして、その彼の予言の中に登場する救世主や救済団体の記述を見てみると、最聖麻原彰晃尊師とオウム真理教の特徴と恐ろしいほどに一致するのだ。詳細は『理想社会9』を参照していただきたいのだが、ここでは世紀末救世主・麻原尊師のシャクティーパットが予言されている詩を一つご紹介しよう。

「第四章　三十一
真夜中、高い山の上に月
ただ一つの頭脳を持つ新しい賢人がそれを見た
弟子を通じて不死になることを訓戒する
目は南に、手は内奥、体は火に」
（一五五五年版・オウム真理教翻訳チーム訳）

　ここに出てくる「ただ一つの頭脳を持つ新しい賢人」、これが救世主のことである。というのも、「ただ一つの頭脳」



尊師のシャクティーパットを予言していた大予言者ノストラダムス



「手は内奥、体は火に……」、予言されていたシャクティーパット

とは、この世でその人物しか持ち合わせていない頭脳ということであり、「新しい賢人」とは知性と智慧を兼ね備えた聖者のことを指している。つまり、人間を超えた偉大な精神性を持った唯一の人物ということになり、救世主を意味していることは疑いない。現に、他の予言でも同じ表現を使って救世主を表わしている例がある。

そして、この第四行目の神秘的な記述——これがシャクティーパットの描写なのである。シャクティーパットの際、受け手の額に手を置くことはすでに述べたが、この「手は内奥」というのが、それによって相手の心の内側を操作することを表わしている。そうしてクンダリニーが覚醒し、体温が上昇し、「体は炎」となる。「目は南に」は、南にあるといわれる理想郷「シャンバラ」を目標としているのに他ならない。また、シャクティーパットは初期の頃には「山の上」で行なわれたのである。

普通の人が見ただけでは一見何のことかさっぱりわからないが、まさにシャクティーパットの記述としかいいようがないのである。ただ、これだけでは、

「他の人のシャクティーパットじゃないのか?」

と疑われる方もいるかもしれないので、これが尊師によるものであることをここで証明しておこう。

それは、この詩の番号を見ればわかる。

この詩の番号は四章の三十一。そこで『諸世紀』の出版年の一五五五年に四百三十一を足してみると一九八六年となるのだが、これは麻原尊師が宗教活動とシャクティーパットを開始した年とピッタリ一致するのだ。ちなみに、ノストラダムスが年代を表わすのに数字のトリックを使っていたということは、よく知られている。

まさしくこの詩は、世紀末救世主・麻原尊師のシャクティーパットによって、多くの人がクンダリニーを覚醒させて超人となっていくことを予言しているのである(ノストラダムスの予言の詳細は、最聖麻原彰晃尊師著『ノストラダムス秘密の大予言』を参照のこと)。

『ヨハネの黙示録』も予言

そして、あの『ヨハネの黙示録』にも麻原尊師とオウム真理教が予言されているのだが(詳細は『理想社会9』参照)、その中には、次のようにオウム真理教のシャクティーパットが予言されているのだ。

「もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た。彼は地と海とをそこなう権威を授かっている四人の御使にむかって、大声で叫んで言った、『わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない』」(第七章)

「額の印」——これがシャクティーパットを表わしている。シャクティーパットは受け手側の額に、まるで印を押すかのように指を置いて、霊的エネルギーを入れる技法であることはすでに述べたとおりである。

ところでここでは、オウムのシャクティーパットが終了するまでは、〝地と海と



「額に印を押す」——ヨハネは、オウム真理教のシャクティーパットをこう描写していた

木〟とをそこなうような変化が起こらないと記されている。つまり、言い換えれば、シャクティーパットが終わると世界も一気に終末を迎えるということになる。
現在、オウム真理教のシャクティーパットは続行中だが、予言によると、額に印を押される人の数は限られている。あなたも早くそのうちの一人となり、「神の僕」＝超人類への道を歩まんことを願う（『ヨハネの黙示録』の詳細は、最聖麻原彰晃尊師著『滅亡の日』『滅亡から虚空へ』を参照のこと）。

二十一世紀の主人公はあなただ！

オウム真理教の行なうシャクティーパットを受けてクンダリニーを覚醒させ超人に進化した人々（ノストラダムスは「別の者」と表現している）が、新しい理想的な世界を建設していくことになると、ノストラダムスや『ヨハネの黙示録』ははっきりと予言している（詳細は『理想社会9』参照）。興味深いことに、これらの予言は、インドにおける今世紀最大の哲学者といわれるシュリ・オーロビントの言葉、すなわち、
「クンダリニーを開発した人々が集まった超人たちの社会こそ、次の時代を担うものだ。」
や、先程紹介したゴーピ・クリシュナの予測、すなわち、
「クンダリニーを覚醒させる最も安全な方法が発見されて、肉体的にも精神的にもクンダリニーの覚醒者としてふさわしい高尚な人々が……ポスト原子力時代において……神の司祭であるとともに政治を司る最高の職務を遂行しうる」
とも見事に一致する。
「〝クンダリニーを覚醒させる最も安全な方法〟を世界で唯一実施しているのがオウム真理教であることは繰り返すまでもない。そして、オウム真理教のシャクティーパットを受けた人々が二十一世紀の主人公となっていくであろうことは、もはや疑いあるまい。


クンダリニーを覚醒させて、歩め、黄金の道

歩め！黄金の道を

神秘のスーパーエネルギー、クンダリニー。その真相を追っていくうちに、わたしたちは予想もしない様々な衝撃的事実に出会ってしまった。
知能の向上、才能開発、超能力覚醒といった現実的な可能性はもとより、それが世界中の宗教の本質であり至福の境地である〝解脱〟をもたらしてくれることがわかった。
そして何よりも、クンダリニーが今世紀末において人類を進化させる重大な役割を担っていること、さらに、多くの人々のクンダリニーを安全敏速に覚醒させ、超人に進化させ、超人類による理想的世界を建設していくのがオウム真理教・最聖麻原彰晃尊師に他ならないこともわかった。
今日、幸運にもクンダリニーと巡り合い、そして明日から修行によって新しい人生を歩もうとされているあなた——。あなたの歩もうとされている道、それは歴史的ターニングポイントを迎えている人類が歩んでいくべき、予言されていた黄金の道なのである。

好評！ あなたとオウムをつなぐ

パソコン通信、"オウム真理教ネット"

オウムについてもっと詳しく
知りたい……
教義その他について、いろいろと
聞きたいことがある……
オウムの人たちの生の声を
聞いてみたい……
そんなあなたに最適な
情報ネットワーク



"オウム真理教ネット"のご紹介

TEL番号	03-5370-1726(四回線) Tri-P利用可能(CXAUMNET)
通信速度	1200/2400bps
通信条件	BITS-8 PARITY-NONE STOP-1
プロトコル	X-MODEM Y-MODEM(-G)
ゲストID	GUEST
運用時間	24時間
入会方法	ゲストログイン後、 SYSOPあてメールにて申請

面倒な手続きはいっさいありません。オウムに興味をお持ちの方、聞いてみたいことがある方は、今すぐお気軽にご利用ください。

※ただ今、新入会員の方に素敵なプレゼント(えんじょい・はぴねす最新号)をさしあげています。

●なお、その他詳細は下記までお問い合わせください。
〒168 東京都杉並区宮前3-8-11
"オウム真理教ネット" 事務局 TEL 03-5370-1721

尊師対談ハイライト

最聖 麻原彰晃尊師は各界の有識者と対談されてきたが、その際次のような高い評価を受けている。



中沢新一氏（宗教学者・東京外大アジアアフリカ言語文化研修所助手）
「僕は彼(麻原尊師)がとても高度なことを考えている人で、高い意識状態を体験している人だと認めています。日本の今いるいろいろな宗教家のなかでも知性においてかなり上等なレベルにいる人だと思いました。今の日本で宗教をやっている人のなかで稀に見る素直な人なんじゃないかな」（『週刊ポスト』89年12月4日号より）



島田裕巳氏（宗教学者・日本女子大学助教授）
「『オウム』は最初はヨーガから始まったが、その後は、仏教の本来のスタイルに近づいている。日本の仏教は世俗化しているために『オウム』が特異な集団に見えるが、むしろ仏教の伝統を正しく受け継いでいる。パーリ語の仏典を訳したりして、勉強している点も、それを裏づけている。」（『週刊朝日』91年10月11日号より）



荒俣宏氏（作家）
「私は麻原尊師にかぎりない好感を抱いた。おそらく解脱した者は幼児のように他愛もないか、あるいは阿修羅のように熱狂的であるかの、どちらかだろう。……麻原彰晃がほんものの解脱者であるとして、かれが示す寛大の姿勢は、あきらかに前者の例といえるだろう。」（『０３』91年6月号より）



栗本慎一郎氏（経済人類学者）
「麻原さんのように煩悩を越えられた方は、非常に素晴らしいし、そこからの教えを説いていっていただきたいと思います」（『サンサーラ』92年1月号より）



「ビートたけしのテレビタックル」（91年12月30日放映）ビートたけし氏と対談。以前から尊師に会いたがっていたというたけし氏と話が弾んだ。録画終了後にたけし氏から尊師に個人的に話しかけがあり、後日『Bart』（集英社）誌上において再び対談がなされた。

各地の大学で大反響を呼んだ麻原尊師

昨年から今年にかけて、麻原尊師は日本全国の有名大学において学生を相手に講演し、いずれの地でも好評を博した。



東京大学の講演では、二階席のある大教室でも立ち見の出るほどの大盛況だった。大宇宙の創造のプロセスから社会問題まで広範な質問がなされたが、どの質問に対してもスパッと回答する尊師の明快さがきわ立っていた。

京都大学講演会においては、定員二百人の会場に、麻原尊師を一目見ようとした学生千三百人以上が詰めかけて大変な盛況を呈した。後半の大質問会では、時間を延長して、人類学や物理学の専門家からの問いに答える尊師に何度も熱い拍手が巻き起こっていた。





なお、国内のみならずロシアの大学においても講演が行なわれ、大反響を呼んだ。写真は日本でいえば東大に当たるモスクワ大学での講演（本年3月）。その他、モスクワ工科物理大学、モスクワ国際関係大学、モスクワラジオ電子自動制御大学でも行なわれ、超満員の聴衆が集まり、尊師への質問が殺到した。

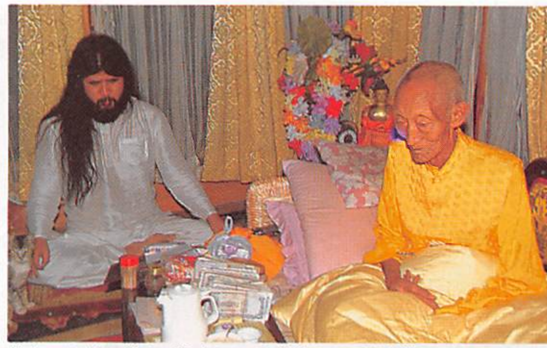
聖者からのメッセージ

「救世主はあなただ！」──聖者方に使命を託された最聖 麻原彰晃尊師

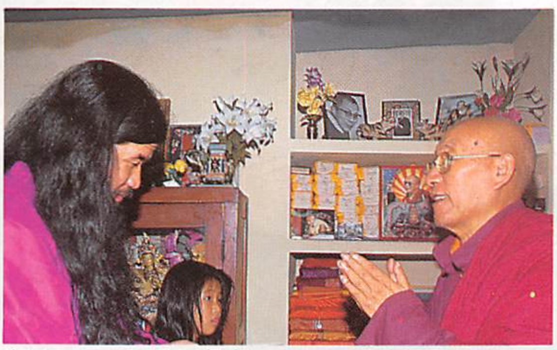
最高の修行ステージに到達された、最聖麻原彰晃尊師は、高い霊性と精神性を持つ世界中の聖者から、その修行ステージの高さを絶賛されている。



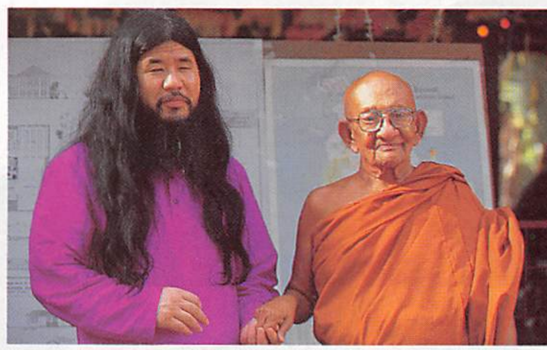
ダライ・ラマ法王（チベット仏教の政治・宗教の最高指導者）
「君（＝麻原尊師）が日本に本当の宗教を広めなさい。君ならそれができる。」（87年　インド・ダラムサラーにて）
「オウムは宗教的・社会的活動を通じて、人々の覚醒を促すよう努力する団体です。瞑想の実践方法を人々に指導するとともに、オウムの人たちは大乗仏教の伝統を引続き実践しています」（89年5月　親書）



故カール・リンポチェ師（チベット仏教カギュ派総帥）
「今生のわたしたちは大きな幸運に恵まれています。それは、仏陀（覚者＝目覚めた人）が現われて法を説き、その法が今なおここに存在している時代に、わたしたちは転生したからです。……それは皆さんのグル、麻原彰晃尊師です。」（88年8月　オウム真理教福岡支部道場にて）
「尊師は偉大な智慧と、偉大な法の理解、そして大いなる愛、すべてのものを助けようという願望を持っておられます。」（88年　同名古屋支部道場にて）



カムトゥール・リンポチェ師（元ダライ・ラマ法王宗教局長：チベット仏教ニンマ派の高僧）
「あなた（＝麻原尊師）は高い悟りを得ている。イェシェ（完全なる絶対なる神の叡智）のステージだ。完全にあなたの生きている意味合いは、衆生を済度するためである。」（91年5月　インド・ダラムサラーにて）
「麻原尊師は公の協力が得られた場合には、真に多くの人々に受け入れられる仏教の師として、日本に真の法を再び確立できるお方です。」（89年5月　親書）



アーナンダ・マイトリー高弟（仏教国スリランカナンバー１の瞑想家であり学者として同国国民から尊敬を集めている聖者：高弟とは「長老」の意）
「初めて尊師にお会いしたとき、尊師が今の時代、この地球に現われた偉大な聖者の一人であることを理解しました。尊師は偉大な宗教的師です。精神的に非常に高いレベルに達している方です。わたしは多くの修行者、グル（霊的指導者）に会いましたが、尊師ほど素晴らしいグルには会ったことがありません。」（92年5月　スリランカ・バランゴダにて）



スワミ・アカンダナンダ（歴史上傑出したヨーガ行者ラーマ・クリシュナ・パラマハンサの孫弟子：「功徳の聖者」と呼ばれている）
「あなたには特別の使命がある。……近い将来、日本はほとんど破壊されるでしょう。それは神の意思なのです。そのときに、歴史に姿を現わす新しい人類を率いなければならないのが、あなたです。」
「あなたには特別の任務がある。それは日本人を高い精神状態へと引き上げることです。」（86年　インド・ウッタルカシにて）



パイロット・ババ（インド政府より「マハリシ〈大聖者〉」の称号を受けている日本でも有名な超能力者：86年、日本でのサマディ実験がテレビで放映された）
「……日本だけではない。アメリカも、ソ連も、中国もいろいろな形で破壊されていくことだろう。しかし、救われる道は残されている。それは、日本人が正しい宗教を持つことである。そうすれば、日本は破壊を免れるに違いない。そう、あなたは日本を救うことができる。あなたは日本を救わねばならない。」（86年2月　インド・デリーにて）

へ羽ばたくオウム真理教

えは全世界へ広がるという。そして、予言
模に拡大し、各地で大歓迎を受けているのだ。

ロシアにて

麻原尊師はじめとするオウム真理教のメンバー約三百名は、今年三月ロシア共和国に公式招待された。



ルツコイ副大統領 「麻原尊師と会えて、とてもうれしい」



露日基金会長ロボフ氏（露日基金会長／前ソ連首相代行／現大統領直属専門評議会議長）
「オウム真理教の若いスタッフがモスクワで活躍することを望みます。」
「露日基金の会館が、モスクワの中心地にできます。その中の一部をオウム真理教の拠点にすればいいのではないでしょうか。」

ハズブラトフ最高会議議長（エリツィン大統領に次ぐロシア・ナンバー2の政治家）
「尊師が日本だけでなく、全世界で、その純粋な仏教の崇高な理念を普及するため、本当に偉大な活動をなさっていることをわたしはよく承知しております。この活動のますますのご成功と、ご健康をお祈りします」







オウム真理教の舞踏歌劇「死と転生」がクレムリン大会宮殿で行なわれた。六千百五十人収容の同会場は超満員となった。

ブータンにて

今年七月に尊師一行はブータン王国国賓として招かれ同国国王ならびに法王と会見した。
そして尊師は同国より〝最聖〟の称号を贈られた



法王と

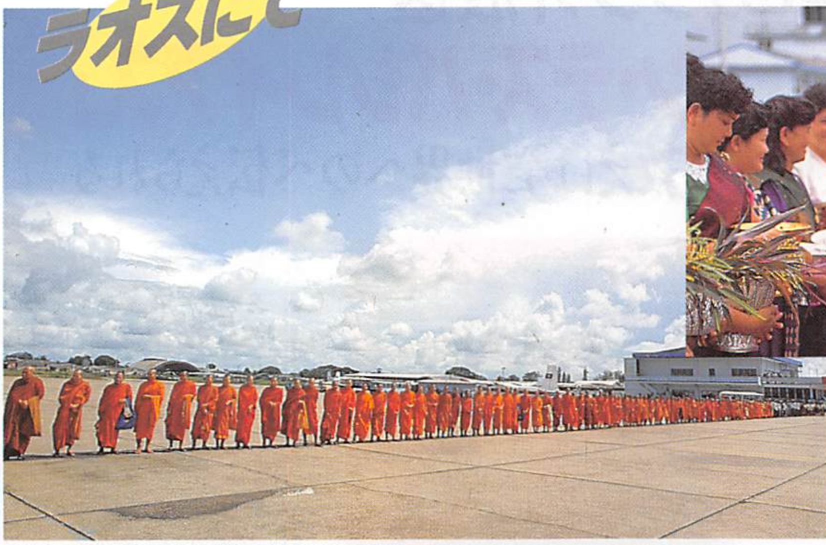


国王と

世界との交流——世界

予言によると、世紀末の救世主が説く教
どおり最聖 麻原彰晃尊師の活動は全世界的規

ラオスにて




麻原尊師は仏教国ラオスにおいても国賓として迎えられ、大歓迎を受けた。ラオス国民の温かい歓迎を受けた尊師一行

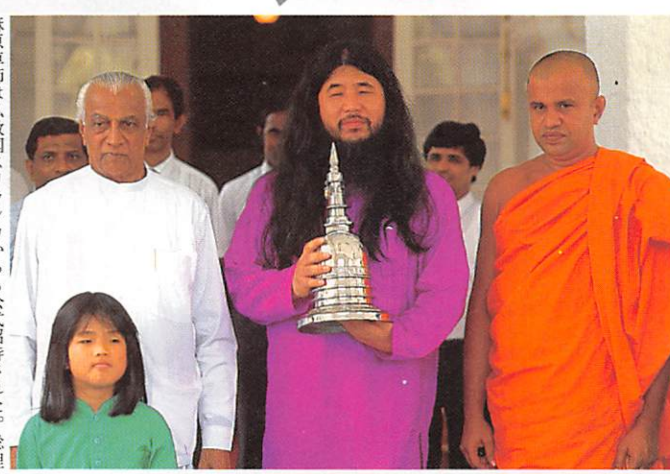
ラオスの出家修行僧による尊師一行に対する出迎え

スリランカにて

尊師を歓迎して日本語で歌を歌うスリランカの少女たち

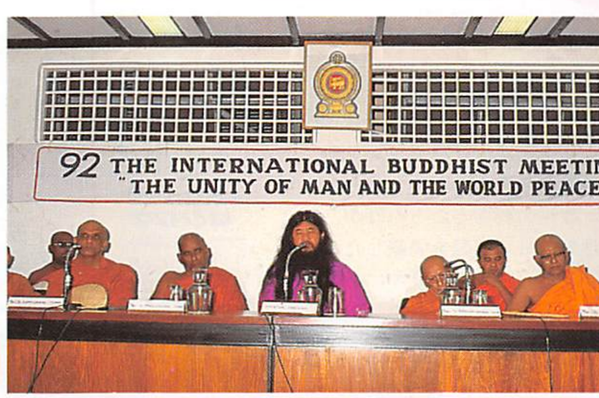


麻原尊師は仏教国スリランカからも公式招待された。総理大臣D・B・ビジェトゥンガ氏より仏舎利（仏陀釈迦牟尼の遺骨）を受け取る尊師





尊師を歓迎して集まったスリランカの民衆（ゲートの文字からは手作りの温かさが伝わってくる）



麻原尊師の呼びかけによって、「国際仏教会議」が開かれ、スリランカを代表する高僧の方々が出席された

を聴いたか？

オウム真理教のラジオ放送
「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」
——救世主の教えは全世界へのべ伝えられる

オウム真理教・最聖 麻原彰晃尊師の声があなたの耳を直撃！

今、オウム真理教では、日本全国に、そして全世界に向けては英語で、毎日ラジオ放送を行なっています。その名も「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」。ギリシャ語で「御国の福音」という意味です。

その名に違わず、番組内容は魅力たっぷり。ラジオから流れ出る〝福音〟は、きっと、あなたの心をときほぐし、安らぎを与えてくれるでしょう。そして、明日への新たな活力を与えてくれるに違いありません。



●主な番組内容

◎最聖 麻原彰晃尊師説法

大好評の尊師説法。最終解脱者の説き明かす真理の法則は、あなたのいかなる悩みや疑問でも解決してくれるでしょう。

◎わたしは見た！ これが尊師の超越神力

弟子が目撃してきた尊師の驚くべき神通力の数々。尊師が持っている人間を超えた神の力をレポートします。

◎リラクゼーションのコーナー

現代人を悩ませるストレスを昇華し、肉体と心に健康を呼び戻す秘儀を伝授。

◎麻原彰晃尊師のノストラダムスの大予言

『諸世紀』の原文翻訳のうえ、尊師が解脱者の智慧を駆使して解読するノストラダムスの予言。驚くべき人類の未来が今明らかに！

◎麻原尊師の運の良くなるザンゲコーナー

知能を発達させ、心を安定させる仏教の修行「ザンゲ」の方法をお教えします。

◎ミラクルパワー 神秘の世界を開け！

修行によって超人類へ変身していく過程で得られるミラクルパワーの世界を公開。

◎仏典を楽しもう

二六〇〇年の時を超えて復活した覚者サキャ神賢の法。あなたを「悟り」へと導く覚者の叡智をどうぞ。

◎ＳＴＥＰ ＵＰ 真理

生きることの本当の意味、宇宙や生命の神秘、なぜ修行が必要なのか。そのナゾに明快な回答をもたらす真理の法則をわかりやすく解説します。

◎今月の歌

尊師が作曲された真理の歌を歌おう。歌えば力がもりもりわいてくる！

その他にも番組内容はもりだくさん。一日の最後に、ゆっくり体を休めながら耳を傾けてみてください。いにしえの聖者方が説かれた「解脱」と「悟り」の素晴らしさが、心に染みて感じられることと思います。そして、あなたも超人類への道を歩みましょう！

・放送時間と周波数

中波 七二〇ｋＨｚ 二三：〇〇〜一：〇〇

短波
9／21〜10／31 一二・〇五五ＭＨｚ
11／1〜3／6 七・三一〇ＭＨｚ
3／7〜5／1 一五、三一五ＭＨｚ
二二：〇〇〜二三：〇〇

ラジオ・タイアップマガジン『えんじょい・はぴねす』プレゼント

「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」が10倍楽しくなるタイアップマガジン月刊『えんじょい・はぴねす』最新号をもれなくプレゼントします。放送の聴きどころのほか、オウム真理教の最新情報を満載したオールカラー80頁。巻末のハガキに必要事項を記入して、どしどしお申し込みください。



キミはもう尊師

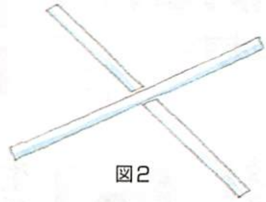


図2

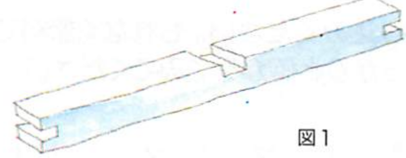


図1

エウアンゲリオンを10倍クリアに聴こう

日本全国どこでも聴ける「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」。この番組をもっと鮮明に聴きたいという方のために、簡単にできるループアンテナの作り方をご紹介します。

◉中波用ループアンテナの作り方

①長さ90センチ、太さ12ミリくらいの角材二本を図1のように加工し、組み合わせて接着し骨組をつくる。（図2）

②〇・五ミリくらいの太さのエナメル線を骨組みの端の切れ込みに沿わせ、十回巻きする。（図3a）

エナメル線の巻き始めと巻き終わりは、角材の端に穴を空け、その穴に通して数回巻きつけておくと解けないので作業がしやすい。（図3b）

③エナメル線の末端のある側の角材の端にポリバリコンを接着する。（図4）

④エナメル線の端を適当な長さに切り、サンドペーパー等で被覆をはがし、ポリバリコンの端子にハンダ付けする。（図4）

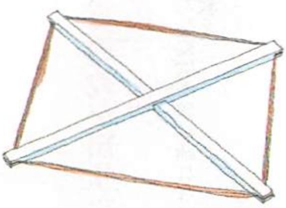


図3a

◉使い方

・ラジオを七二〇キロヘルツに合わせて受信する。

・ポリバリコンを回して、最もよい受信状態にする。

・ラジオとループアンテナをそのまま一緒に回してみて、最もよく受信できるようにする。

ラジオは図5のとおり、ループアンテナに対して常に垂直になるようにする。

◉材料

・バルサの角材（非金属であれば何でもいい）……12ミリ角を90センチ（2本）

・エナメル線太さ〇・五ミリを30メートル

・ポリバリコン（中波ラジオ用、単連）1個

●注意点

・ラジオはループアンテナの内側に配置する。外側だとあまり効果がない。

・鉄筋の建物では電波が届かず受信しづらいので、できるだけ窓際で聴く。

・コンピュータ、蛍光灯などの電気製品は雑音を発することが多いので、雑音の多いときは電源を切ってみる。

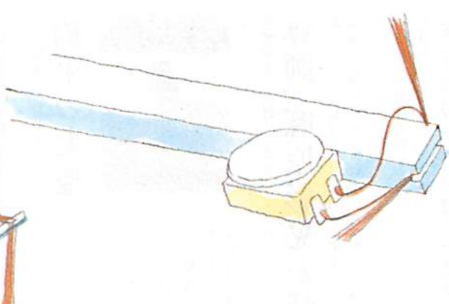


図4

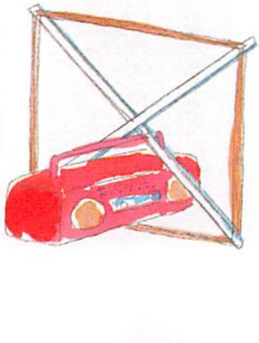


図5

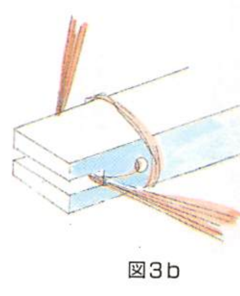


図3b

コーナー ——救世主の法をあなたに

最聖 麻原彰晃尊師の説く法とは？



でお申し込みください。もれなく無料でプレゼントいたします。
目でしっかりと確かめてみてください。

◆オウム真理教を知りたい方のための一〇冊

——この本なしには宗教は語れない！
絶対最勝の教え

絶対幸福の鍵を解く
生死を超える・増補改定版



解脱と悟り。それは人としての最高の宝物。八年の歳月を経て修行の最終地点に到達された尊師の体験が、解脱への道程を克明に語りかける。

真理勝者　絶対最勝の法則
タターガタ・アビダンマ
第一誦品　大宇宙の実相

オウム真理教の教義をやさしく教える入門書第一弾。真実の宇宙観と魂の落下のプロセスを詳述。

第二誦品　真理勝者の救済計画

サキャ神賢の教えの全体系が明かされる！ 魂が救済されていくプロセスと解脱への道程を詳述。

イニシエーション

最高の秘儀を惜しみなく公開。今日の日本と世界の動向を正確に予言している驚くべき記述の数々。

大乗ヨーガ経典
マハーヤーナ・スートラ

解脱の真理が実体験として証明された。解脱へのステップ、希代の体験談がすべてを語っている。

マハーヤーナ・スートラ PART2

サキャ神賢の教えと尊師の説法と弟子たちの体験談が満載。読み、考え、実践する「本物のお経」。

麻原彰晃の世界 PART1
幸福に至る四つの実践

仏教の基本ともいえる「四預流支」を麻原尊師が縦横無尽に説いた画期的な説法群。

麻原彰晃の世界 PART3
真実！六道輪廻

麻原尊師と高弟たちの瞑想体験が証明する六道輪廻の真実。間違いだらけの現代の死生観を正す。

麻原彰晃の世界 PART4
宗教にだまされるな！

霊障、水子供養、先祖供養……。この世にはびこる間違った観念を打破し、正しい意味を説く尊師。

麻原彰晃の世界 PART5
絶対の真理

運命の鍵を握る〝カルマの法則〟。すべての人がカルマに支配されていることを多数の例が証明！

◆真理をもっと深く学びたい方の本

——甦る釈迦牟尼の教え

麻原彰晃の世界 PART7
仏教真理・八正道



原始仏教の根幹をなす教え「八正道」。仏教の基礎ともいえるサキャ神賢直説の教えを、麻原尊師が正確かつ現代人にわかりやすく説く。

麻原彰晃の世界 PART8
仏教真理・六波羅蜜

仏教の基本的な教え「六波羅蜜」をただ一人の最終解脱者、麻原彰晃尊師がわかりやすく説いた。

麻原彰晃の世界 PART10
仏教真理・五蘊無我

わたしたちを構成する五つの要素(五蘊)を浄化し、不死へと至る教えを集大成した瞑想家待望の書。

麻原彰晃の世界 PART12
仏教真理・十二縁起

絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜へと至るプロセスを自ら体験された尊師が説く「十二縁起の法」の真実。

原始仏典講義 一

どんな学者も修行者も解き明かせなかったサキャ神賢の真理の法を麻原尊師が鋭く解説！

◆最聖 麻原彰晃尊師の魅力を探りたい人のための本

——真理勝者の叡智をあなたに

麻原彰晃の世界 スペシャル
約束の大地



インド・チベット・ラオス……仏教ゆかりの地を尊師が行く。尊師が初めて明かす高度な瞑想・秘儀の数々。その魅力を結集させたファン待望の書。

麻原彰晃の世界 PART2
尊師、麻原彰晃が斬る！

願望成就の秘法、UFO&宇宙人、医学、音楽、食養、輪廻転生等について麻原尊師が斬る！

チベット仏教の高僧が、インド・ヨーギが、世界の聖者が絶賛した！
麻原彰晃の聖者誕生

チベットの高僧をはじめとする聖者方が、唯一の最終解脱者麻原尊師について語った全記録を収録。

原爆覚醒

最高のイニシエーション(エネルギー移入)、「シャクティーパット」。今その詳細が明らかに。

麻原彰晃は魅せた
神通力

すべての魂の救済のための神通力とは？ 最終解脱者、麻原尊師の神通力を弟子たちが徹底追究。

オウム真理教の本プレゼント

世紀末の人類を救済するオウム真理教・

以下のオウム出版の本の中から、ご希望の一冊を選んで巻末のハガキ
予言されていた「超人類」の姿をあなたの

◆超能力を獲得したい方の手引書
——あなたの持っている本当の力

すべてが思いのままになる
超能力秘密の開発法 増補大改訂版
人が修行によって"人間"を超えようとするとき、必ず人智を超えた力が身につく。あの不朽のベストセラーが増補・大改訂されて今ここに登場。



あなたの持っている本当の力
超越神力

PART1
天耳通・他心通
人の魂に宿っている力"超越神力"。その神秘の力の秘密、そのすべてを今明らかに。

PART2
前生を知れ!・死生智の秘密
輪廻転生を繰り返しているわたしたちの魂。本書では、麻原尊師の興味深い前生体験を満載。

PART3
完全なる絶対なる神の叡智、漏尽通
最終解脱者だけが知る"完全なる絶対なる神の叡智"とは? 漏尽通の秘密が今明らかになる。

PART4
わたしは見た!これが尊師の超越神力
麻原彰晃尊師の"超越神力"を目の当たりにした内弟子の生の声を豊富に満載。

麻原彰晃の世界 PART6
願望成就の秘法
心からの幸福を願うすべての人々に、麻原尊師が仏教の願望成就の秘法をそっと伝授する。

能力覚醒の秘法を解く
多くの科学的智見を駆使して人が超人へと進化していくプロセスを解明し、その衝撃の秘法を公開。

麻原彰晃のズバリ!浮揚
二十八人の決定的瞬間、空中浮揚の仕組みを解説する仏教・ヨーガ理論。空中浮揚のすべてを満載!

麻原彰晃のザ・サマディ
サマディ——それは真の解脱者のみがなし得る奇跡。生死を超えた瞬間、彼らの見た世界とは?

実録・アンダーグラウンド・サマディ 一九九一
ザ・サマディ PART II
尊師の愛弟子マイトレーヤ正悟師が挑んだ「土中サマディ」、その奇跡を再現。

甦る聖者伝説
呼吸も止まった"死"の状態から、彼らは復活する。解脱者のみがなし得る奇跡、サマディの神秘。

人間から神に生まれ変わった麻原尊師の愛弟子たち
神通力者への道1〜4
尊師の指導のもと、秘儀を駆使して生まれ変わった弟子たち。彼ら「神通力者」のすべて。

そのステージに達した弟子が語るグル・麻原尊師と修行
マハー・ムドラー
仏典でいう"阿羅漢"の境地に達した高弟二人が語る、だれも知らないグル・尊師の姿、そして修行。

◆世紀末の行方を知りたい方の本
——大予言をズバリ解明

1999の謎
ノストラダムス秘密の大予言
ついに封印を解くべきときが来た! 自らの神秘力によって奇跡を見せた尊師が明かす衝撃の真実。遥かなる時間を経て今甦るノストラダムス——。



「黙示録大預言」の秘密のベールを剥ぐ
滅亡の日
『ヨハネの黙示録』の謎を麻原尊師が徹底的に解読。人類滅亡のシナリオの封印が解かれた。

「黙示録大預言」完全解読
滅亡から虚空へ(続・滅亡の日)
大破局後に来る新たなる闘いとは? だれにも解けなかった予言書のすべてが、今明らかにされる。

人類滅亡の真実
滅亡の真実を克明に説き明かす、真理勝者サキャ神賢と最終解脱者麻原尊師が贈る人類啓蒙の書。

Harmagedon 1
マンガ 滅亡の日
尊師が動き語る。未来ヴィジョンが迫ってくる。『ヨハネの黙示録』の謎がヴィジュアルに!

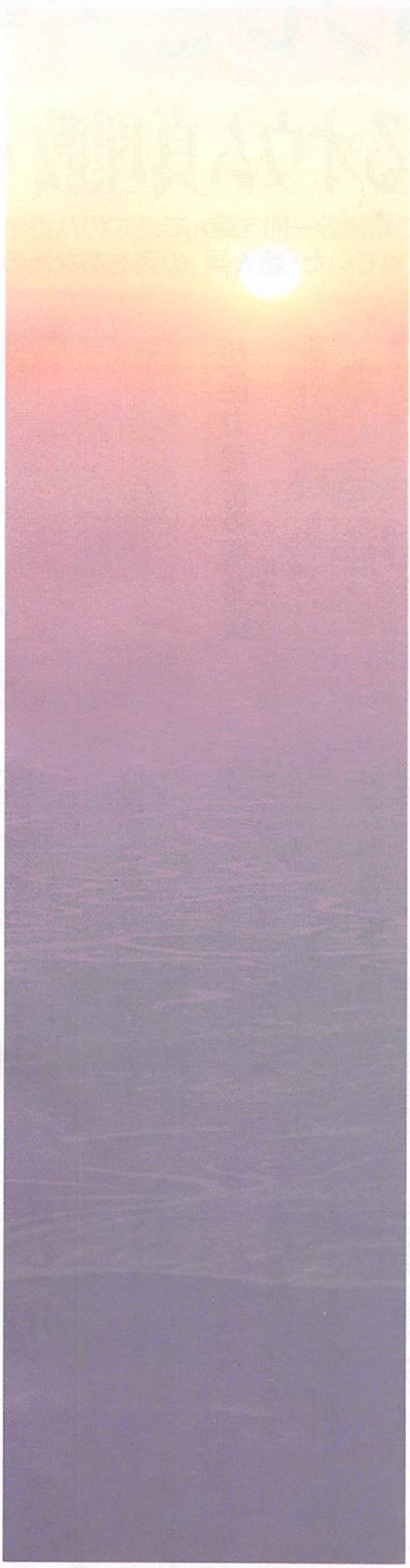
◆宗教に疑問をお持ちの方の本
——邪法を正す書

キリストの教えのすべてを明かす
PART1
キリスト宣言
日本でただ一人の最終解脱者、オウム真理教麻原彰晃尊師が説く、これがイエスの真実だ。この一冊でイエス・キリストの教えのすべてがわかる!



PART2 再臨・裁き・終末
神の審判のとき、この世は破滅する——「聖書」にあるイエス・キリストの予言をいよいよ解読。

幸福の科学の会員よ聞きなさい!
真実の仏陀の教えはこうだ!
すべての仏典を熟知した最終解脱者、麻原彰晃尊師が大川流仏法の大ウソをズバリと正す!



◆── 各道場のご案内 ──◆

富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部（杉並道場） 03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
大阪支部　06(397)1022
〒532　大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
那覇支部　098 (869) 7707
〒902　沖縄県那覇市安里2-4-12 嘉数グラビアハイツ5F
堺支部　0722 (21) 1843
〒590　大阪府堺市海山町4-168-9
高崎支部　0273(46)1573
〒370-12　群馬県高崎市倉賀野町下稲荷前1081-5
福井支部　0776 (26) 6145
〒910　福井県福井市御幸3-3-41 東伸ビル2F
松本支部　0263(28)7429
〒399　長野県松本市芳川野溝527-3
深谷出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市萱場441-8
渋谷出張所　03 (3476) 5065
〒150　東京都渋谷区道玄坂1-15-3　プリメーラ道玄坂317号

〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hügel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany
スリランカ支部（AUM SACCA SANGHA ASSOCIATION）
Horahena, Watte, Angulugaha, Galle, Sri Lanka
モスクワ支部　095-451-62-41
Kindergarten No.468 ul. Dybenko, 6A, Moscow, 125475, Russia

理想社会 10
1992年9月5日発行
定　価　1,000円
監　修　最聖 麻原彰晃尊師
発行者　青山吉伸
発行所　オウム出版
〒156　東京都世田谷区世田谷2-8-17
電話　03(3439)6043　振替　東京2-109325
※乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

オウム真理教の本と『えんじょい・はぴねす』最新号をプレゼント！



PRESENT





下のハガキでお申し込みの方にもれなく無料で、ご希望のオウム真理教の本と、オウム真理教のラジオ放送『エウアンゲリオン・テス・バシレイアス』が10倍楽しめるタイアップマガジン『えんじょい・はぴねす』最新号をプレゼントいたします。

詳しくは、本文の「キミはもう尊師を聴いたか？──オウム真理教ラジオ放送開始」と「オウム真理教の本プレゼントコーナー」をご覧ください。

おハガキお待ちしています。

※なお、ご希望の方には、あわせて『理想社会９』も差し上げます。ハガキの「ご希望になるオウム出版の本」の項目の最後部に、「９希望」とお書き添えください。

キリトリ線

キリトリ線

郵便はがき

１６８

料金受取人払

杉並南局承認

359

差出有効期間
平成６年８月
24日まで有効
（切手不要）

東京都杉並区宮前
３−８−１１

オウム出版
理想社会係　行

オウム出版の本、および「えんじょい・はぴねす」プレゼントカード
詳しくは本文をご覧ください。

フリガナ お名前	性別 男・女　年齢 歳
フリガナ ご住所	〒 −　TEL.（ ）　都道府県　内 様方
ご職業	①学生 ②主婦 ③会社員 ④自営 ⑤公務員 ⑥その他（ ）
興味のあるジャンル	①超能力・UFO・オカルト ②思想・哲学・宗教 ③健康・食養 ④自然科学 ⑤エコロジー・環境問題 ⑥政治・経済 ⑦ドキュメンタリー ⑧武道・スポーツ ⑨文芸 ⑩コミック ⑪歴史 ⑫その他（ ）
ご希望になるオウム出版の本	
「えんじょい・はぴねす」ご希望ですか	YES　NO
理想社会 第（ ）号をお読みになっての感想	

